

第7回

和牛甲子園

結果報告書



和牛甲子園

令和6年1月18日・19日

全農

主催：全国農業協同組合連合会

後援：文部科学省
農林水産省
独立行政法人農畜産業振興機構
独立行政法人家畜改良センター
東京都中央卸売市場食肉市場
東京食肉市場株式会社
全国農業高等学校長協会
日本学校農業クラブ連盟
公益財団法人全国学校農場協会
公益社団法人全国食肉学校
一般社団法人全国農業協同組合中央会
JA全農ミートフーズ株式会社

協賛：三洋貿易株式会社
株式会社ワイピーテック
富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
農林中央金庫
共栄火災海上保険株式会社
公益社団法人中央畜産会
公益社団法人全国食肉学校
協同乳業株式会社
全農畜産サービス株式会社
株式会社科学飼料研究所
株式会社全農ビジネスサポート
全農サイロ株式会社
ホクレンくみあい飼料株式会社
JA全農北日本くみあい飼料株式会社
JA東日本くみあい飼料株式会社
JA西日本くみあい飼料株式会社
ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社
南日本くみあい飼料株式会社
全農チキンフーズ株式会社
JA全農たまご株式会社
JA全農ミートフーズ株式会社

第7回和牛甲子園ホームページ
大会の様子はこちらでもご覧いただけます。
<https://wagyukoushien.com>



大会当日の様様

1日目： <https://youtube.com/live/E-AqiO0kTDk>
2日目： <https://youtube.com/live/qfsfZQmqDlo>



1日目



2日目





目次

開会あいさつ	1
大会概要／タイムスケジュール	2
開催意義・目的／出場校一覧	3
和牛飼育体験発表会 タイトル	4
出品牛一覧	5～6
選手宣誓／審査委員一覧	7
祝辞紹介（開会式）	8～9
褒賞式あいさつ	10
祝辞紹介（褒賞式）	11～13
大会結果	14
総合評価部門 最優秀賞	
取組評価部門 審査委員特別賞 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	15～16
枝肉評価部門 最優秀賞	
取組評価部門 最優秀賞・高校牛児特別賞 岐阜県立 加茂農林高等学校	17～18
優秀賞 神奈川県立 中央農業高等学校	19
優秀賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校	20
優良賞 岐阜県立 大垣養老高等学校	21
優良賞 愛知県立 渥美農業高等学校	22
優良賞 宮崎県立 高鍋農業高等学校	23
審査委員特別賞 京都府立 農芸高等学校	24
審査講評	26～27
体験発表会カンファレンス	28～29
枝肉評価部門 最優秀賞 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	30
優秀賞 福島県立 会津農林高等学校	31
優秀賞 岐阜県立 飛騨高山高等学校	32
優良賞 京都府立 農芸高等学校	33
優良賞 宮崎県立 高鍋農業高等学校	34
優良賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校	35
審査委員特別賞 栃木県立 栃木農業高等学校	36
審査講評	37～41
枝肉断面一覧	42～49
枝肉評価部門 成績一覧	50
褒賞及び受賞結果	51
先輩“高校牛児”講話	52～53
第7回和牛甲子園 特別授業（講演会）	54
和牛甲子園に参加して	55～76
大会風景	78
第7回和牛甲子園 開催要領	81～88
審査基準・褒賞について	89～91
協力者一覧	92





和牛甲子園

開会あいさつ



ただいまご紹介いただきました、全農の齊藤でございます。主催者を代表しまして、ひとことごあいさつ申し上げます。

まずはこの度、能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。そして、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、本日第7回和牛甲子園の開催にあたりまして、農林水産省様、文部科学省様、独立行政法人農畜産業振興機構様、公益社団法人中央畜産会様をはじめ、関係機関・団体のご来賓のみなさま、ならびに畜産・食肉業界からも多数のご参加をいただきました。本当にありがとうございます。

また、東京都中央卸売市場 食肉市場様、全国農業高等学校長協会様をはじめとする学校関係のみなさま、東京食肉市場 株式会社様をはじめ、ご後援を頂いたみなさま、ならびに審査委員の先生方には、企画や準備の段階から格別のご指導を賜りましたことに重ねて御礼を申し上げます。

ここ数年猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症が、昨年5類感染症に移行されたことで、生活は日常に戻り、社会経済活動は回復しつつあります。コロナ禍において、和牛甲子園もオンライン開催や実開催を含むハイブリッド開催を余儀なくされましたが、今回の第7回大会は、4年ぶりにすべての高校が会場に実参加して頂くことができました。久々に実開催ならではの臨場感や熱気を感じて頂けるのではと思っています。また、本日のプログラムで、生徒同士の交流促進を目的とした体験発表会カンファレンスを予定していますので、ぜひ全国の仲間たちと積極的に意見交換をして頂きたいと考えます。加えて、先輩高校牛児による講話では、第3回、4回大会で総合優勝を果たした鹿児島県立市来農芸高等学校の卒業生に登壇して頂きます。さらに、特別授業では、海外で和牛の魅力を伝える活動をされている着物ブッチャーの講演も予定していますので、ぜひ楽しみになさってください。本大会には、新たに福岡県と大分県の2県、2校の参加があり、参加高校は合計25道府県、41校と、過去最大の規模となり、主催者として大変嬉しく思っているところです。

さて、この大会の主人公である高校生みなさんに、和牛甲子園のねらいと私たちの思いについてお話しさせていただきます。

一つ目のねらいは、高校で和牛を飼育されているみなさんに、ぜひ将来の担い手になってほしいということです。わが国で肉牛を飼養する農家は年々減少しています。高校に入学して、たまたま和牛と出会ったという方も少なくないと思いますが、そうしたみなさんにも、和牛甲子園を通して、「和牛飼育は楽しい、一生の仕事にしてみよう」と、是非思ってもらいたいということです。

二つ目のねらいは、日頃みなさんが取り組まれている活動内容の共有化を通じて、牛飼いの楽しさや奥深さを分かちあえる仲間を作ってもらいたいということです。同じ世代の仲間たちの創意工夫あふれる取組みを学ぶことは、必ずみなさんの今後の成長につながると確信しております。

この大会がそのようなきっかけになってほしいと心から願っています。

そして、こうした次の世代を担う若いみなさんに、私たちJAグループをはじめ、畜産関係者全員が心から応援していることをお伝えしたい、これが私たちの思いです。

現在、畜産を取り巻く状況は、配合飼料や生産資材価格の高止まり等による生産コスト高が続き、大変厳しい状況にあります。こうしたなか、本会は和牛の消費拡大を目的に「ちょっといい日に和牛をたべよう!」を合言葉とする消費喚起策に取り組んでいるところです。

むすびに、この2日間が、皆さまにとって有意義で充実したものとなりますことを祈念して、「第7回 和牛甲子園」開会の挨拶といたします。

本日は、よろしくお願いいたします。

令和6年1月18日

全国農業協同組合連合会 常務理事

齊藤 良樹





和牛甲子園

大会概要／タイムスケジュール

和牛甲子園とは

全国には農業高校が300校余りあり、その中でも畜産学科が設置されている学校を中心に、授業やクラブ活動の一環として高校生の手によって和牛が飼育されています。そんな、全国の高校生と、彼らが育てた和牛が集まり、日ごろの和牛飼育の取り組みを発表し、その成果としての枝肉の肉質を競い合う大会、それが「和牛甲子園」です。

名称：第7回和牛甲子園

日程：令和6年1月18日（木）・19日（金）

1日目：和牛飼育体験発表会 他／2日目：和牛枝肉 勉強会・共励会 他

会場：品川グランドホール（THE GRAND HALL）／東京都中央卸売市場食肉市場

主催：全国農業協同組合連合会

後援：文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、独立行政法人家畜改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農場協会、公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、JA全農ミートフーズ株式会社

協賛：三洋貿易株式会社、株式会社ワイピーテック、富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社、農林中央金庫、共栄火災海上保険株式会社、公益社団法人中央畜産会、公益社団法人全国食肉学校、協同乳業株式会社、全農畜産サービス株式会社、株式会社科学飼料研究所、株式会社全農ビジネスサポート、全農サイロ株式会社、ホクレンくみあい飼料株式会社、JA全農北日本くみあい飼料株式会社、JA東日本くみあい飼料株式会社、JA西日本くみあい飼料株式会社、ジェイエィ北九州くみあい飼料株式会社、南日本くみあい飼料株式会社、全農チキンフーズ株式会社、JA全農たまご株式会社、JA全農ミートフーズ株式会社

タイムスケジュール

1日目 1月18日（木）

時 間	次 第	場 所
13：00～13：40	開会式	品川グランドホール (THE GRAND HALL)
13：45～14：55	和牛飼育体験発表会 (結果発表・入賞校発表・講評)	
15：05～15：45	先輩“高校牛児”講話	
16：10～17：10	体験発表会カンファレンス	
17：30～18：00	学校交流会	
	1日目終了	

2日目 1月19日（金）

時 間	次 第	場 所
8：00～9：30	和牛枝肉勉強会	東京都中央卸売市場食肉市場
9：30～10：30	和牛枝肉共励会	
10：30～11：15	移動	
11：30～12：00	特別授業（講演会）	品川グランドホール (THE GRAND HALL)
12：00～13：00	昼食・休憩	
13：00～13：30	枝肉勉強会まとめ 入賞牛解説	
13：45～14：45	褒賞式	
14：45～15：30	入賞校写真撮影・取材	
	解散	

※大会の進行によっては、時間が前後する可能性があります。



和牛甲子園

開催意義・目的／出場校一覧

1 参加生徒の目標・目的意識の場の設定

農業高校において和牛飼育実習を行っている生徒に対し、目標となる場を設定し、「和牛甲子園大会出場」という目標・目的意識をもたせることにより、学習効果の向上と合わせ、畜産業界への関心を高めてもらう。

2 将来の担い手候補である高校生間のネットワーク作り

“高校牛児”として同じ志を持つライバルを日本各地に見出し、お互いに切磋琢磨し合うような同世代との交流の場を創出する。

第7回和牛甲子園出場校一覧

学校 No.	出品 No.	出 場 校	出場 回数	出品 頭数	(参考) 第 6 回和牛甲子園の結果
1	1	北海道倶知安農業高等学校	2	1	取組評価部門 優秀賞
2	2	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	2	1	
3	3,4	青森県立三本木農業恵拓高等学校	4	2	
4	5,6	岩手県立水沢農業高等学校	7	2	
5	7,8	岩手県立盛岡農業高等学校	4	2	
6	9,10	岩手県立花巻農業高等学校	3	2	
7	11	宮城県農業高等学校	3	1	
8	12,13	福島県立会津農林高等学校	5	2	
9	14,15	福島県立磐城農業高等学校	4	2	枝肉評価部門 優良賞
10	16,17	茨城県立水戸農業高等学校	2	2	
11	18,19	栃木県立宇都宮白楊高等学校	7	2	
12	20,21	栃木県立鹿沼南高等学校	7	2	
13	22,23	栃木県立栃木農業高等学校	7	2	取組評価部門 優良賞
14	24,25	栃木県立那須拓陽高等学校	7	2	
15	26,27	栃木県立真岡北陵高等学校	6	2	
16	28,29	栃木県立矢板高等学校	7	2	枝肉評価部門 最優秀賞
17	30,31	群馬県立利根実業高等学校	5	2	
18	32,33	群馬県立吾妻中央高等学校	2	2	
19	34	神奈川県立中央農業高等学校	5	1	取組評価部門 優良賞
20	35	富山県立中央農業高等学校	7	1	
21	36	岐阜県立大垣養老高等学校	6	1	総合評価部門 最優秀賞 枝肉評価部門 優秀賞
22	37,38	岐阜県立加茂農林高等学校	7	2	
23	39	岐阜県立飛騨高山高等学校	7	1	枝肉評価部門 優良賞
24	40,41	愛知県立渥美農業高等学校	5	2	取組評価部門 高校牛児特別賞 枝肉評価部門 審査委員特別賞
25	42,43	滋賀県立長浜農業高等学校	6	2	
26	44	京都府立農芸高等学校	2	1	取組評価部門 優良賞
27	45	島根県立出雲農林高等学校	7	1	枝肉評価部門 優良賞
28	—	岡山県立瀬戸南高等学校	5	※	
29	46	広島県立西条農業高等学校	5	1	取組評価部門 優秀賞
30	—	広島県立庄原実業高等学校	2	※	
31	—	山口県立大津緑洋高等学校	4	※	
32	—	福岡県立糸島農業高等学校	初	※	
33	—	大分県立久住高原農業高等学校	初	※	
34	47	佐賀県立唐津南高等学校	7	1	
35	—	長崎県立諫早農業高等学校	4	※	
36	48,49	熊本県立南稜高等学校	5	2	
37	50,51	宮崎県立高鍋農業高等学校	3	2	
38	52,53	鹿児島県立市来農芸高等学校	6	2	取組評価部門 最優秀賞
39	54,55	鹿児島県立鶴翔高等学校	7	2	
40	56,57	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	7	2	取組評価部門 審査委員特別賞
41	58,59	鹿児島県立曾於高等学校	6	2	
合計				59	

※第3回大会より、次年度の和牛甲子園に出場予定の高校については、和牛飼育体験発表会へのみの出場も可能としている。



和牛甲子園

和牛飼育体験発表会 タイトル

和牛飼育体験発表会

学校 No.	学校名	題 名
1	北海道倶知安農業高等学校	ようてい和牛プロジェクト ～地域と歩む、持続可能な和牛生産を目指して～
2	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	とわの森三愛初出品!!～未利用資源を利用した和牛肥育を目指して～
3	青森県立三本木農業恵拓高等学校	高オレイン酸ヒマワリ VS エコフィード ～美味しい牛肉はどっちだ!??～
4	岩手県立水沢農業高等学校	目指せ!枝肉評価部門最優秀賞!!～酒粕けえして、うんめえべゴになりました!～
5	岩手県立盛岡農業高等学校	牛床にこだわる牛づくり
6	岩手県立花巻農業高等学校	小豆と大豆と私たち ～アニマルウェルフェアを意識した健康的な肥育管理を目指して～
7	宮城県農業高等学校	酪農JK～仙台牛への挑戦～
8	福島県立会津農林高等学校	最上級の黒べこを目指して ～地産地笑に向けた取り組み～
9	福島県立磐城農業高等学校	先輩から受け継いだ絆! 今!～開花するとき～
10	茨城県立水戸農業高等学校	Challenge ～安心・安全な和牛生産を目指して～ 2023
11	栃木県立宇都宮白楊高等学校	粗飼料自給100%を目指して
12	栃木県立鹿沼南高等学校	新たな資源を利用した肥育に挑戦 ～和牛が繋げた畜産の輪～
13	栃木県立栃木農業高等学校	栃農動物科学科の今年度の取り組み
14	栃木県立那須拓陽高等学校	私たちの「匠」物語
15	栃木県立真岡北陵高等学校	私たちの1年間の取り組み ～ #エコフィード結果 #繁殖改善 #お灸 ～
16	栃木県立矢板高等学校	持続可能な肉牛生産を目指して ～森林資源の活用とアニマルウェルフェア～
17	群馬県立利根実業高等学校	和牛とともに歩んだ1年間
18	群馬県立吾妻中央高等学校	吾妻中央高校における和牛肥育の取り組みと地域貢献の活動
19	神奈川県立中央農業高等学校	中農和牛で繋ぐ地域の環 ～地域と共存した和牛飼育実現に向けて～
20	富山県立中央農業高等学校	JGAP認証のその先
21	岐阜県立大垣養老高等学校	健康な和牛にミニバラを添えて ～あなたの食卓を彩ります～
22	岐阜県立加茂農林高等学校	I LOVE 飛騨牛 ～未来を切り拓く私たちの挑戦～
23	岐阜県立飛騨高山高等学校	稲わらの長さによる飛騨牛の増体重について
24	愛知県立渥美農業高等学校	安心・安全・幸せな牛舎 アニマルウェルフェア認証・普及に挑戦
25	滋賀県立長浜農業高等学校	SDGsを活かす近江牛生産への取り組み
26	京都府立農芸高等学校	届けます!! 夢と希望をつめ込んで 京の肉で明日に向かう!
27	島根県立出雲農林高等学校	しまねの良さを牛と ～日本一の肉質を全国へ～
28	岡山県立瀬戸南高等学校	エコフィードを使った地域と環境に優しい牛づくり～ぼっけえ頑張った『たかのひめ』～
29	広島県立西条農業高等学校	プロジェクトⅧ ～愛情込めて育てた広島和牛!快適な安眠でBIGにな～れ!!～
30	広島県立庄原実業高等学校	比婆牛の新たな価値を創る
31	山口県立大津緑洋高等学校	長門の牛を全国へ～地域資源の活用～
32	福岡県立糸島農業高等学校	小さな畜産経営の魅力を再発見!
33	大分県立久住高原農業高等学校	みんなの期待を形に ～継続した地域との繋がりを目標として～
34	佐賀県立唐津南高等学校	初めての一貫経営で学んだこと
35	長崎県立諫早農業高等学校	これまでも、そしてこれからも!!クリーンミートの生産を目指して!
36	熊本県立南稜高等学校	「ミニワスプ」を用いたサシバエ対策に関する研究
37	宮崎県立高鍋農業高等学校	えのきでつくる 未来へ残る牛づくり ～ 高農和牛の挑戦 ～
38	鹿児島県立市来農芸高等学校	ミライはぼくらが創る! ～今の畜産情勢を乗り越えるために～
39	鹿児島県立鶴翔高等学校	牛にも人にも良い環境で パートⅢ ～ストレス軽減に向けた私たちの取り組み～
40	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	地域資源の活用で和牛の魅力を未来へつなぐ ～竹の利用で継続できる経営～
41	鹿児島県立曾於高等学校	目指せストレスフリー! 獲るぞ日本一! 我らが育てた鹿児島黒牛 Vol.5



和牛甲子園

出品牛一覧

出品 番号	枝肉 番号	性別	県	農協名	学校名 (出品者氏名)	住所	素牛産地	血統			生後 月齢	生年月日	個体識別番号
								父	母の父	母の祖父			
1	51	去勢	北海道	JAようてい	北海道 倶知安農業高等学校	北海道虻田郡	北海道	第1花藤	勝早桜5	北平安	29	R3.8.3	14304-15044
2	52	雌	北海道	JA道央	酪農学園大学附属 とわの森三愛高等学校	北海道江別市	北海道	勝美糸	北平安	安福久	30	R3.7.11	16179-21474
3	53	去勢	青森	JA全農青森県本部	青森県立 三本木農業恵拓高等学校	青森県十和田市	青森県	忠光安	第1花国	平茂勝	33	R3.4.10	15909-20341
4	54	去勢	青森	JA全農青森県本部	青森県立 三本木農業恵拓高等学校	青森県十和田市	青森県	美津照重	優福栄	勝忠平	28	R3.9.7	15785-20402
5	55	去勢	岩手	JA岩手ふるさと	岩手県立 水沢農業高等学校	岩手県奥州市	岩手県	美津福勝	幸紀雄	光平照	32	R3.5.11	16321-82317
6	56	去勢	岩手	JA岩手ふるさと	岩手県立 水沢農業高等学校	岩手県奥州市	岩手県	福之姫	百合白清2	勝忠平	31	R3.5.23	16321-82324
7	57	去勢	岩手	JA新しいわて	岩手県立 盛岡農業高等学校	岩手県滝沢市	岩手県	百合白清2	安福久	百合茂	28	R3.9.17	15747-12535
8	58	去勢	岩手	JA新しいわて	岩手県立 盛岡農業高等学校	岩手県滝沢市	岩手県	福増	百合茂	安福久	27	R3.9.26	15747-12566
9	59	去勢	岩手	JAいわて花巻	岩手県立 花巻農業高等学校	岩手県花巻市	岩手県	福之姫	来待招福	菊茂勝	29	R3.7.22	14547-97799
10	60	去勢	岩手	JAいわて花巻	岩手県立 花巻農業高等学校	岩手県花巻市	岩手県	福之姫	美津照重	菊茂勝	29	R3.7.22	14547-97782
11	61	去勢	宮城	JA名取岩沼	宮城県 農業高等学校	宮城県名取市	宮城県	洋糸波	幸紀雄	安福久	30	R3.7.17	16384-14931
12	62	雌	福島	JA会津よつば	福島県立 会津農林高等学校	福島県河沼郡	福島県	福之姫	諒太郎	安福久	31	R3.6.15	15162-94440
13	63	去勢	福島	JA会津よつば	福島県立 会津農林高等学校	福島県河沼郡	福島県	勝早桜5	安福久	百合茂	30	R3.6.24	16542-07289
14	64	去勢	福島	JA福島さくら	福島県立 磐城農業高等学校	福島県いわき市	福島県	美国桜	聖香藤	安福久	30	R3.7.1	14178-77568
15	65	去勢	福島	JA福島さくら	福島県立 磐城農業高等学校	福島県いわき市	福島県	諒太郎	美津照重	百合茂	30	R3.7.13	14129-52529
16	66	去勢	茨城	JA常陸	茨城県立 水戸農業高等学校	茨城県那珂市	茨城県	聖香藤	茂晴花	美津照重	28	R3.8.21	16400-67873
17	67	去勢	茨城	JA常陸	茨城県立 水戸農業高等学校	茨城県那珂市	茨城県	福之姫	勝忠平	安福久	28	R3.8.25	08717-48520
18	68	去勢	栃木	JAしおのや	栃木県立 宇都宮白楊高等学校	栃木県宇都宮市	栃木県	勝早桜5	安福久	金幸	29	R3.8.17	08722-38587
19	69	雌	栃木	JAしおのや	栃木県立 宇都宮白楊高等学校	栃木県宇都宮市	栃木県	福之姫	安福久	勝忠平	29	R3.8.9	14006-28269
20	70	去勢	栃木	JAかみつが	栃木県立 鹿沼南高等学校	栃木県鹿沼市	栃木県	花清久	百合茂	勝忠平	30	R3.7.15	16122-70140
21	71	去勢	栃木	JAかみつが	栃木県立 鹿沼南高等学校	栃木県鹿沼市	栃木県	美津照重	安福久	百合茂	29	R3.7.26	16122-70157
22	72	去勢	栃木	JAしもつけ	栃木県立 栃木農業高等学校	栃木県栃木市	栃木県	関平照	茂勝栄	北国7の8	30	R3.6.23	15977-50965
23	73	去勢	栃木	JAしもつけ	栃木県立 栃木農業高等学校	栃木県栃木市	栃木県	百合茂	安福久	勝忠平	29	R3.8.15	15158-06057
24	74	雌	栃木	JAなすの	栃木県立 那須拓陽高等学校	栃木県那須塩原市	栃木県	福之姫	美津照重	安茂勝	33	R3.4.1	16122-78559
25	75	去勢	栃木	JAなすの	栃木県立 那須拓陽高等学校	栃木県那須塩原市	栃木県	美国桜	百合茂	安福久	32	R3.5.10	16122-78573
26	76	雌	栃木	JAはが野	栃木県立 真岡北陵高等学校	栃木県真岡市	栃木県	福之姫	華春福	安福久	32	R3.4.19	15956-89366
27	77	去勢	栃木	JAはが野	栃木県立 真岡北陵高等学校	栃木県真岡市	栃木県	福之姫	安福久	勝忠平	28	R3.8.27	16510-08926
28	78	去勢	栃木	JAしおのや	栃木県立 矢板高等学校	栃木県矢板市	栃木県	実有貴	平茂晴	福栄	30	R3.7.5	16467-11602
29	79	雌	栃木	JAしおのや	栃木県立 矢板高等学校	栃木県矢板市	栃木県	夏百合	北国7の8	菊安 (事業団)	31	R3.6.17	16467-11596
30	80	去勢	群馬	JA利根沼田	群馬県立 利根実業高等学校	群馬県沼田市	群馬県	知恵久	芳之国	安福久	31	R3.6.15	16028-04225



和牛甲子園

出品牛一覧

出品 番号	枝肉 番号	性別	県	農協名	学校名 (出品者氏名)	住所	素牛産地	血統			生後 月齢	生年月日	個体識別番号
								父	母の父	母の祖父			
31	81	去勢	群馬	JA利根沼田	群馬県立 利根実業高等学校	群馬県沼田市	群馬県	福之姫	美津百合	芳之国	31	R3.6.17	16028-04232
32	82	去勢	群馬	JAあがつま	群馬県立 吾妻中央高等学校	群馬県吾妻郡	群馬県	若百合	福之姫	安福久	32	R3.5.18	16270-26657
33	83	去勢	群馬	JAあがつま	群馬県立 吾妻中央高等学校	群馬県吾妻郡	群馬県	福之姫	百合茂	安福久	30	R3.6.22	16331-26693
34	84	去勢	神奈川	JAさがみ	神奈川県立 中央農業高等学校	神奈川県海老名市	神奈川県	福之姫	福安照	平茂勝	33	R3.4.18	16024-41017
35	85	去勢	富山	JAあおば	富山県立 中央農業高等学校	富山県富山市	富山県	美津照重	安茂勝	福安福	28	R3.9.5	16168-63911
36	86	去勢	岐阜	JAにしみの	岐阜県立 大垣養老高等学校	岐阜県養老郡	岐阜県	福平国	白清85の3	光平福	28	R3.8.20	15446-02736
37	87	去勢	岐阜	JAめぐみの	岐阜県立 加茂農林高等学校	岐阜県美濃加茂市	岐阜県	安俊晴	福糸桜王	第2平茂勝	30	R3.6.21	16130-68999
38	88	雌	岐阜	JAめぐみの	岐阜県立 加茂農林高等学校	岐阜県美濃加茂市	岐阜県	安俊晴	白清85の3	忠富士	31	R3.6.2	14153-45908
39	89	雌	岐阜	JAひだ	岐阜県立 飛騨高山高等学校	岐阜県高山市	岐阜県	孝隆平	花清光	羅威傳王	28	R3.8.23	14787-82818
40	90	雌	愛知	JA愛知みなみ	愛知県立 渥美農業高等学校	愛知県田原市	愛知県	幸紀雄	安福久	平茂勝	30	R3.7.2	16370-74495
41	91	雌	愛知	JA愛知みなみ	愛知県立 渥美農業高等学校	愛知県田原市	愛知県	幸紀雄	安福久	福之国	30	R3.6.30	13862-40622
42	92	雌	滋賀	JA全農滋賀県本部	滋賀県立 長浜農業高等学校	滋賀県長浜市	滋賀県	茂晴花	百合勝安	福安照	32	R3.5.11	16321-62784
43	93	雌	滋賀	JA全農滋賀県本部	滋賀県立 長浜農業高等学校	滋賀県長浜市	滋賀県	美津百合	賢茂勝	照長土井	31	R3.6.8	16321-62791
44	94	去勢	京都	JA全農京都府本部	京都府立 農芸高等学校	京都府南丹市	京都府	隆安国	直太郎	安福久	34	R3.3.12	15936-35778
45	95	去勢	島根	JAしまね	島根県立 出雲農林高等学校	島根県出雲市	島根県	美弥桜	恵茂勝	茂洋	33	R3.3.24	16221-50678
46	96	去勢	広島	JAひろしま	広島県立 西条農業高等学校	広島県東広島市	広島県	福之姫	安福久	安茂勝	28	R3.9.11	15889-33001
47	97	去勢	佐賀	JAからつ	佐賀県立 唐津南高等学校	佐賀県唐津市	佐賀県	美津照重	安茂勝	糸晴 (佐賀)	32	R3.5.11	13771-00829
48	98	去勢	熊本	JAくま	熊本県立 南稜高等学校	熊本県球磨郡	熊本県	幸紀雄	美国桜	喜亀忠	29	R3.7.22	16319-60213
49	99	去勢	熊本	JAくま	熊本県立 南稜高等学校	熊本県球磨郡	熊本県	百合白清2	安福久	華春福	28	R3.9.17	16319-60268
50	100	去勢	宮崎	JA宮崎経済連	宮崎県立 高鍋農業高等学校	宮崎県児湯郡	宮崎県	神照栄	安重守	忠富士	30	R3.6.29	15994-57350
51	101	去勢	宮崎	JA宮崎経済連	宮崎県立 高鍋農業高等学校	宮崎県児湯郡	宮崎県	白隆鵬	耕富士	美穂国	30	R3.6.28	15994-57367
52	102	去勢	鹿児島	JAさつま日置	鹿児島県立 市来農芸高等学校	鹿児島県 いちき串木野市	鹿児島県	華春福	安福久	金幸福	29	R3.8.8	16367-14309
53	103	去勢	鹿児島	JAさつま日置	鹿児島県立 市来農芸高等学校	鹿児島県 いちき串木野市	鹿児島県	秀幸福	美国桜	忠茂勝	29	R3.8.14	16367-14316
54	104	去勢	鹿児島	JA鹿児島いずみ	鹿児島県立 鶴翔高等学校	鹿児島県阿久根市	鹿児島県	喜亀忠	華春福	紋次郎	32	R3.5.1	15385-16261
55	105	去勢	鹿児島	JA鹿児島いずみ	鹿児島県立 鶴翔高等学校	鹿児島県阿久根市	鹿児島県	秀幸福	美国桜	華春福	31	R3.6.4	15385-17947
56	106	去勢	鹿児島	JA鹿児島きもつき	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	鹿児島県鹿屋市	鹿児島県	秀幸福	華春福	安福久	32	R3.5.3	13846-74283
57	107	去勢	鹿児島	JA鹿児島きもつき	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	鹿児島県鹿屋市	鹿児島県	喜亀忠	安福久	勝忠平	32	R3.5.16	16349-59375
58	108	雌	鹿児島	JAそお鹿児島	鹿児島県立 曽於高等学校	鹿児島県曽於市	鹿児島県	華忠良	秀幸福	安福久	32	R3.4.25	13614-51357
59	109	去勢	鹿児島	JAそお鹿児島	鹿児島県立 曽於高等学校	鹿児島県曽於市	鹿児島県	光金豊	安福久	金幸	29	R3.8.4	16561-03404



和牛甲子園

選手宣誓／審査委員一覧

選手宣誓



島根県立出雲農林高等学校
(開会式)



福島県立会津農林高等学校
(枝肉共励会)

審査委員

	所属	役職	審査委員名
総合審査委員長	全国農業協同組合連合会	畜産総合対策部長	高 橋 龍 彦
審査委員長 (取組評価)	東京農業大学	農学部 デザイン農学科 食資源利用学研究室 教授	多 田 耕太郎
審査委員 (取組・枝肉評価)	独立行政法人 家畜改良センター	鳥取牧場 場長	河 村 正
審査委員 (取組評価)	公益社団法人 全国食肉学校	専務理事 学校長	小 原 和 仁
審査委員 (取組評価)	東京都立農産高等学校	校長	江 森 忍
審査委員 (取組評価)	東京都立瑞穂農芸高等学校	農場主任 畜産科学科 主任教諭	伊 勢 博 祥
審査委員 (取組評価)	全国農業協同組合連合会	参事	落 合 成 年
審査委員長 (枝肉評価)	公益社団法人 日本食肉格付協会	専務理事	小 林 淳 二
審査委員 (枝肉評価)	帯広畜産大学	畜産学部 生命・食料科学 研究部門 教授	口 田 圭 吾
審査委員 (枝肉評価)	東京食肉市場株式会社	専務取締役	倉 林 康 樹
審査委員 (枝肉評価)	東京食肉市場株式会社	取締役	寺 内 栄 司
審査委員 (枝肉評価)	JA全農ミートフーズ株式会社	執行役員 牛肉事業統括本部 副本部長	前 田 信 吾



和牛甲子園

祝辞紹介（開会式）



この度はご盛会、誠にありがとうございます。また、お招きをいただき、ありがとうございました。

今年も、出場校、頭数ともに過去最多であると伺っております。全国の農業高校生が、日々熱心に和牛について学び、知識・技術の習得に取り組んでおられることを大変嬉しく、また、頼もしく感じます。

生徒の皆さんは、日頃、仲間とともに大切に牛を育てる中で、飼育技術にとどまらず、優しさ、たくましさ、あるいは、「我々はいのちをいただいて生かされている」といったことなど、たくさんの大切なことを学んでおられることと思います。

この度は、その成果を遺憾なく発揮されますとともに、全国の高校牛児が心をつなぎ、日本が世界に誇る和牛の未来をたくましく作っていただきたい、そんなふうに、思っているところです。

本大会のために大変なご尽力をされておられる関係の皆様、日頃より熱心に指導に当たられている先生方に心より敬意を表するとともに、生徒の皆さんにとって、実り多い大会となることを期待し、祝辞とさせていただきます。

令和6年1月18日

文部科学省初等中等教育局 参事官（高等学校担当）付
産業教育振興室 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部
教育課程調査官

遠藤 友治



和牛甲子園

祝辞紹介（開会式）



皆さまこんにちは。全国農業高等学校長協会で理事長を務めております、東京都立農芸高等学校長の吉野と申します。全国農業高等学校長協会を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、はじめに令和6年1月1日に発生しました能登半島地震により、お亡くなりになった皆さまのご冥福を祈るとともに、被災された皆さまの一日も早い復興を願い、お見舞いを申し上げます。

さて、私は正午過ぎに品川駅へ到着したところ、大きな荷物を持ち会場に向かう高校生を見付けました。直感的に高校牛児の皆さんだと思いながら、会場でお会いできることを楽しみにしてこちらに参りました。

日頃から和牛の肥育をはじめとして、様々な農業に関する学習を熱心に取り組んでおられると思います。農業に関する学習はとても幅広く総合科学とも言われており、ただ単に1つの知識や技術ではなく、知識や技術を応用しながら学んでいることかと思います。皆さんは、日々学習をしながら和牛甲子園に参加するために、勉強と管理の両立が求められ、本当に大変な道のりだと思います。日々の地道な管理と努力を重ねることは容易ではありませんが、皆さんはその挑戦に立ち向かってきました。その両立は本当に大変な課題であり、学校生活の中で時間を切り分け、効率的に取り組むことは容易ではありません。

しかし、皆さんはその困難に立ち向かい、努力を続けてきました。その努力は、すでに素晴らしい成果となって現れています。やはり感じたことは、ただ単に和牛の肥育ということだけではなく、そこに至るさまざまな過程があり、チームとして協働していくこと、あるいは地域の応援なしには成しえないということもたくさんあると思います。皆さんの取り組みは、協力と支援のネットワークを築く中で育まれてきたものであり、そのプロセスが成果につながっていることを感じます。これからもその困難に立ち向かい、協力し合いながら、素晴らしい成果を築いていってください。

農業校長会といたしましては、畜産・動物、あるいは和牛肥育に関わる高校生を応援しています。未来の担い手として皆さん自身の経験を深めていただくとともに、本大会には全ての仲間が参加できているわけではないと思います。学校に戻ったらぜひこの2日間の体験を報告していただき、一層の畜産業界を盛り立てていただくことを期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり、主催者でありますJA全農様をはじめ関係の皆さまにこの機会をいただきましたことを、心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

それでは2日間、大いに活躍されることを期待しております。

令和6年1月18日

全国農業高等学校長協会 理事長

吉野 剛文





和牛甲子園

褒賞式あいさつ



褒賞式にあたり、ひとことごあいさつを申し上げます。

高校牛児のみなさん、2日間にわたっての熱い戦い、大変お疲れさまでした。また、指導にあたられた先生方には、大会の運営に何かとご協力いただきありがとうございました。

昨日の体験発表会では、みなさんの和牛飼育に懸ける熱い思いや創意工夫あふれる取り組みに圧倒されました。また、本日の枝肉審査では、プロの農家顔負けの高い技術レベルに大変驚かされました。

さて、日本の畜産を取り巻く環境は厳しく、先行きも非常に見通しづらい状況にあります。穀物相場の上昇や為替の影響によって配合飼料や生産資材価格などが高止まりし、生産コスト高の状態が続いています。また、家畜疾病においては、鳥インフルエンザや豚熱など、経営を危うくする重要家畜疾病の発生が断続的に続いており、さらには気候変動やアニマルウェルフェアといった社会的課題への対応などが求められています。

このような状況下においても、全国の和牛生産者は愛情を込めて、日々懸命に和牛を育てておられます。生産者のたゆまぬ努力により、いまや日本の和牛は世界中で高い評価を受けています。

また、新型コロナウイルスの影響で低迷していたインバウンド需要は、昨年10月には訪日外国人客数がコロナ前の水準を上回るなど、回復傾向がみられます。和牛の輸出はコロナ禍により停滞しましたが、昨年一年間の実績は前年を超える見通しです。

全農グループでは、これまで国やJAグループがすすめてきたさまざまな生産基盤対策の強化・拡充に加え、「ちょっといい日に和牛をたべよう！」を合言葉に消費喚起キャンペーンを展開しています。昨日、サプライズゲストとして登場いただいた、なかやまきんに君さんを和牛応援団長に起用し、今後も和牛の消費喚起を図る取り組みをすすめて参ります。

この2日間、若いみなさんの熱意を肌で感じ、高校牛児のみなさんのためにも、日本の畜産を、この先もずっと持続可能なものにしなければいけない、全力を挙げてサポートしていかなければいけない、そのようにあらためて心に誓ったところです。

これから褒賞式に移りますが、結果に手応えを感じている方がおられる一方で、もう少しやれたのではないかと思う方もおられるかもしれません。この2日間の思いはそれぞれだと思いますが、結果のみにとらわれることなく、全国の仲間たちとのつながりを大切にしながら、これからも切磋琢磨していただければと思います。そして、この大会をみなさんの高校生活の思い出の1ページとしていただければ、主催者としてこれほど嬉しいことはありません。

むすびに、本大会の開催にご尽力いただいたすべての関係者のみなさまに心より感謝を申しあげ、私のあいさつといたします。ありがとうございました。

令和6年1月19日

全国農業協同組合連合会 常務理事

齊藤 良樹





和牛甲子園

祝辞紹介（褒賞式）



褒賞式に当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

まず、はじめに、この度の能登半島地震の被災地及び被災された皆様方に対し、心より、お見舞い申し上げます。農林水産省を含め、政府あげて被災者への支援と一刻も早い復興に向け、全力で取り組んでまいります。

さて、今年度も、我が国の畜産業の将来を担う「高校牛児」の皆様が集い、「第7回和牛甲子園」が無事開催され、本日、成功裡に終えられたことに、心よりお慶び申し上げます。大会開催に御尽力されました、全国農業協同組合連合会をはじめ、関係者の皆様方に対して、深く敬意を表します。

高校牛児の皆様、第7回和牛甲子園への御出場、誠におめでとうございます。今回、それぞれの目標を達成できた皆様も、惜しくも一步及ばなかった皆様も、新たな次の目標に向かって、引き続き、頑張ってくださいと思います。

皆様も御存じの通り、今や和牛は、日本の伝統的な食文化を代表する食材として、国内だけではなく、海外からも高く評価されており、我が国の農林水産物の輸出の主翼を担う重要品目となっています。農林水産省としても、国内外の旺盛な和牛肉の需要に着実に応えていくため、生産基盤の一層の強化と、輸出の拡大に積極的に取り組んでいるところです。

本日ここに集われた高校牛児の皆様には、高校を卒業された後も、この和牛甲子園の出場で培った知識や経験、仲間との繋がり等を活かし、地域の畜産業の発展、そして、我が国の畜産業全体の発展に御尽力いただきたいと、心から期待しております。

皆様のような若い方々のお力が、畜産業の発展には不可欠です。政府としても、未来に希望をもって畜産業に携わっていただけるよう、様々な形で皆様を応援していきたいと考えています。

最後に、「和牛甲子園」が今後も、高校牛児の皆様の学びや感動を分かち合う場として、さらに発展・成熟していきますことを心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

令和6年1月19日
農林水産省畜産局長
渡邊 洋一





和牛甲子園

祝辞紹介（褒賞式）



只今ご紹介にあずかりました農畜産業振興機構の天羽です。この和牛甲子園に参加される皆さんのことを「高校牛児」と呼ぶのだと伺い、たいへん面白く、微笑ましいと思っています。改めまして高校牛児の皆様、こんにちは！

挨拶の前に一言。本年は、年始から大きな地震や事故。お見舞い・お悔み申し上げます。こういう時局でありますので、なおのこと、お肉を始めとする食料の安定供給の大切さについて期待され、再確認される時だと考えております。

さて、受賞された高校の皆様、おめでとうございます。また、惜しくも受賞を逃された皆様も、素晴らしい取組をされたと思います。

私ども農畜産業振興機構alicは、国の政策に基づき、肉用子牛生産者補給金制度や牛マルキンなどで生産者の経営安定を図るなど、農畜産業の振興を担う団体です。皆様方の取組みを応援するため、和牛甲子園では理事長賞を贈らせて頂いております。

参加校は第1回の8県15校から、第7回となる今回は25道府県41校と着実に増加し、皆様の先輩方は既に全国の畜産の現場で活躍されているとも伺っております。

和牛の肥育は、期間が長く、日々の細やかな飼養管理も必要で、とても難しいものです。枝肉共励会の結果を伺うと、格付け5等級4等級が多かったとのことで、皆さんの技術の高さに感心しております。

また、取組みの概要については昨日の体験発表会で報告されましたが、（和牛肥育や畜産業の諸課題の解決に向けて、高校生らしいユニークな発想で真摯に取り組んでいる姿に心底感銘を受けました。）私共としても将来を担う皆様の取組みを心強く感じており、高校牛児の皆様と大会関係者の皆様のご努力に心から敬意を表します。

和牛は世界に誇る日本の宝です。世界中から高い評価を受けておりますし、今後輸出も増えていくと思います。この宝を次の世代に継承してゆくため、また、高校牛児の皆様が将来の畜産現場で夢や希望をもって働けるよう、alicといたしましても、様々な形で支援を続けていきたいと思っております。

来年もまたこの甲子園で、皆様のご活躍ぶりに触れることを楽しみにしております。そして、いつの日か、畜産現場で働く皆様に、再びお会いできることを祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は、本当におめでとうございます。

令和6年1月19日

独立行政法人農畜産業振興機構 理事長

天羽 隆





和牛甲子園

祝辞紹介（褒賞式）



皆さん、こんにちは。東京都中央卸売市場食肉市場の船木です。

高校牛児全員が顔と顔を合わせて、芝浦に集うのは、4年ぶりです。皆さんにとっては、初めてですね。

やはり41校、200名を超える参加者が一堂に会す、この熱気とは格別です。今日のセリ場は、いつにない活気でした。

今回の大会でも初出場の学校があり、出場校は着実に増えていますが、今後、挑戦したいという学校、出場予備

軍が更に控えているとも聞いています。

これから出場を目指す高校生にとっては、皆さんが目標になっていると思います。

そして、出場したならば入賞が目標となり、入賞したならば、さらに上を目指す。そのためには知恵を絞って日々汗をかく。切磋琢磨する機会、目標が、和牛甲子園だと思います。

Webで皆さんの取組のプレゼンを見させて頂きました。審査結果は出ましたが、いずれも、研究と実験の場でした。どうやって飼料の高騰に対応するか、肉質を良くする飼料の配合や給与のタイミングをどうするか、自校農園から良質な飼料は作れないかなど、地元の家畜研究所から教えてもらったり、酒造会社や飼料会社と連携したりと、とてもアグレッシブ！だったと思います。

狙った成果を得た学校、そうでない学校もありましたが、今までやっていなかったことへの挑戦ですから、やってみなければ分かりません。科学的な検証をしっかりとって、どんどん蓄積していった欲しいと思います。いつか、飼料問題、SDGsにも対応できる答えが見つかると思います。今後も期待しています。

今日は枝肉のセリでした。私も現場で見えていました。牛を出品できた学校にとって、これまでの成果が示されました。皆さんの牛の評価は如何だったでしょうか？思ったより良かったり、もうちょっとだったり、育てた牛が実際にいくらで売れるのか、経済的な評価を受けました。

東京市場は全国からブランド牛が集まる場所です。東京は大きなマーケットですから、肉質と価格、ともに多くの事業者、消費者に評価されます。良いモノはより引き合い強く、しっかりと定着していきます。東京市場に出荷することをブランディングの戦略としている産地もあります。皆さんが将来、畜産業を営む時には、東京市場を是非覚えておいてください。そして出荷してください。

長くなりましたが、結びに、今回出場した生徒の皆さん、並びにJA全農、学校関係者の皆様の、今後の御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、おめでとうございます。

令和6年1月19日

東京都中央卸売市場食肉市場 場長

船木 克彦



【総合評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校

【取組評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	岐阜県立 加茂農林高等学校
優秀賞	神奈川県立 中央農業高等学校
	鹿児島県立 市来農芸高等学校
優良賞	岐阜県立 大垣養老高等学校
	愛知県立 渥美農業高等学校
	宮崎県立 高鍋農業高等学校
審査委員特別賞	京都府立 農芸高等学校
	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校
高校牛児特別賞	岐阜県立 加茂農林高等学校

【枝肉評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校 (出品番号57)
優秀賞	福島県立 会津農林高等学校 (出品番号13)
	岐阜県立 飛騨高山高等学校 (出品番号39)
優良賞	京都府立 農芸高等学校 (出品番号44)
	宮崎県立 高鍋農業高等学校 (出品番号51)
	鹿児島県立 市来農芸高等学校 (出品番号52)
審査委員特別賞	栃木県立 栃木農業高等学校 (出品番号23)

※優秀賞、優良賞に序列はなく、それぞれ体験発表順、出品番号順に記載

和牛肥育への情熱100% !!

受け継がれる技で育てた愛情満載「鹿児島黒牛」を全国へ



体験発表内容 「地域資源の活用で 和牛の魅力を未来へつなぐ ～竹の利用で継続できる経営へ～」

**地域資源の活用で
和牛の魅力を未来へつなぐ
～竹の利用で継続できる経営へ～**

鹿児島県立鹿屋農業高等学校
肉用牛専攻班・鹿児島黒牛研究部

和牛70頭の一貫経営

繁殖経営

妊娠期間 285日
分娩期間 8～9ヵ月
産乳期間 2～3ヵ月

産乳量 約10kg/日
飼料費 約150円/頭/日

肥育経営

目標：消費者の求める
優れた肉質の肥育牛生産

肥育期間：約20ヵ月

+ 肝臓ケアのために「甘栗」を継続して給与
+ 伏線を避けてビタミンD₃を給与

1 はじめに

技術の探求→未来へ

(1) 生産コスト削減を目指した地域未利用資源の活用(継続チャレンジ)

校内や地域の竹をパルダール状に加工して給与実験へ

① 校内林道の竹林 ② 竹の伐採 ③ 校内林道の竹林
④ 粉砕機で粉砕 ⑤ 袋詰め ⑥ 倉庫に保存

(1) 生産コスト削減を目指した地域未利用資源の活用(継続チャレンジ)

加工後すく竹粉は風味も良い

良く食べる牛が多い

数日すると色が変わり匂いもキツくなる

ほとんど食べない

(1) 生産コスト削減を目指した地域未利用資源の活用(継続チャレンジ)

結果：水分調整や発酵状態についての研究が必要

年間を通して保存し、給与を行うことは難しい

笹サイレージ給与を続け、改善方法を探索する

(1) 生産コスト削減を目指した地域未利用資源の活用(継続チャレンジ)

肥育牛舎から出る堆肥を「戻し堆肥」として活用

肥料

竹粉	2.8%
籾殻	2.0%
籾殻燐肥	7.0%

籾殻 m² = 3,500円

昨年よりさらに10%
Upの80%コスト削減
年間：約71万円分!!
子牛の毛艶も良い
治療回数も減少

(2) 肉のうまさと脂肪の質向上(継続チャレンジ)

① 植物由来の不飽和脂肪酸であるオメガ3脂肪酸を含む添加飼料を継続給与

② 給与後の出荷牛でわずかがオレイン酸数値上昇が認められたので継続給与

(3) 枝肉成績のデータ収集と受精卵移植の活用による高能力な牛群作り(新規チャレンジ)

飼養繁殖牛の血統(1代祖)

華春福、安福久、秀幸福、喜亀忠、安亀忠、華忠良、若百合、紀多福、福之雄

血統構成を基本情報としてデータ化

牛の能力を十分に引き出す飼育管理を行う

増体系 質体系

(3) 枝肉成績のデータ収集と受精卵移植の活用による高能力な牛群作り(新規チャレンジ)

◎出荷後の枝肉検査と購買者評価の聞き取り

4年間の枝肉成績データ(平均) → 管理方法を振り返り改善する

年次	性別	枝肉重量	ロース巾	ばら厚	皮下脂肪	BMS No.	A5等級率	月齢
令和2年	去勢5頭	528.4kg	69.6cm	8.6cm	2.8cm	10.0	86%	28.4
令和3年	去勢7頭	578.7kg	75.4cm	9.2cm	3.2cm	10.1	86%	28.7
令和4年	去勢9頭	603.8kg	83.8cm	9.5cm	3.3cm	10.2	78%	29.6
令和5年	去勢6頭	559.4kg	87.7cm	9.1cm	2.3cm	11.7	100%	28.2

3 出品牛について

秀幸福 華春福 安福久 喜亀忠 安福久 勝忠平

「里央号」
肝臓家畜市場からの導入牛。第4回大会「飼育84号」の準。かなりの増体系で生後から筋肉マンと呼ばれる。

「誠実号」
自家ET産子。卒業生農家との共同で生産された受精卵を活用して生産。名前は本校の校名の1つです。

4 まとめ

和牛の未来へ向けて「竹の資源化モデル」に取り組む次の一歩へ

自分たちでも製造

バウチャー製造 食料貯蔵庫 子牛の育て方

4 まとめ

この取組が

- 地域を巻き込み
- 和牛の未来へつながる

大きな夢...それは

「いつか地域にある資源だけで肥育牛を育て、鹿屋100%の和牛肉を作って食べたい」です!!

4 まとめ

地元企業との「未来の農業人育成プロジェクト」2年目へ

学校産牛肉の地域子ども食堂への提供、海外輸出勉強会、枝肉共例会出品

枝肉評価勉強会など地域との活動も広がっている。

愛情満載「鹿児島黒牛」

和牛肥育への情熱は100%!!

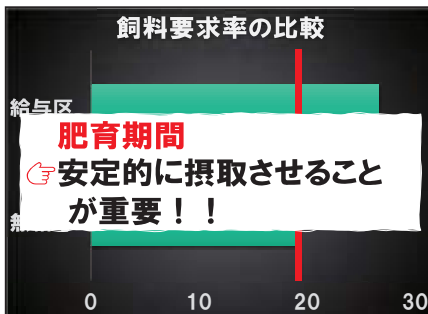
牛〜っと♡だきしめて 〜私たちだけの牛系彼氏〜



体験発表内容 「I LOVE 飛騨牛 〜未来を切り拓く私たちの挑戦〜」



取組評価部門 最優秀賞・高校牛児特別賞 岐阜県立 加茂農林高等学校



〔参加校から寄せられた授賞理由コメント（抜粋）〕

発表方法

- ・発表者の発声がよく、声が通り、聴きやすい
- ・声に強弱・メリハリがあり、耳に入りやすい

資料作成

- ・整理を尽くした簡潔・明解な資料作成と提示方法
- ・背景にのぼり旗を設置して飛騨牛をアピールしながらも、パワーポイントに視線が向くように作りこまれた資料作成と無理のない論理展開

取組内容

- ・牛のルーメン内の温度のコントロール実験をした取組みの具体性
- ・飼料費の削減を実現するなど取組みの実効性
- ・プロジェクトの規模の大きさ（台湾での調査や飼料会社との協力等）
- ・IOTの先端技術を利用した取組みや、牛でのJGAP取得など高い挑戦性

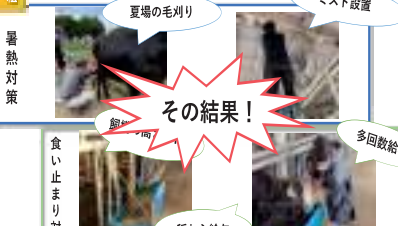


和牛生産の地域共存を目指して。

都市化が進む海老名の地で、中農和牛の新たな挑戦！



体験発表内容 「中農和牛が繋ぐ地域の環 ～地域と共存した和牛肥育実現に向けて～」

中農和牛が繋ぐ地域の環 ～地域と共存した和牛肥育実現に向けて～	本校 昨年度までの取り組み 平成28年度 和牛肥育開始 本校初A5ランク獲得 和牛を通して 地域を笑顔にできる！ 	取組 増体アップに向けた取り組み 夏場の毛刈り ミスト設置 暑熱対策 その結果！ 食いつまり対策 糞わら給与 
---	--	--

計画 今年度の取り組み 実践1 悪臭軽減 - えひめAI散布 - 廃棄物の敷料利用 実践2 地域への情報発信 - 掲示板の設置 - 畜産教室の開催 - 農福連携プロジェクト 	実践1 「悪臭軽減」に向けた取り組み 学校周辺の宅地化 1990年 2023年 牛舎の隣に 住宅が接近 	実践2 畜産教室の開催 「牛とふれあおう」 搾乳体験 肥育牛・子牛のふれあい 和牛講座 
---	---	--

実践2 3 「農福連携」に向けた取り組み 様々な人に興味を持ってもらいたい！ 海老名支援学校との「農福連携プロジェクト」 	結果 今年度取り組み結果 地域 都市と共存した和牛生産 新たな一歩 	持続可能な畜産 
--	---	---

取組評価部門 優秀賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校

牛と共に夢を追い、牛と共に夢叶える。夢を叶えるために青春を捧げる我ら畜産部。



体験発表内容 「ミライはぼくらが創る！～今の困難な情勢を乗り越えるために～」

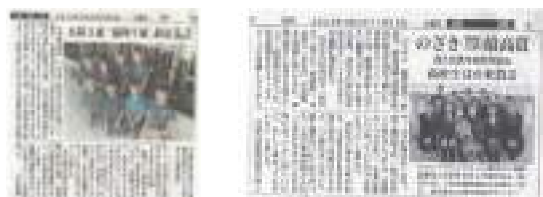
ミライは私たちが創る
～今の困難な情勢を乗り越えるために～



鹿児島県立市来農芸高等学校

取組 1 肥育技術の確立

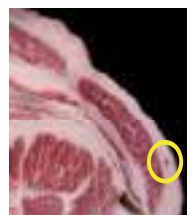
出荷した3頭 BMS. No12 高校生の部**金賞** 毎日新聞掲載



= **安定した肥育技術を確立**

取組 2 商品性の向上

枝肉評価部門入賞ならず

口田研究室HPより

小さな瑕疵が
大きな**損失**に…

取組 3 共進会へ向けて

県黒毛和種共進会出品！



若雌2区最優秀賞4席受賞

出品牛の紹介

《**桃琉号**》優しくて可愛いらしい性格
(昨年の兄を超える結果に期待)



秀幸福×美国様×忠茂勝

《**金星号**》元気で、人懐っこい性格
(バツグンの体型、肉質にも期待)



華幸福×安福久×金幸福

ミライは私たちが創る

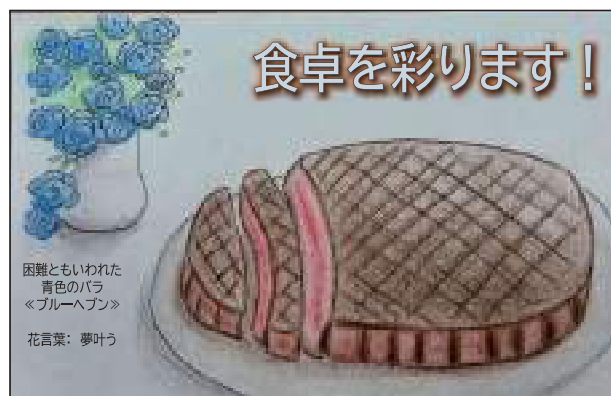
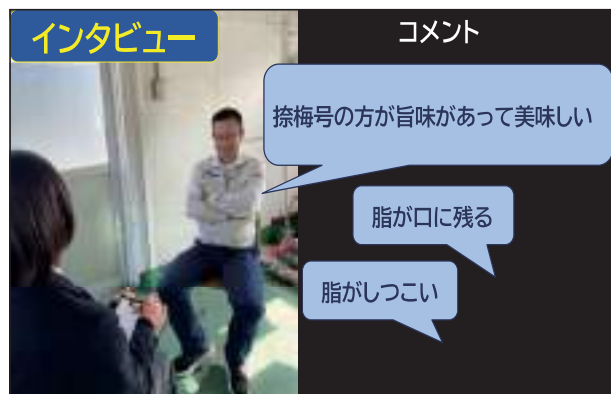


高校牛児のみなさん一緒にミライを創りましょう！

太陽の神が平和な食卓を多くの人に届けます。陽和多出陣！！



体験発表内容 「健康な和牛にミニバラを添えて ～あなたの食卓を彩ります～」

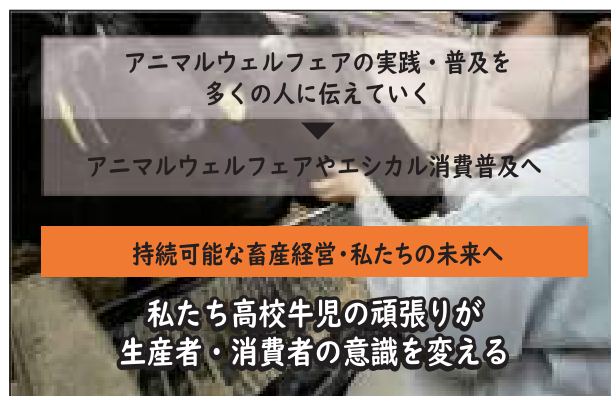
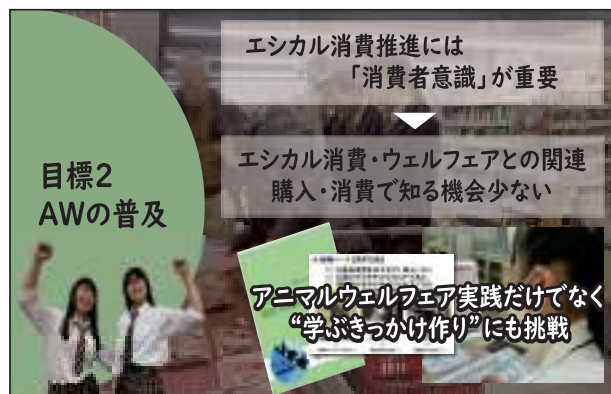
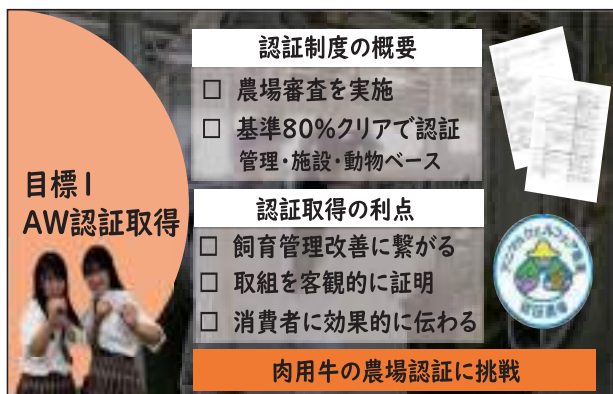


取組評価部門 優良賞 愛知県立 渥美農業高等学校

天真爛漫つむみすペアの大躍進！うちの好きな牛が大優勝、、、ってこと！？



体験発表内容 「安心・安全・幸せな牛舎 アニマルウェルフェア認証・普及に挑戦」



最高の宮崎牛で最高の笑顔を目指せ 日本1 ～えのきの力は無限大～



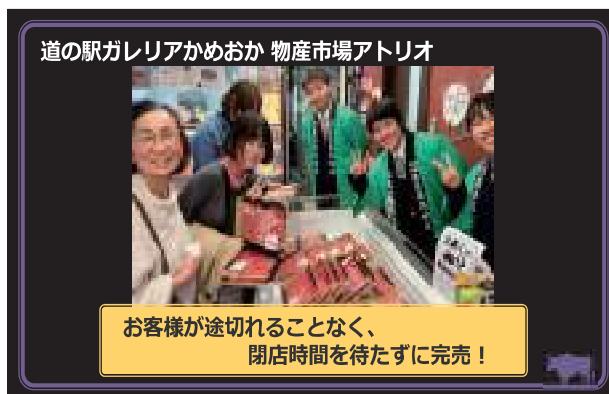
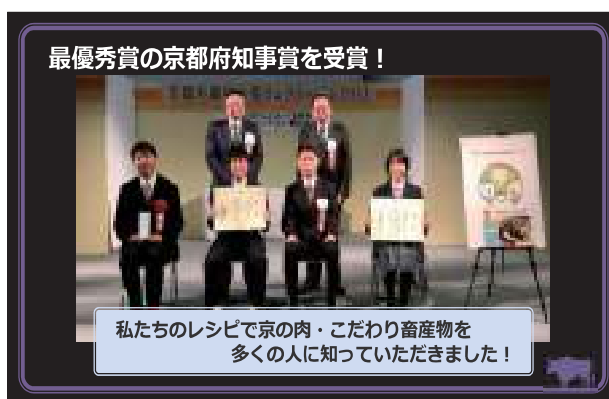
体験発表内容 「えのきでつくる 未来へ残る 牛づくり ～高農和牛の挑戦～」



百年先の京都にも おいしい牛肉があるように未来の人の喜びとなるように 今を生きる



体験発表内容 「届けます!! 夢と希望をつめ込んで 京の肉で明日に向かう!」





和牛甲子園

取組評価部門 審査講評

第7回全国農業高等学校和牛枝肉共励会・和牛甲子園が、史上最多となる25県41校が参加し、品川グラウンドホールおよび東京都中央卸売市場食肉市場において、盛大に開催されましたことに対しお慶び申し上げます。

取組評価部門・体験発表について、審査委員を代表して審査結果についてご報告します。なお、審査は審査基準に則り、厳正中立かつ公平に実施しました。

体験発表の評価は、事前提出された動画および資料を基に実施しました。

生徒の皆さんは、記録的猛暑と長引く残暑もあり、例年に比べ日々の牛の管理が忙しかったかと思われそうですが、各校とも発表準備にも注力されたことが伝わる内容でした。

このうち、入賞を果たしたのは以下の各校です。

○最優秀賞 岐阜県立加茂農林高等学校

地域の畜産農家の抱える課題を解決するため、飼料費削減、健康牛の肥育について挑戦しました。飼料米を用いた新たな配合飼料が有効であること、IoTを活用してルーメン温度を観察し、濃厚飼料割合を調整することで、経験則を要せずに健康な牛が育つことなどを明らかにしました。発表は澁刺と速度も良く、成果を聴者が理解しやすいように構成を工夫しており、審査委員一同から大変に高い評価を得ました。

○優秀賞 神奈川県立中央農業高等学校

住宅地が隣接する学校の立地条件からくる課題に着目し、地域と共存するための解決策を検討しました。近隣から臭いへの苦情が多いことから、悪臭軽減のために環境浄化微生物の利用とともにシュレッターや粉殻を敷料に有効活用することが効果的であることを明らかにしました。農福連携へも精力的に取り組んでおり、審査委員一同から高い評価を得ました。

○優秀賞 鹿児島県立市来農芸高等学校

継続した肥育技術の確立の取り組みに加え、昨年度の出品牛で瑕疵がみられたことから、この対策についても挑戦しました。雌肥育牛の発情・乗駕行動を発情抑制剤投与で抑えることが瑕疵発生リスクを低減させ、商品性を高めるかを検討する興味深い内容でした。発表は資料の情報量、説明速度も良く、理解しやすいもので、審査委員一同から高い評価を得ました。

○優良賞 岐阜県立大垣養老高等学校

消費者の求める美味しい牛肉について調査し、そのニーズに応えるため、牛の健康状態、肉質を改善する添加剤給与の効果などを検証しました。さらに、県特産品のミニバラ生産に活用できる堆肥を開発し、地域へ還元もしており、審査委員の多くから高い評価を得ました。

○優良賞 愛知県立渥美農業高等学校

エシカル消費の観点から、アニマルウェルフェア認証に挑戦しました。試行錯誤しながら認



多田 審査委員長

証基準を満たし、さらに消費者や生産者への普及を図るために理解しやすい配付資料を作成するなど、精力的な取り組みで、審査委員の多くから高い評価を得ました。

○優良賞 宮崎県立高鍋農業高等学校

これまでの牛床改善の取り組みを発展させ、地域の未利用資源である「えのきの菌床」を活用した敷料について種々の試験を行い、その有効性について明らかにしました。発表は情報量が適切で理解しやすく構成されており、審査委員の多くから高い評価を得ました。

○審査委員特別賞 京都府立農芸高等学校

地域の和牛文化が永く続くように、消費販売に重点を置いた取り組みを展開しました。

有名観光地である背景から、料理店での府外からの来客者も含めた消費者アンケートを実施し、京都産牛肉の魅力発信について検討した興味深い内容で高い評価を得ました。

○審査委員特別賞 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

地域で問題となっている未利用資源である竹・笹を有効利用する継続活動に加え、枝肉データと受精卵移植を活用した高能力牛群作りに挑戦しました。発表は澁刺としており、地域資源だけで肥育牛を育てる夢の実現に向けて、今後の展開を期待する高い評価を得ました。

入賞を逃した各校も和牛生産・地域が抱える問題を解決すべく、仲間と一丸となって目標を達成するために“和牛”と向きあっていました。正に今大会のキャッチフレーズ「One for all All for 和牛！」を体現する高校生らしい取り組みばかりで、発表も熱意に溢れており、全審査委員から称賛の声が上がりました。

これらの取り組みは、生徒の皆さんの努力は勿論ですが、地域の方々が支援し、教職員の方が熱心に指導されていることが窺えるものでした。関係の皆様には敬意を表しますとともに、今後も我が国の畜産を担う若人のためにご尽力いただきたく存じます。

今回は4年ぶりに完全な実参加での開催となり、皆さんが一堂に会しましたので、全国各地で同じ志を持ち頑張っている仲間と直に熱を感じながら繋がることができましたと思います。先輩“高校牛児”講話にて、「高校卒業後に和牛甲子園で出会えた他校の仲間と再会し、お互いに夢に向かって突き進んでいることを知り嬉しかった」との発言がありました。現役の牛児の皆さんも、今回知り合えた同志との繋がりを大切に、そして大いに活用して欲しいと思います。

和牛肉の味は格別で、私たちの健康で心豊かな生活を彩り、幸せと笑顔を届けてくれます。その魅力は海外へも伝わり、和牛への注目度は高まるばかりです。どうか、皆さんで「和牛文化」そして「日本の農業」をさらに勢いづけていってください。

主催者である全国農業協同組合連合会をはじめとする関係の皆様のご尽力により、全国の高校牛児のネットワーク構築を進める意義ある大会となりました。厚く感謝申し上げます。

本大会が末永く続くことを祈念し、取組評価部門・体験発表の審査講評と致します。

令和6年1月18日

東京農業大学 農学部 デザイン農学科
食資源利用学研究室 教授

多田 耕太郎





和牛甲子園

体験発表会カンファレンス

【目的】

次回大会にむけて、課題の明確化とモチベーション向上に資するため、審査委員から体験発表の内容について講評・指導を受ける。

【各審査委員の講評・指導対応校一覧】

多田 審査委員長		河村 審査委員		小原 審査委員	
1	北海道倶知安農業高等学校	1	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	1	青森県立三本木農業恵拓高等学校
2	宮城県農業高等学校	2	福島県立会津農林高等学校	2	福島県立磐城農業高等学校
3	栃木県立栃木農業高等学校	3	栃木県立真岡北陵高等学校	3	栃木県立那須拓陽高等学校
4	富山県立中央農業高等学校	4	神奈川県立中央農業高等学校	4	岐阜県立大垣養老高等学校
5	滋賀県立長浜農業高等学校	5	広島県立西条農業高等学校	5	島根県立出雲農林高等学校
6	宮崎県立高鍋農業高等学校	6	長崎県立諫早農業高等学校	6	熊本県立南稜高等学校
7	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	7	鹿児島県立曾於高等学校	7	広島県立庄原実業高等学校
江森 審査委員		伊勢 審査委員		落合 審査委員	
1	岩手県立水沢農業高等学校	1	岩手県立盛岡農業高等学校	1	岩手県立花巻農業高等学校
2	茨城県立水戸農業高等学校	2	栃木県立宇都宮白楊高等学校	2	栃木県立鹿沼南高等学校
3	栃木県立矢板高等学校	3	群馬県立吾妻中央高等学校	3	群馬県立利根実業高等学校
4	岐阜県立加茂農林高等学校	4	岐阜県立飛騨高山高等学校	4	愛知県立渥美農業高等学校
5	岡山県立瀬戸南高等学校	5	山口県立大津緑洋高等学校	5	京都府立農芸高等学校
6	佐賀県立唐津南高等学校	6	鹿児島県立市来農芸高等学校	6	鹿児島県立鶴翔高等学校
7	福岡県立糸島農業高等学校	7	大分県立久住高原農業高等学校		



多田審査委員長



河村審査委員



小原審査委員



江森審査委員



伊勢審査委員



落合審査委員

【取組評価部門 多田審査委員から高校牛児へのメッセージ】

今回も新たな参加校があり合計41校となり、第1回（参加15校）から携わっている私は、大きく成長し、益々活気のある体験発表会となったことが大変に嬉しいです。単に参加校が増えただけでなく、年々レベルアップする皆さんの素晴らしい発表が加わっているのですから尚更です。皆さんも事前に配信された発表動画を観て、他校の取り組みに興味を持ったのではありませんか？大会中に他校の生徒と直ぐに打ち解け、熱く語り合っている光景を目にし、和牛甲子園の目的である「同じ志を持つ生徒同士が、切磋琢磨し合うような交流の場を創出する」が実現していることを強く感じました。

今回は、和牛生産を取り巻く苦しい現況を打破するべく、飼料や環境の問題に対応する生産の立場からの取り組みの他、消費者側からの目線で和牛肉の価値を検討し、今後の“和牛”について考える活動もありました。豊かな発想力で多角的な視点からチャレンジすること、これは“安全な失敗”（失敗を恐れずに挑み、失敗してもそこから学び成長する）が許され推奨される高校生である皆さんならではの取り組みです。

皆さんが向き合っているのは、“和牛”という生き物・命です。休み無く面倒を見なくてはなりませんが、仲間と意見をぶつけ合い、協力して取り組むなかで、強くしなやかな人間力が培われた筈です。どうかその能力をフル活用して、他者の幸福を思い、世に貢献する社会人となってください。皆さんの益々の活躍、期待しています！



和牛肥育への情熱100% !!
受け継がれる技で育てた愛情満載「鹿児島黒牛」を全国へ



出品番号: NO.57 枝肉重量: 635kg
性 別: 去勢 等 級: A5
B M S: 12

精一杯、愛情込めて育てました!自慢の黒べこ見ていがんしょ!



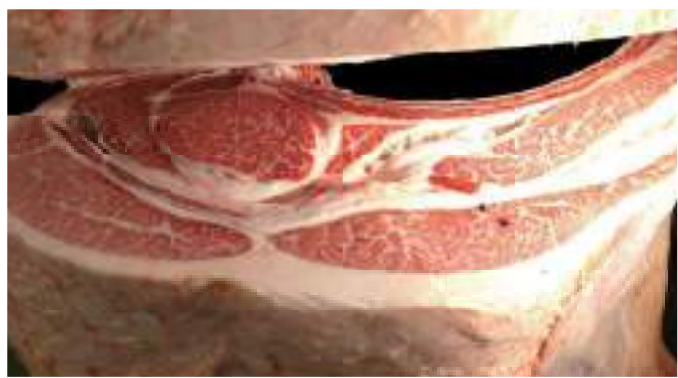
出品番号 : NO.13 枝肉重量 : 508kg
 性 別 : 去勢 等 級 : A5
 B M S : 12

ともみ系は肉でも日本一 ～僕らの稲わら大作戦～



出品番号 : NO.39 枝肉重量 : 409kg
 性 別 : 雌 等 級 : A5
 B M S : 12

百年先の京都にも おいしい牛肉があるように
未来の人の喜びとなるように 今を生きる



出品番号 : NO.44 枝肉重量 : 609kg
性 別 : 去勢 等 級 : A5
B M S : 12

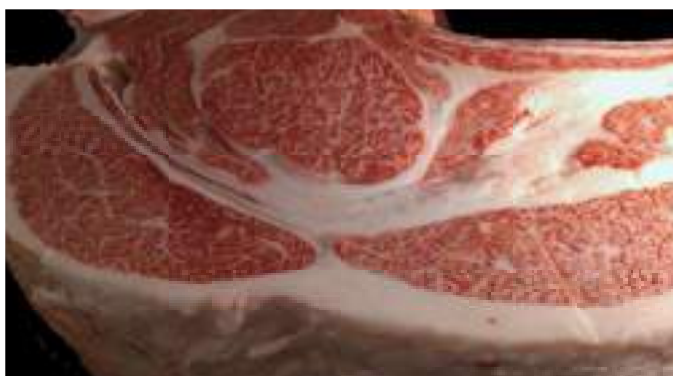
枝肉評価部門 優良賞 宮崎県立 高鍋農業高等学校

最高の宮崎牛で最高の笑顔を
目指せ日本1 ～えのきの力は無限大～



出品番号 : NO.51 枝肉重量 : 596kg
性 別 : 去勢 等 級 : A5
B M S : 12

牛と共に夢を追い，牛と共に夢叶える。
夢を叶えるために青春を捧げる我ら畜産部。



出品番号 : NO.52 枝肉重量 : 619kg
性 別 : 去勢 等 級 : A5
B M S : 12

動物科学科みんなの思いを込めた栃農和牛を全国へ！！



出品番号 : NO.23 枝肉重量 : 689kg
性 別 : 去勢 等 級 : A5
B M S : 11



和牛甲子園

枝肉評価部門 審査講評



小林 審査委員長

今年度も「和牛甲子園」が開催され、第7回目を迎えました。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類に変更になったことにより、こうして皆さんと一堂に会しての表彰式が行われたことは誠に嬉しい限りです。

私は第1回から3回の審査を担当させていただき、今回久しぶりの審査をさせていただきましたが、大会の規模、枝肉の品質も格段に立派になっておりびっくりしています。

また、第2回大会に生徒さんで参加されていた方が、現在は教員になって後進の指導にあたっておられると聞き及んでいます。大変嬉しく思います。

参加された3年生の皆さんは今後、繁殖や肥育農家の後継者として実践に進まれる方、進学される方など様々な道に進まれると思いますが、是非今後も畜産に携わっていただきたいと思います。格付協会に入って格付員の道もあります。30年、40年後に今私が立っている場所で審査講評をするという道もあります。一緒に仕事ができればこの上ない喜びです。進路選択肢の一つに入れていただければ嬉しいです。

この和牛甲子園の開催にあたって、主催された全国農業協同組合連合会のスタッフの皆さんにおかれては1年がかりの準備で大変ご苦労が多かったことと思いますが、開催にかける思いや愛情は参加された高校生にしっかりと届いていることと思います。ご尽力いただいたことに敬意を表するとともに、ご披露させていただきます。本当にお疲れ様でした。

それでは枝肉評価部門の審査委員を代表して審査の概要と結果をご報告申し上げます。

審査につきましては、日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格、開催要領にある審査基準に基づき枝肉を総合的評価して、厳正、公平に行っておりますことをお伝えしておきます。

今回の枝肉評価部門出場校・出品頭数は、北は北海道から南は鹿児島県まで、19道府県35校より黒毛和牛雌13頭、去勢46頭の総計59頭となりました。

黒毛和牛 雌【雌：13頭】

	枝重	ロース	ばら	皮下	基準値	歩留	肉質		B.M.S		B.C.S
						「A」率	「5」	「4」up	平均	1.0up	
前 回	472.4	72.8	8.6	3.6	75.5	100.0	94.4	100.0	10.4	72.2	3.5
今 回	499.8	76.5	8.4	2.8	76.2	100.0	84.6	100.0	10.6	69.2	4.0
全 国	439.3	61.5	7.5	2.6	74.6	87.3	47.9	74.0	7.3	26.2	4.0

※全国値はC D版牛枝肉格付情報：令和5年次（1-12）

黒毛和牛雌では、歩留等級「A」率が100.0%でした。全国平均は87.3%ですから良い結果であったといえます。雌の特徴として脂肪付着が厚くなる傾向が高いのですが、皮下脂肪の厚さの平均は2.8cmと昨年より適度な厚さとなっています。

歩留基準値の平均は76.2で全国値74.6を上回りました。

枝肉重量の平均値は全国平均より約60kg大きく、胸最長筋面積平均76.5cm²と前回の72.8cm²に比べて大きく良い成績でした。皮下脂肪厚は4cm以上になると「B」等級になる可能性が高くなりますから適度





和牛甲子園

枝肉評価部門 審査講評

な厚さになるように管理することが重要です。

肉質についてみると、「5」等級は84.6%で、「4」等級以上率は100%でした。申し分ありません。特に雌は飼養管理が難しいと云われる中で良く出来ていたといえます。BMSNoの平均は10.6で、昨年と平均2桁乗せを維持している点、全国平均との比較からもとても良い結果であったと思います。「肉の色沢」については光沢が良く、「脂肪の質」についても締まり、光沢、粘りの良いものが多くありました。今回全ての脂肪の脂肪酸測定を行いました、食味に良い効果があるといわれるオレイン酸平均値は54.4%で、一般的に55%以上は好ましい数値といわれていますので脂肪の質が良かったことと関係していると思います。

黒毛和牛去勢【去勢：46頭】

	枝重	ロース	ばら	皮下	基準値	歩留	肉質		B.M.S		B.C.S
						「A」率	「5」	「4」up	平均	10up	
前回	561.9	77.6	9.3	3.1	75.9	94.6	81.1	100.0	10.1	64.9	3.4
今回	558.0	77.5	9.2	2.6	76.3	100.0	91.3	97.8	10.7	82.6	3.9
全国	514.5	68.9	8.4	2.4	75.4	97.7	64.8	92.2	8.6	40.1	3.7

※全国値は CD 版牛枝肉格付情報：令和5年次（1-12）

黒毛和牛去勢でも、歩留等級「A」率が100.0%という成績でした。全国平均は97.7%ですから、大変良い成績であったといえます。

枝肉重量についてみますと今回の平均は558.0kgで全国平均重量よりも約40kg大きい結果となっています。牛が大きく育つということは健康に育った証しであり、何よりも評価して良いと思います。ちなみに出品牛の最大は689.0kgでした。胸最長筋面積は、平均77.5cm²で全国平均68.9cm²を大幅に上回っております。また、ばらの厚さは、平均9.2cmで昨年とほぼ変わらず、皮下脂肪の厚さは平均2.6cmで適度であります。

和牛甲子園での平均値は、格付された全国平均値と比較しても素晴らしい結果でありました。ただ、平均値に届かない高等学校もありましたので、開催目的にございます「我が国の畜産を担う高校生の育成とネットワーク作り」の精神を活かして、肥育等に関する技術を共有して全体的な底上げを図っていただければ幸いです。

肉質については、「5」等級率は91.3%、「4」等級以上率は97.8%と素晴らしい結果となりました。昨年BMSNoの平均が2桁台の10.1となりましたが、今年は10.7とさらに良い成績となっています。「肉の色沢」も良いものが多く、健康に育てられた結果であると思います。脂肪質については、オレイン酸平均値52.9%でした。やや光沢がなく、硬い脂肪が散見されたことと関係があるものと推察されます。食味の良い脂肪のオレイン酸値は55%以上といわれていますので、一つの基準として覚えておいていただけたらと思います。

【瑕疵の発生】（単位：頭）

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	計
前回			1(1.8)	2(3.6)		1(1.8)	4(7.2)
今回		2(3.4)	1(1.7)	5(8.5)		4(6.8)	12(20.3)

瑕疵の発生が12頭ありました。出品牛の20.3%の枝肉に瑕疵があったこととなり、前回より増加しました。割除などの重大な瑕疵はありませんでしたが、外傷（アタリ）が5頭、腹鋸筋や胸腔にある腹横筋のうっ血（瑕疵表示：カ）が4頭ありました。瑕疵は枝肉としての商品価値を低下させますので引き続き丁寧な扱いをしてください。

この様な中、栄えある枝肉評価部門の最優秀賞に出品番号107号、鹿児島県立鹿屋農業高等学校の去勢牛を選抜いたしました。

出品番号：107			受賞者：鹿児島県立鹿屋農業高等学校						
等級	BMSNo.	枝肉重量	基準値	ロース	ばら	皮下	BCSNo.	腹鋸筋	オレイン酸
A5	12	635.0	81.4	107	11.3	1.7	4	5.2	49.2

生後月齢32か月、枝肉重量635.0kg、ロース面積107cm²、ばらの厚さ11.3cm（腹鋸筋5.2cm）と充実し、皮下脂肪の厚さは1.7cm、歩留基準値は81.4、大型牛ながら前・中・後躯の厚み、バランスとも理想的で迫力ある枝肉でした。東京市場では毎日のように共励会が実施されており、本日も何件かの共励会がありましたがそれらの共励会のチャンピオンにも劣らない大変すばらしい枝肉でした。おめでとうございます。

優秀賞2点は

出品番号63号、福島県立会津農林高等学校の去勢牛です。最優秀賞に僅差で及びませんでしたが、小ざしが充実しており美しい枝肉と表現できるものでした。欲を言えば切開面のばらの厚さがもう少し厚ければ申し分なかったと思います。腹づくりを頑張ってみてください。

出品番号89号、岐阜県立飛騨高山高等学校の雌牛です。こちらは雌牛らしくコンパクトで枝肉の厚みがあり品のある枝肉でした。ロース芯の頭半棘筋側の脂肪交雑がやや粗目で流れていたのが惜しまれますが枝肉の姿が特に良く、肥育が難しいといわれるメスで出品を続けておられ、毎回入賞している肥育技術は素晴らしいと思います。立派でした。

優良賞3点は

出品番号94号、京都府立農芸高等学校の去勢牛です。僧帽筋が5.5cmもあり切開面に迫力がありました。若干脂肪粒が大きめのサシであったのが惜しまれるところです。

出品番号101号、宮崎県立高鍋農業高等学校の去勢牛です。広背筋の厚さは特筆すべき厚さでした。去勢牛ながら光学測定によるオレイン酸値は54.1%で脂肪の質、締まりがとてもよく、誤解を恐れず申し上げるとすれば、宮崎牛らしい脂肪の質の良い牛でした。

出品番号102号で、鹿児島県立市来農芸高等学校の去勢牛です。肉の光沢が抜群で健康に育ってきたことをうかがわせる枝肉でした。加えて僧帽筋の厚さは5.2cmで切開面に迫力がありました。脂肪の質についてはやや硬めであったので、これからの課題にしてください。





和牛甲子園

枝肉評価部門 審査講評

なお、審査委員特別賞には出品番号73号、栃木県立栃木農業高等学校の去勢牛を選びました。上位6点には及びませんでしたが、特筆すべきは枝肉の厚みが優れていたことです。審査前日の夕方に下見で冷蔵庫に入りましたが、姿かたちが良く、前、中、後躯のバランスの良い枝肉でした。特にサーロイン部の厚さはどの枝肉よりも厚く、生体時の腰元はさぞかし迫力があったことでしょう。審査委員全員異議無く了承されました。

その他、入賞は逃しましたが、福島県立磐城農業高等学校の出品番号64号、鹿児島県立鶴翔高等学校の出品番号105、鹿児島県立曾於高等学校の出品番号109号は瑕疵がなければ入賞を競っていました。栃木県立鹿沼南高等学校の出品番号71号、広島県立西条高等学校の出品番号96号は枝肉のプロポーションが良く、肉質もよい枝肉でした。愛知県立渥美農業高等学校の出品番号91号は肉色が明るく鮮明で、光沢が鮮やかなとてもいい枝肉でした。岩手県立水沢農業高等学校の出品番号55号、56号はオレイン酸値がそれぞれ58.4%、57.2%と高く、脂肪の質は群を抜いており、光沢、締まり、粘りがあり、これから和牛に求められる脂肪質であるといって差し支えない良い脂肪でした。

名前を呼ばれなかった高等学校においても素晴らしい点は多々ありました。時間の関係上割愛しますが、来年に向けて頑張っていたいただきたいと思います。

入賞された各高等学校の皆さん誠におめでとうございます。入賞された各高等学校に褒賞下さることをお願いするとともに、「和牛甲子園」が今後も末永く続くことを祈念して審査報告いたします。

令和6年1月19日

審査委員長（枝肉評価部門）

公益社団法人日本食肉格付協会

専務理事 小林 淳二

〔参考：今回惜しくも入賞を逃したものの小林審査委員長より賞揚された出品牛〕

奨励理由（審査講評より抜粋）	出品番号	出場校
瑕疵が惜しまれる優秀な出品牛	64号	福島県立磐城農業高等学校
	105号	鹿児島県立鶴翔高等学校
	109号	鹿児島県立曾於高等学校
プロポーションがよく、肉質が優れた出品牛	71号	栃木県立鹿沼南高等学校
	96号	広島県立西条農業高等学校
肉色が明るく鮮明、光沢が鮮やかな出品牛	91号	愛知県立渥美農業高等学校
オレイン酸値が高く、脂肪質に優れた出品牛	55・56号	岩手県立水沢農業高等学校



和牛甲子園

枝肉評価部門 審査講評

審査ならびに枝肉の撮影にあたって



和牛甲子園が久しぶりの全面対面で開催できましたことを心から嬉しく思います。この素晴らしい大会に参加いただいた高校牛児の皆様、主催者の皆様、そして私に枝肉部門の審査および枝肉撮影の機会をあたえてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。大会が盛況に終わり、私にとっても高校牛児と直接交流する良い機会となりました。皆様と対面し、コミュニケーションをとることは本当に特別なものでした。

和牛甲子園での体験は、高校牛児たちが手間ひまかけて育てた和牛がと畜され、枝肉となり、それがプロの目で評価され、セリにかけられるといった一連のプロセスを実際に経験できる非常に貴重な機会であると強く感じました。皆様と直接お話しできたことが特に印象深く、臨場感あふれる瞬間を共有できたことは非常に嬉しいことです。成長過程を間近で見てきた高校牛児たちにより愛情を込めて育てられた和牛が、最終的に枝肉として評価され、市場にかけられる様子は、農業や畜産の本質を感じさせられる瞬間でした。直接交流することで、彼らの情熱と努力がどれほどのものであるかを理解し、畜産に対する深い愛情と誇りに触れることができました。

今年は、全部で59頭の枝肉を審査させていただきました。それと同時に枝肉のロース芯や外貌の写真を撮影させていただきました。今回の撮影に使用した機材は、MIJ-15撮影装置とMIJ mobileならびにWagyu Cameraという携帯アプリです。これらの機材を使用して撮影した写真を皆様方にお送りさせていただきました。撮影の最中の短い間ではありましたが、高校牛児や指導してくださっている教員の方々と直接お話をする機会もあり、皆さんの真剣な取り組みの姿勢がひしひしと伝わってまいりました。

ところで、東京食肉市場のセリ場は、私が仕事でちょくちょく行く場所ですが、あれほどたくさんの人であふれかえった様子を見たのは初めての経験でした。今回お送りさせていただきました画像を、次回以降の大会に向けて改善の方向性を考える際の材料として活用していただければ幸いです。

和牛甲子園の、この一連のプロセスは、プロの肉牛生産者としての視点を高め、将来の肉牛産業における持続的な発展につながることを期待されることを実感しました。これからも和牛甲子園が、若い世代にとって畜産の魅力を存分に体験できる場であり続けることを期待しています。

帯広畜産大学 畜産学部
生命・食料科学研究部門 教授
口田 圭吾

※すべての出品牛の画像データは、帯広畜産大学・田口圭吾研究室の協力により、和牛甲子園公式ホームページよりご覧になれます。

<https://wag yukoushien.com/main/koushien04/study-2/>





和牛甲子園

枝肉断面一覧

No.51 北海道倶知安農業高等学校



No.52 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校



No.53 青森県立三本木農業恵拓高等学校



No.54 青森県立三本木農業恵拓高等学校



No.55 岩手県立水沢農業高等学校



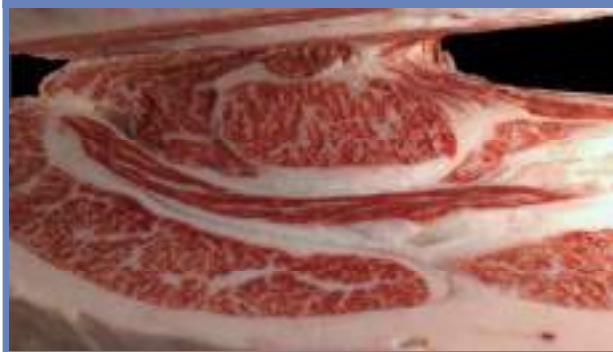
No.56 岩手県立水沢農業高等学校



No.57 岩手県立盛岡農業高等学校



No.58 岩手県立盛岡農業高等学校



※枝肉No順に掲載

No.59 岩手県立花巻農業高等学校



No.60 岩手県立花巻農業高等学校



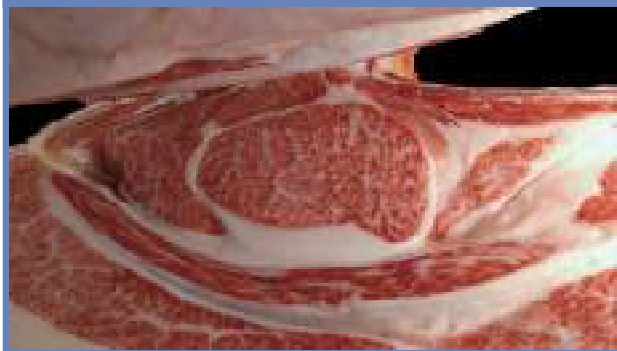
No.61 宮城県農業高等学校



No.62 福島県立会津農林高等学校



No.63 福島県立会津農林高等学校



No.64 福島県立磐城農業高等学校



No.65 福島県立磐城農業高等学校



No.66 茨城県立水戸農業高等学校



※枝肉No順に掲載



和牛甲子園

枝肉断面一覧

No.67 茨城県立水戸農業高等学校



No.68 栃木県立宇都宮白楊高等学校



No.69 栃木県立宇都宮白楊高等学校



No.70 栃木県立鹿沼南高等学校



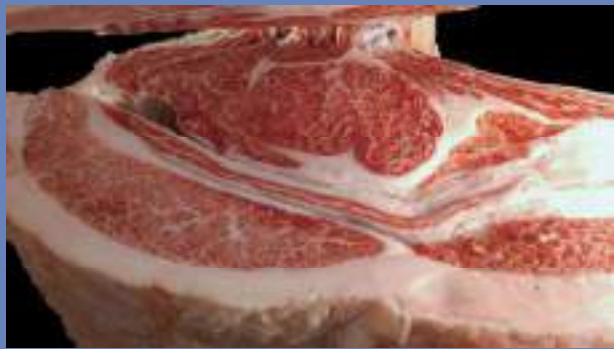
No.71 栃木県立鹿沼南高等学校



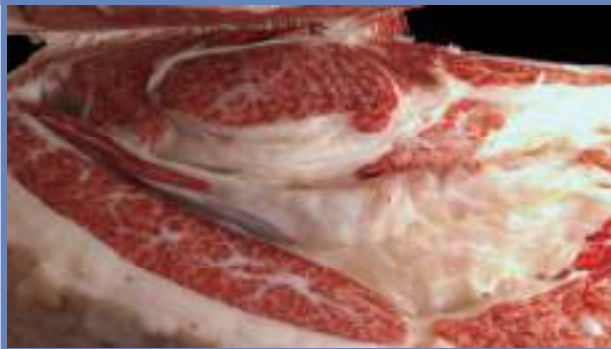
No.72 栃木県立栃木農業高等学校



No.73 栃木県立栃木農業高等学校



No.74 栃木県立那須拓陽高等学校



※枝肉No順に掲載

No.75 栃木県立那須拓陽高等学校



No.76 栃木県立真岡北陵高等学校



No.77 栃木県立真岡北陵高等学校



No.78 栃木県立矢板高等学校



No.79 栃木県立矢板高等学校



No.80 群馬県立利根実業高等学校



No.81 群馬県立利根実業高等学校



No.82 群馬県立吾妻中央高等学校



※枝肉No順に掲載



和牛甲子園

枝肉断面一覧

No.83 群馬県立吾妻中央高等学校



No.84 神奈川県立中央農業高等学校



No.85 富山県立中央農業高等学校



No.86 岐阜県立大垣養老高等学校



No.87 岐阜県立加茂農林高等学校



No.88 岐阜県立加茂農林高等学校



No.89 岐阜県立飛騨高山高等学校



No.90 愛知県立渥美農業高等学校



※枝肉No順に掲載

No.91 愛知県立渥美農業高等学校



No.92 滋賀県立長浜農業高等学校



No.93 滋賀県立長浜農業高等学校



No.94 京都府立農芸高等学校



No.95 島根県立出雲農林高等学校



No.96 広島県立西条農業高等学校



No.97 佐賀県立唐津南高等学校



No.98 熊本県立南稜高等学校



※枝肉No順に掲載



和牛甲子園

枝肉断面一覧

No.99 熊本県立南稜高等学校



No.100 宮崎県立高鍋農業高等学校



No.101 宮崎県立高鍋農業高等学校



No.102 鹿児島県立市来農芸高等学校



No.103 鹿児島県立市来農芸高等学校



No.104 鹿児島県立鶴翔高等学校



No.105 鹿児島県立鶴翔高等学校

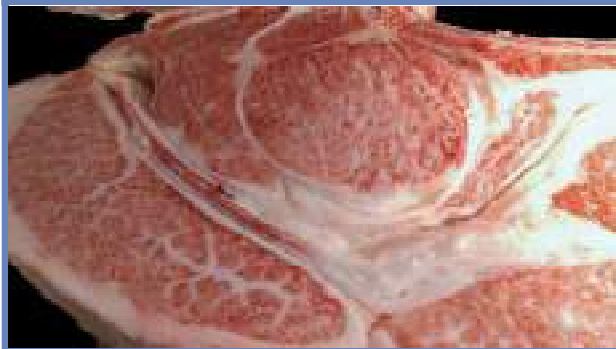


No.106 鹿児島県立鹿屋農業高等学校



※枝肉No順に掲載

No.107 鹿児島県立鹿屋農業高等学校



No.108 鹿児島県立曾於高等学校



No.109 鹿児島県立曾於高等学校



※枝肉No.順に掲載





和牛甲子園

先輩“高校牛児”講話

先輩“高校牛児”による進路講話

目的：進学・就職を控えた現役高校生にとって関心の高い進路選択の事例研究として、和牛甲子園出場経験者が体験に基づく講話おこなうことで、参加生徒の進路選択のための一助とする。

講話者：第3回・第4回総合評価部門 最優秀賞受賞校 鹿児島県立市来農芸高等学校の卒業生3名

内容：高校生の進路・職業選択のためのケーススタディー

方法：司会者との質疑応答・対話形式による講話

今回登場する先輩牛児のプロフィール

中養母 陸斗 様：

高校卒業後、鹿児島県立農業大学校へ進学し、人工授精師や家畜商などの資格取得や、黒毛和牛使用管理におけるスキルアップなどに取り組んできました。この4月から株式会社オクトファームに入社し、生産牛管理の業務に携わっています。

現役牛児の方々には、非農家から牛に携わってきたからこそ見えてきたものなどお話ししたいです。

“進んだ先に道は開ける！高みを目指せ、高校牛児！”



上田平 夏美 様：

卒業後、東海大学農学部に進学。牛と“牛児”が大好きな私は、「農業という職業を輝かせたい、農業に携わっている人間の輝きを社会に向けたい」と“記者”を目指しています。農業と社会をつなぐメディアを理解するため、2年終了時に休学し、株式会社南日本放送に契約社員として入社。来年度より東海大学文化社会学部に転入学予定です。

高校牛児を終えた今の私にとっての“牛児からの道”や和牛甲子園のお話を皆さんとできればと思います！

“高校牛児は日本の光、今を輝け”



宮下 未来 様

高校卒業後、鹿児島県立農業大学校に進学し、人工授精師や削蹄師の資格など様々な資格を取得しながら、牛についての知識を深めていきました。

今年の3月に農業大学校を卒業し、4月からは実家である株式会社ミヤボク宮下牧場で働いています。

社会人としての経験は浅いですが、皆さんのお役に立てるような話ができたらなと思っています。

“皆さんの可能性は無限大です。夢に向かって挫けず進め！高校牛児！！”



《講話要旨》

部活動として「和牛」に没頭した高校生活の思い出、高校卒業後の進学選択の経緯とその後の学び、そして就職活動から現在に至るまで、実体験に基づき語っていただきました。「和牛」への情熱と積極的に人生を切り開く姿勢は参加した高校牛児を励まし、心に響く講話となりました。

先輩牛児から後輩牛児へ贈るメッセージ

中養母 陸斗 様

4年ぶりに和牛甲子園に参加させていただき、高校牛児の熱意と日々の努力に私たちも学ぶところが多かった2日間でした。これから社会に出る方、もっと専門的に学ばれる方、それぞれの進む道で、たくさんの壁にぶつかり、また、立ち止まってしまうこともあるかもしれません。

しかし、これまでの努力や学びは必ず報われます。

これからも歩みを止めず、頑張ってください!



上田平 夏美 様

農業高校で過ごした3年間、人生を一步踏み出すとき、自分を信じてみる力に絶対になります。高校牛児ということを感じる存分活用して、沢山の経験を積んでください!!



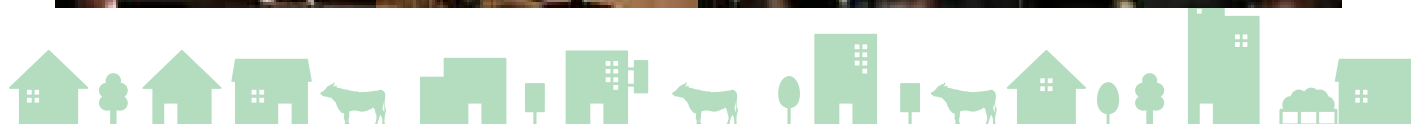
宮下 未来 様

高校牛児の皆さん、和牛甲子園お疲れ様でした! 会場に溢れる皆さんの熱気やレベルの高い取り組み発表に圧倒されました。

これから皆さんは様々な困難に立ち向かわないといけない時がくるかと思いますが、高校生活で培ってきた多くの知識や技術、経験を武器に乗り越えていけるはずだと思います。

2日間、私自身もとても刺激をもらい勉強になりました!!

これからも頑張ってください!





和牛甲子園

第7回和牛甲子園 特別授業（講演会）

演題：「私の進路選択と食肉業界」

—世界を駆ける“着物ブッチャー”、高校牛児へのメッセージ—

講演者：“着物ブッチャー”こと“お肉”の技術と“和牛”文化の伝道師

渡邊 麻莉夏 様



講演者プロフィール：

1994年神奈川県生まれ。中央大学文学部仏文科卒業。

大学入学時は高校の英語の教師を目指していましたが、学生時代にアルバイト先で『お肉』とくに“和牛”にふれて、その魅力に夢中となり、「和牛の沼」にはまりこんでいます。

大学を卒業してからは、お肉と和牛の魅力を伝えるために、修行を続け、途中で頸部のケガに見舞われましたが、現在は「着物ブッチャー」として、得意の英語と精肉加工の技術を生かして、海外に日本の技術と調理方法だけでなく、和牛の文化と魅力を広げるべく、活動を行っています。

そして現在はセカンダリー部位の普及に全力を注いでいます。

今回は、高校牛児の皆さんを前にして、海外における和牛の可能性を中心にお話をしたいと思います。

講演要旨：

前回に続き、進学・就職を控えた現役高校生の進路選択のケーススタディとして、司会者との対話形式による講演を行いました。

高校の英語教師を目指していた大学生が、アルバイト先で短角牛のトウガラシに包丁を入れたことをきっかけに、「天職」に目覚め、職人気質の食肉加工の世界に飛び込み「着物ブッチャー」に変身。そこから、世界を駆ける大活躍が始まりました。

その和牛への情熱は高校牛児の共感を得るとともに、修行中に大きなケガに見舞われながらも夢を諦めずに「道」を切り拓く姿は、高校牛児へ挑戦への勇気を与えました。

「高校牛児は日本の畜産の「宝」との激励のメッセージをいただき、会場也大いに沸き立つ充実の講演となりました。

【高校牛児たちへ贈る言葉】

日本の宝ものであるキラキラした高校牛児の皆さんと関わることができてとても嬉しく思います。また、世界と互角に渡りあう日本の畜産の未来を確信しました。

とにかく心と身体のケアは忘れずに。

世界で皆さんのことを待っています！





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

北海道 倶知安農業高等学校



私は、今回が初めての参加でしたが、自分たちで育てた牛の枝肉を見て、安心しました。自給飼料を与えた牛の肉がどのような肉になったかを、この目で見て確認することができたので、とても良い経験になりました。今後は、今回の和牛甲子園の結果を踏まえ、更に取り組みや飼養方法を改善し、更に良い牛肉を生産できるよう頑張っていきたいです。ありがとうございます。

(辺見 愛心)

私自身2回目の和牛甲子園参加でしたが、昨年度と違ったプログラムだったこともあり、和牛と和牛生産について、より沢山のことを学ぶことができました。全国の同じ志を持つ高校生たちと和牛を通じて繋がり、お互いに高め合うことができたので、自分自身の成長にも繋がったと思います。ありがとうございました。

(山内 彩花)

酪農学園大学附属 とわの森三愛高等学校



今回の和牛甲子園はとわの森で初めての出品でした。色々な高校の枝肉や発表を聞いてそれぞれの地域で飼育の仕方が全然違い

ました。特に鹿児島島の枝肉は凄かったです。枝ががっしりしていて肉質もよく、大きかったです。今回の和牛甲子園をふまえてこれからも肉牛を盛り上げていきたいです。

(十河 三志郎)

今回の和牛甲子園で一番印象に残ったのが鹿児島島の発表を見て地域の人達と協力しながら匂い問題など北海道とは違った問題を解決していたのが印象に残った。学んだことはエサの供給の仕方や害虫の対策などをどのようにしているかです。

(水野 佑哉)

実家は酪農家ですが、高校に入り初めて和牛の飼育に関わりました。肥育はもちろんですが、出荷するのも枝肉を見るのも初めてのことばかりでとても良い経験になりました。自分たちに足りないものは何か考えなおし、今後に生かしていきたいです。

(新海 治美)

青森県立 三本木農業恵拓高等学校



私は今回初めて和牛甲子園に参加しました。他の学校ではどのような方法で管理しているのか、また、どのような活動をしてい

るのかを知ることができ、とても有意義な機会となりました。

(村居 尚生)

初めて和牛甲子園に参加して全国でおこなわれている研究活動を聞いたり、出荷された牛の枝肉を観察したりするなど、普段授業では学べない事を経験することができ、楽しい時間を過ごすことができました。

(三浦 凱斗)

和牛甲子園に初めて参加して、全国の高校生たちが美味しい牛肉を作るために努力、工夫していて、とても感動しました。さらに知識を深めていき、後継者として将来の夢につなげていきたいと思いました。

(鈴木 虹花)

初の和牛甲子園で全国の高校の生徒と交流することで新しい発見や知らなかった事を教えてもらい、実りある2日間にすることができました。これからも美味しい牛肉を生産するために頑張っていきたいです。

(森崎 祐世)



和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

岩手県立 水沢農業高等学校



初めて和牛甲子園に参加して、他校の取り組みについて良く知ることができました。岡山県の高校では名物の竹を敷料のもみさらにチップ状にしたものと合わせて活用する取り組みが印象的でした。

私は将来、家業の和牛の繁殖農家を継ぎたいと思っています。貴重な体験をすることができとても嬉しかったです。

(及川 ゆめ)

今回の和牛甲子園を通して感じたことは、地域の農家さんなどへも調査を行っていた学校が多かったことです。私たちの後輩へも和牛新時代の今だからこそできる新たな挑戦に取り組んでほしいと思います。

私は高校卒業後、大学に行き肉用牛の繁殖から肥育、経営についてより深く詳しく学んでいきたいです。大学で学んだことを、今度は私が教員となって教える立場となり、再び和牛甲子園に挑みたいと思います。

(小澤 彪悟)

和牛甲子園に参加して、全国から高校生が集まり、和牛肥育の

成果を競い合うことができとても有意義な時間だと感じました。特に、先輩の高校牛児の方々の講話を聞いて、どの方も牛への愛情を持っていることが伝わってきました。牛の体調管理や行動を見て判断するだけでなく、思いやりや愛情を持って、牛と接する気持ちを持つことが大切だと改めて気づかされました。

(佐藤 結菜)

本校の先輩方のように最優秀賞を目標に出品牛を育て上げてきましたが、残念ながら入賞を逃しました。悔しい思いでいっぱいでしたが、オレイン酸含有量が本大会で最高値だったことを審査講評で評価いただきとてもうれしかったです。

体験発表会では消費者へアンケート調査を行い、ニーズに合った和牛生産をしている取り組みがとても強く印象に残りました。

(高橋 帆乃伽)

今回の和牛甲子園では他校との交流や意見を聴くことが自分のためになり、楽しむことができました。名刺交換をすることで相手との交流を深めるきっかけとなり、とてもいい取り組みだと思いました。また、「なかやまさんに君」の登場が嬉しいサプライズになりました。

他校の取り組みで印象に残っているのは、どの学校も地域との取り組みを活性化させ、新しく多面的な視点から考え抜かれた取り組みを行っていたことです。

(藤村 実祐)

どの学校の取組もとても勉強になりました。2日目の東京食肉市場では初めてのセリの様子に驚きの連続でした。本校の出品牛については、枝肉にしてみなければ分からなかった肉質や脂肪の状態を見ることができました。

残念ながら入賞はならず、全国から集まった高校牛児たちのレベルの高さを実感しました。ここで学んだことを後輩へ引き継ぎ、次の第8回和牛甲子園入賞を目指して頑張りたいと思います。

(三沢 頼)

岩手県立 盛岡農業高等学校



和牛甲子園に参加し、他校との交流や情報交換で様々な意見を聞くことができ、みんなはこんな事を考えてるんだと参考になり視野が広がりました。私は将来、日本の畜産に貢献したいと考えています。この貴重な体験をこれからの生活に生かしていきたいです。

(坂本 千穂)

和牛甲子園に参加して、他校の取組や見る角度に違いがあって面白いと思いました。まだまだ知らないことが沢山あるので、今回知り合った皆さんと繋がりを持ち、一緒に日本の畜産を盛り上げていきたいです。

(鳴海 巧太)

岩手県立 花巻農業高等学校



来年は、後輩に引き継がなければなりません、また、来年も参加したいと思える大会でした。研修会では、他の学校の牛も見ることができて、私たちの牛と比較することができました。

反省は、もっと積極的に交流できればよかったと思います。

(高橋 友那)

初めて参加させていただき、牛児の皆さんの牛への愛を感じました。発表部門では、内容が牛に対する愛情を感じられる、素敵な学校が多く、勉強になりました。

講演会でも、楽しく聞くことができ、他の学校の牛児たちとも意見を交換することができました。

(鎌田 咲暉)

宮城県農業高等学校



私は1年生の時から「きゅうた」が成長する姿を見てきました。朝と放課後、実習の時間を通して管理をし、主にブラッシングに

力を入れ手が空いたときは必ず行いました。過去の先輩方は『愛情＝肉質』をテーマに活動していました。今後も私達『愛情＝肉質』を目標に頑張りたいと思います。

(木村 楓花)

和牛甲子園本番では宮農の牛をアピールすることができました。現在、ウクライナ情勢の影響で物価が高騰していて牛の値段も下がっていましたが、宮農の牛は高い価格で買い取って頂く事ができ、とても嬉しかったです。牛作りを通して牛についてだけでなく、物価の高騰などの流れを知ることができとても良い経験をする事が出来ました。

(及川 ゆらら)

私は全農の方とアイミート実習を行った事が、思い出に残っています。生体のまま肉質を見る技術を体験することができました。自分たちが毎日ブラッシングや給餌、体測などたくさん世話を頑張った甲斐がありました。

(大栗 萌花)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

福島県立 会津農林高等学校



自分たちが飼育した和牛が優秀賞に選ばれたことに驚き、大変嬉しかったです。受賞した牛は、はじめは言うことを聞かず暴れ牛でしたが、徐々に慣れていき、最後には言うことを聞き移動もゆっくりと動いてくれるようになり、牛もですが、私自身も成長できたと感じました。出荷して寂しさもありますが、販売会を通して、皆さんにおいしく食べてもらいたいです。（大友 優音）

会場に到着し、他校の服装や発表に圧倒されました。取組評価部門でも、仲間や先生方と協力して研究やスライド作成を頑張ったので、選ばれたい気持ちはありましたが、残念でした。枝肉

評価部門では、枝肉を見たときに2頭ともとても綺麗なサシで、BMSNo.12に上げることができ、優秀賞を獲得することができました。畜産専攻班で活動してきた中で、一番うれしい瞬間でした。（児島 心結）

今年はオンラインではなく、実際に会場に行き、他の学校の発表や枝肉を直接見ることができてよかったです。特に枝肉評価部門では、食肉センターの広さと枝肉の数の多さに圧倒され、とても勉強になりました。そして、枝肉評価部門で優秀賞を獲得することができて良かったです。（小竹 慶臣）

初めて和牛甲子園に行ってみて色々な県の牛児が育てた牛の枝肉や行っている活動など、色々なことが知れてとても良かったです。特に鹿児島県の枝肉や発表がとても良かったので来年は負けたくないぐらいの牛を出品したいと思いました。（大友 愛音）

今回の和牛甲子園での取組部門では、他の高校で行われているSDGsに対応し、未利用資源を活用したり、牛達にとっても幸せな肥育を目指していたりと言う興味深い取り組みを数多く学ぶ事ができ、非常に刺激となりました。枝肉部門では、色々な枝肉を見て、何が良くて何が減点に繋がっているのか詳しい説明を受けたり、取組部門で入賞していた高校さんの枝肉を拝見できたりと、非常に貴重で有意義な体験ができたと感じております。（野村 実祐）

福島県立 磐城農業高等学校



参加して良かったことは、これまで約20ヶ月以上もの間を共にしてきた出品牛の「国雄」と「諒太」の成果が目に見えて分かったことです。輝く賞はとれなかったものの、審査員の方にお褒めの言葉をいただき、これまでの自分達がやってきたことが少しだけ報われた気がして嬉しかったです。

他校との交流は、去年とは違ってカンファレンスで話をしたり、名刺交換をして仲を深めることができました。

今後の目標は、今年度の結果を活かし、より良い結果になるように頑張ってほしいと思います。

最後に、和牛甲子園を開催してくださった全農さんをはじめ、関係者の方々に感謝の気持ちがいっぱいです。私にとってはかけがえのない高校生活の思い出になりました。（岡部 美知留）

二回目の参加であり、前回とはまた違った雰囲気を感じました。今回は入賞ができず、少し悔しさが残る形とはなりましたが、それ以前に、賞に入る高校の取り組みや枝肉には圧倒されました。今後は、解説していただいた審査委員の方々のお言葉を胸に次回は、最高の取り組み・枝肉を上げたいと強く思いました。

今回の和牛甲子園では、実際に枝肉見学ができたり、他校の取り組みなど内容も詳しく聞くことができ、とても貴重な時間でした。3年生である私は来年参加できないことがとても悲しいですが、後輩たちに頑張ってもらいます。本当にありがとうございました。（清水 凜心）

私は、はじめて和牛甲子園に参加しました。私が参加して思ったことは、日本にはこんなに沢山の牛について勉強している農業高校生がおり、しかも一同に集まっているのだと知って、とてもびっくりしました。私はまだ高校1年生なので、まだまだ牛について知らないことがありますが、勉強も実習も頑張っていきたいと、この和牛甲子園に参加して思いました。（松崎 花映）

私は今回、はじめて和牛甲子園に参加しました。取り組み発表部門では、他校がどんな取り組み、どんな工夫をしているのかを詳しく知ることができました。枝肉部門では、はじめて枝肉を見て、どんな枝肉がいいのか、枝肉の見方などが分かりました。今回ははじめての経験で、分からないことが多く大変だったので、来年はそれを活かして頑張りたいです。（渡部 花音）

茨城県立 水戸農業高等学校



牛部で約2年間「フジ」と「セリ」の管理を行ってきて、無事和牛甲子園に出品することができました。結果は入賞できませんでしたが、競りでは、セリの枝肉が1キロ5,568円という好成績を出すことができ、自分たちの努力が実った瞬間だと感じ、とても嬉しかったです。

「フジ」と「セリ」の枝肉を見て説明を受けた時、「もう少し赤みの部分が分厚くなると良い」と言われ、そのためにはどうしたらいいのかたずねると、日々の環境管理が大切というアドバイスをいただきました。それを実現させるには、今取り組んでいるよりもっと牛の環境管理について考える必要があることが分かりました。私たちの工夫では、飼料の与え方が上手だとお褒めの言葉をもらうことができました。なので、後輩たちには今回和牛甲子園で私が学んだことを伝え、飼料の与え方を受け継いでもらおうと同時に、環境改善に取り組んでもらいたいです。

和牛甲子園で学んだことは、文章で収まりきれないほどです。後輩と関われるうちにしっかりと伝えていきたいです。今回初めての和牛甲子園でしたが、これからの進路でこの経験を最大限活かせるように頑張りたいです。
(小豆畑 翔平)

今回初めて和牛甲子園に参加して、取組発表は入賞校のレベルがとても高く驚きました。また、出品した牛の枝肉を見た時に、無駄な皮下脂肪が少なく良い肉質になっているとお褒めの言葉をいただきました。今回出品牛の2頭ともA5等級となり茨城県のブランド牛「常陸牛」として上場させていただきました。このような結果がでたのも、毎日のブラッシングの成果がでたのかなと嬉しくなりました。私はもう卒業してしまいましたがこれからも後輩に頑張ってもらいたいです。とても良い経験となり、3年間畜産を学ぶ中で一番良い思い出になりました。

(友部 綺咲)

一昨年、私たちの前に現れた「藤花美」と「芹橙品」は私たちを和牛甲子園に連れて行ってくれました。2頭を育てていく中で私自身も成長することができたと思います。飼育管理を通して触れ合っていく中で、牛も心を開いてくれているような気がしました。見るたびに大きくなっていく姿を見て、2頭の和牛は可愛くて仕方がなかったです。

出荷してお肉になった姿を見ると、いっぱい愛情込めて育てたからこそ、和牛甲子園で良い評価をいただくことができ、とても感動しました。

今振り返ると、日々の給餌や牛部で活動していた時間はあっという間で、終わってしまった今は、少し寂しい気持ちです。2頭と牛部のみんながいてくれたからこそ、この貴重な経験と大切な思い出があると思いました。

和牛甲子園を通して、和牛について深く学ぶことができ、何より命を扱い、いただく尊さを深く学ぶことができました。多くの方の協力があるからこそ、私たちは普段お肉を食べたり、生活できていることを改めて実感しました。当たり前を感じていることは当たり前ではなく、これからも日々感謝を忘れずに過ごしていきたいです。

最後に和牛飼育に関わっていただきました水農応援団の皆様、本当にありがとうございました。
(阿久津 奈那)

栃木県立 宇都宮白楊高等学校



和牛甲子園に参加し、多くのことを学ぶことができました。1日目は、他校の研究についての発表を聞きその地域の特性を生か

した研究をしていてとても勉強になり、取り入れられるところは取り入れていきたいと思いました。

2日目は、実際に枝肉を見て自分たちの高校の出品牛の講評を聞くことができたので後輩に引き継ぎ改善してもらいたいです。最後に、甲子園に参加したことでの交流を図ることができとても良い経験となりました。この経験を卒業後も生かしていきたいです。
(大槻 來人)

和牛甲子園に参加し、和牛について多くの事を知ることができました。1日目は、全国の高校牛児との交流や活動発表をみて私たちには無い発想のものがいくつもあり、今後参考にしていきたいと思いました。2日目は実際に枝肉をみて、課題を知ることができたため後輩に引き継ぎ改善していただきたいと思います。また、活動を通して全国の高校生と交流できとても良かったです。卒業後も今回の経験を生かしていきたいです。
(酒井 謙心)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

栃木県立 鹿沼南高等学校



私は初めて和牛甲子園に参加し、入賞した学校の研究内容を聞くことで、私たちの知らない研究等もたくさん行われており、このような取り組みもあるのだと勉強になりました。講演では、和牛甲子園に出場された方の貴重なお話を聞きました。現在も牛に関わる仕事をしたり、メディアの仕事に就いて牛の良さを広げていきたいと話され、本当に牛が好きなんだなと思いました。発表会カンファレンスでは、「肉質をよくするためにどうしたら良いか」と真剣に話し合い、審査委員の方から的確なアドバイスをいただくこともできました。2日目の枝肉勉強会では、枝肉を見ることに少し怖さがありましたが、説明されていると「もう少し脂肪が少なかったら良かったな」と枝肉の良さ悪しを見つけ、肉の付き方の違いに感じました。その後、セリが行われると約3年間の飼養管理の努力が「あっ」という間に決まることに驚きました。ある高校は、キロ単価が6,000円を超えていました。私たち鹿沼南高等学校の牛は、2,000円台で値段が安いと感じましたが、なかなか良い結果だったと思いました。講演では和牛の良さを世界に広める活動をしている「着物ブッチャー」の話を知ることができ、とても素晴らしい取り組みだと感じました。高校最後に和牛甲子園に参加し入賞はできませんでしたが、多くの枝肉を見ることができ、とてもいい経験になりました。（伊澤 紗椰）

私は、和牛甲子園に初めて参加しました。この大会評価は、取組評価部門と枝肉評価部門があり、取組部門で入賞した高校は、時間をかけ細部まで調査研究をしていると思いました。私は、他校の良い部分を吸収しようと一生懸命にメモを取りました。特に、原稿を見ないで発表する高校生を見ると同じ高校生なのかと圧倒的なすごさに驚きを隠せませんでした。私たちも、黒毛和牛に濃厚飼料とクラフトバルブを混合した給餌実験や畜産GAPの取得、そしてスマート農業等に挑戦しました。私たちの調査研究に対して、新たな飼料としてのクラフトバルブに興味を示してくれた学校もありましたが、私は、コーヒー豆の活用に挑戦している高校の発表に興味深く、聞きました。枝肉評価では、枝肉のつくりから飼養管理を振り返りながら評価を聞くことで、飼養管理の再確認が必要だと痛感しました。私たちの大会は終わりますが、後輩たちには、クラフトバルブ給餌実験を継続し、さらに飼養管理を追求することで、来年こそは良い結果を残してほしいと思いました。私は、動物関係に進学するので、今回の経験を活かして、さらに動物の管理について学びたいと思いました。（内田 麻里）

私は初めて和牛甲子園に出場しました。体験発表会では他校の取り組みを通して、誰もが牛を大切にしていると痛感しました。また、高校生でも「ここまでできるんだ」と驚きもありました。講演では、和牛甲子園に出場した方々のお話を聞き、夢を現実にする行動が大切だと思いました。特に、非農家から農業関係に就職したり、家業である畜産業を継いでいることがすごいと思いま

した。大会1日目は、参加している方々のすごさを知るとともに、たくさんの高校生と交流することができました。2日目は、枝肉を始めて見ました。迷路のような広い冷蔵庫に入った印象は、とても迫力があると感じました。それと同時に私たちが育てた牛の枝肉を見ることで、食材として食べられることにもっと感謝しようと思いました。私たちの枝肉は惜しくも入賞しませんでした。他校の枝肉の色が「すごくきれいだな」と自分たちの枝肉との違いを知ることでもできました。枝肉のセリは、数秒間で値段が変動していました。私たちの枝肉は、少し高いと感じて嬉しく思いました。講演では、「着物ブッチャー」のお話を聞いた時、英語の勉強をしながらアルバイトでお肉を触ったときに私のやりたいことはお肉関係の仕事だと感じたことを聞き、「本当にそんなことってあるんだ」と驚きましたが、着物を着ながら世界に和牛の良さを広めていく仕事は、とても楽しそうだと思いました。また、表彰式の時、最優秀賞の鹿児島県立鹿屋農業高等学校生が、将来の夢を聞かれたときに日本一、世界一、宇宙一の農家になると宣言していて夢を大きく持っていると思いました。そして、なかやまさんに君が応援団長として来てくれたことは、すごい大会だと思いました。このような大会に参加できたのは、農業高校で勉強したからだと思いました。4月から私は、社会人になります。今回の経験を生かして頑張っていきたいです。（鈴木 桃花）

私は今回和牛甲子園で他校の方々の発表を聞き、栃木県の高校で実施しているクラフトバルブ給餌実験等を他校も資料を変え、実施していることを知りました。また、入賞校の発表は、「キノコの菌糸やお茶など多岐にわたる資材を飼料に混合した実験やアニマルウェルフェアとして何ができるのか」と牛のことを考えながら畜産のHACCPやGAPそしてSDGSに基づいた発表はとても興味深く面白かったです。また、枝肉評価では、残念ながら入賞は叶いませんでしたが、他校の優秀な枝肉と比べながら審査員の方の説明を聞くことで、優れている点と劣っている点を理解することが出来ました。本校の枝肉の場合、ロース芯の小ささや背中の凹凸、皮下脂肪のつきすぎ等を教えていただきました。特に、枝肉の作りでは、ロース芯の大きさや内面脂肪の有無、脂肪交雑の均一さなど、様々なことを学ぶことができました。また、枝肉評価において、気になる出品牛として1頭が大変プロポーション、バランスの良い牛だったと褒めて頂けたのはとても嬉しかったです。セリでは、購買者が枝肉を確認しながら、少しでも高く購入してくれることが、どれほどありがたいことなのか理解する事ができました。高校生の出品牛のセリでは、単価が上がっていく様子がとても嬉しく真剣に見ることができました。鹿沼南高校で出品した牛のセリの様子は大切な記憶となりました。今回和牛甲子園に行き、他校の取組や初めて枝肉を見たことは、とても良い勉強になりました。また、農業を担う先輩方の経験談や応援団長に任命されたなかやまさんに君の思いを共感できたことはとても良かったです。この経験を活かして、今後も頑張っていきたいです。（前田 夏海）

私は、今年初めて和牛甲子園に参加し、大会の迫力のすごさだけでなく、色々な高校の発表や意見を聞くことで、私たちの発表を見直すことができる、とても良い大会に仲間と参加でき嬉しく思いました。1日目には、体験発表会、講話、体験発表会カンファレンス、交流会がありました。特に、体験発表会では、昨年度までに発表した高校の反省や改善点を徹底的に調べ、今年こそはとどこの高校も自信を持って発表していることがとてもかっこよく見えました。講話では、鹿児島県市来農芸高等学校の卒業生3名の方が、インタビュー形式で経験や選択した理由などを話してくれました。体験発表会カンファレンスでは、私たちが発表したクラフトバルブの給餌実験に対して、審査員の方からの好評を頂き、

これからの実験に繋げていこうと思いました。交流会では、なかやまさんに君がスペシャルゲストとして登場し会場を盛り上げてくれました。パワーを頂き、これからの研究を頑張る活力になりました。二日目は、枝肉勉強会、枝肉共励会、講演、枝肉審査好評がありました。枝肉勉強会では、東京都中央卸売市場食肉市場に行き、初めて枝肉を見学し、枝肉の作りを見て驚きました。審査員の方から説明され、飼料の栄養が行き届いていないのは牛のお腹を見たら分かること、油を採りすぎていることなど細かく教えていただきました。私たちの学校は、「もう少し頑張ったら入賞できたよ」と言われ、「来年は今年よりもっと頑張てね」と後輩に伝えたいと思いました。セリでは、去年の3,056円を超えたいと目指しましたが、2,900円代で少しかかりました。しかし、結果が数字として表れて良かったです。講演では、着物ブッチャーの渡邊麻莉夏さんからお話を聞き、和牛の素晴らしさを世界中の方に発信することで、これからの日本の畜産を盛り上げる素敵の方だと感じました。私も、何か自分が好きなことで、世界中に発信できる人になりたいと思いました。最後に、今回は入賞することは叶いませんでしたが、今回取り組んだ研究は無駄ではないと思います。私は、この経験をこれからの自信に繋げていきたいです。

(吉井 美穂菜)

私は、食料生産科畜産専攻生の3年生と共に和牛甲子園に行きました。私自身、環境緑地が専門のため畜産の知識はあまり無く不安でしたが、多くを学び交流をすることができました。初日は、参加校の紹介から始まり、和牛飼育体験発表会で講評を聞きながら、入賞校が評価された点はどこなのか、鹿沼南高校との違いは何かと探しました。先輩高校牛児の講話では、今までの経験に基づいた話をしていただき、とても有意義な時間を過ごせたと思います。二日目は、芝浦家畜食肉市場に行きました。各校、育てた牛の枝肉を見学し、担当の方から、良い点と、改善点などの説明をして頂きました。セリでは、1キロ単価5,000円の値が付いた枝肉があり、とても驚きました。せり場は大盛り上がりでした。枝肉勉強会後、入賞牛の解説と褒賞式が行われました。入賞牛は

他の牛と比べて何が秀でていたのか、入賞校は他の高校と比べてどのような飼養管理を行い成果がでたのか。また、どのような経験をして来たのか。とても興味深く、今後、鹿沼南高校の畜産部で活かせることを考えさせられました。しかし、反省すべきこともありました。専門用語を理解できないことがあったのです。最低限の用語は事前に調べ、頭に入れておくべきでした。来年の和牛甲子園に参加できるかは分かりませんが、3年生の選択科目で畜産を学び多くの知識を身につけ、今年以上の良い成績を収められるように努力して行きます。

(部屋 和己)

今回、先生方のおかげで環境緑地科に所属しながら和牛甲子園に参加させていただくことができました。大会では、枝肉の評価方法、各校それぞれ特色のある牛の育て方や研究発表会など、2日間にわたり貴重な体験をさせていただきました。一日目は全国から集まった参加校の紹介から始まり、研究発表の講評が開かれました。どのような点が評価されるのか、評価の高い高校はどのような取り組みや工夫をしているのかを知ることができ、大変勉強になりました。その後も、先輩高校牛児らによる講話など、普段の学校生活ではできないような体験ができ、実りのある一日目となりました。二日目は芝浦の家畜食肉市場へ見学に行きました。牛の枝肉を間近で見ることができ、牛の肉付きについて評価の仕方を学ぶことができました。自分自身、育てた牛の枝肉を見ることは初めての経験だったので最初こそ驚きましたが、責任感をもたなければいけないのだと再確認することができました。午後は褒賞式が行われ、入賞した高校の取り組みと鹿南を比べどのような点が特化しているかなどを意識しながら講評を聞くことができました。入賞校のインタビューでは、一人一人が本気で牛と向き合っていると伝わってきて、「鹿南も負けていけない」と悔しかったです。私は、畜産部で活動していますが畜産の知識に乏しさを感じた大会でした。しかし、牛の命を預かり、育てる者として責任があると同時に、私には学ぶ義務があります。だからこそ、来年は選択科目で畜産を学び、畜産の知識を増やし、よりよい牛つくりのために全力で頑張ろうと思います。

(部屋 光己)

栃木県立 栃木農業高等学校



絶対に関わる事の出来ない道府県の方達と名刺交換をしたり、SNS交換をしたり趣味の話をしたりなど沢山交流する事や、実際

に見る事の出来ない枝肉を触ったり照らしたりして近くで比べる事ができたので参加して良かったと思います。

(星野 圭那)

今回初めて和牛甲子園に参加しました。県外の農業高校の人達と意見交換や、名刺交換が出来てとても貴重な時間でした。また、自分たちの学校の出品した枝肉が審査員特別賞をいただけてとても嬉しかったです。初めて和牛甲子園に参加して勉強になったこともたくさんあったので、学んだことを次の世代に引き継いでもらいたいです。

(清水 麻衣)

今年初めて和牛甲子園に参加しました。県外の人たちと名刺を交換して意見を貰ったりしました。

実際に自分が育てた牛の枝肉を見てとても衝撃でした。特別賞にも入り、とても嬉しかったです。

高校の3年間で牛を学べて良かったと思いました。

(鈴木 小春)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

栃木県立 那須拓陽高等学校



和牛甲子園という全国の農業高校生が交流する場に参加できてとても良かったです。高校ごとに様々な活動を行っていて新しい発見や刺激をもらいました。今後も農業に対して関心を持ちながら知識を深めていきたいです。
(和田 一輝)

和牛甲子園に出場して全国の高校牛児と交流できてとてもうれしかったです。同じ夢に向かってる人たちを見てとてもいい刺激を受けました。
(粕谷 颯来)

少子高齢化によって若者の就農人口が減少している現在ですが、和牛甲子園を通じ、全国には農業を志す仲間がこんなにもいることを知り、私は勇気を頂けたそんな機会となりました。

(後藤 徹平)

全国の農業高校の皆さんと交流できて楽しかったです。私たちとは違う視点からの課題や研究を知り、自分のためになりました。イベントがあつたりなかやまさんに君が来てくれたりと農業をやっていたよかったと思いました。

(長谷川 空河)

和牛甲子園に参加し、多くの方の話を聞いてとても良い経験になりました。また、名刺なども交換してコミュニケーションを取れてとても楽しかったです。このような大会に参加できたことを今後の糧としていきたいです。

(藤本 璃捺)

将来、畜産業で働く自分にとってとても貴重な体験になりました。育ててきた牛をちゃんと出荷するところから全国の農業高校の皆さんと交流したり、いろいろな方々から話を聞けてとても良い経験ができました。またなかやまさんに君さんの登場など楽しく和牛甲子園に参加できて良かったです。

(田嶋 宏丞)

栃木県立 真岡北陵高等学校



全国から集まった高校牛児達と共に、日ごろの成果を発表し合うことができ、良い経験になりました。他県の活動内容でとても興味深いものだったり、すぐに実践できそうなことがあったりと、今後の活動に参考になりました。

(井澤 愛道)

他校と自分の学校の枝肉とを比較しながら見ることで、とても勉強になりました。入賞した枝肉は、どれも綺麗にサシが入っていて、見とれてしまうものでした。来年こそは入賞できるよう努力していきたいです。

(山崎 直斗)

和牛甲子園に参加して、普段関わることがない県外の高校生と交流が持てたことは、とても良い経験になりました。様々な取り組みを知り、今後自分達の練習にも活かしていきたいです。

(栗原 絢菜)

栃木県立 矢板高等学校



昨年は先輩方が、枝肉評価部門で最優秀賞を獲得していたため、連覇を目指し活動をしてきました。結果こそ残念でしたが、クラス牛がA 5ランクかつ高値で競り落とされる瞬間を見ることができて、本当に嬉しく思いました。（石塚 泰平）

私は高校卒業後、岐阜県の牧場で研修を行います。岐阜の高校も参加していたので、勇気を出して名刺交換を行い、交流することができました。和牛甲子園は牛仲間を広げられる最高の大会だと思います！（神長 慎秀）

実際に枝肉を見るのが初めてで、冷蔵庫の中の光景に圧倒されました。1頭1頭に物語を感じるとともに、と畜・流通・販売に関わる方々に感謝の気持ちが湧いてきました。（藤田 勝也）

群馬県立 利根実業高等学校

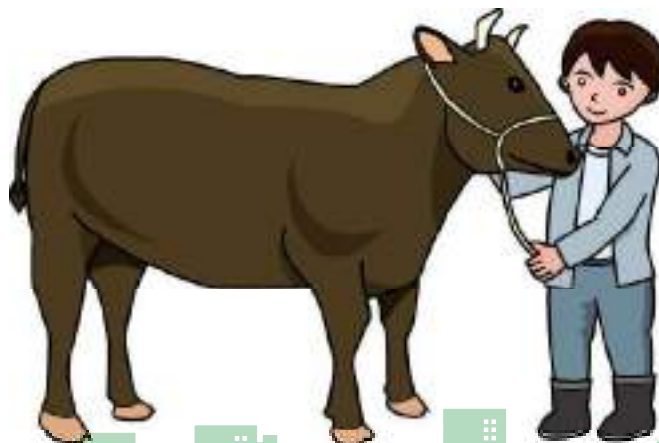


今回和牛甲子園に参加して他校の生徒と交流ができ、どのような取り組みをしているのかが具体的に知れてとても勉強になりました。他校の頑張っている生徒と出会うことができて良かったと思いました。（堀江 紅留未）

和牛甲子園で他校の方々と交流して意見を交換して、多くのことを学ぶ事ができました。気になったのは、アニマルウェルフェアというものでした。学んだことを後輩に伝え、来年の和牛甲子園に生かしてもらいたいと思いました。（野上 夢奈）

和牛甲子園に向けてブラッシング、餌やりなどをしてきました。アンモニア濃度の研究では失敗もありながら結果も出せて良かったです。和牛甲子園全体を通して他の学校の熱意を感じました。この貴重な体験を忘れずに今後に活かせればと思います。（青木 柚子）

和牛甲子園では、多くの高校牛児が和牛について学んでいるのだと驚きました。取組評価部門の結果発表と入賞校の発表がとても心に残りました。枝肉評価部門の結果発表では、福也と波葉の枝肉を見ました。どちらもA 5等級になり良かったです。（八木 里実）





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

群馬県立 吾妻中央高等学校



今回初めて和牛甲子園に参加しました。去年は先輩方が参加していて、かつリモートでの参加だったので現地での参加は楽しみでもありましたが不安でもありました。高校から酪農について学び始め普段乳牛と触れ合うことが多く、和牛への知識があまりなかったので実際の研究発表のレベルの高さや初めて見る枝肉にとっても驚きました。枝肉勉強会や先輩牛児の方、着物ブッチャーの

方の講話も充実していて、とてもためになるお話を聞くことができました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、今回の和牛甲子園で見たもの聞いたものを今後の知識として活かしたいです。
(関 すみか)

今回、初めて和牛甲子園に参加して、自分達が育てた肥育和牛を出品することができて嬉しかったです。実際に枝肉を見た時は少し複雑な気持ちになりましたが、改めて命の大切さを感じることができました。この気持ちを忘れずにこれからも部活動を頑張っていきたいです。
(岩井 いろは)

今回和牛甲子園に初出場してみて、和牛肥育についてとても勉強になりました。初出場でわからないことも沢山ありましたが、他の学校の先輩方と話したり、講話をきいたりしていく中で、さらに和牛について興味を持つことができました。(飯塚 姫奈乃)

和牛のどのような枝肉が良いか、飼料の与え方での肉質が変わってくるなど、とても勉強になることがありました。また、最優秀賞の枝肉と吾妻中央の枝肉を見比べた時も全然違ったのでもっと肥育技術高めていきたいと思いました。(本間 瑞生)

神奈川県立 中央農業高等学校



高校最後の和牛甲子園に3年間共に歩んできた仲間、そして牛と一緒に出場し、優秀賞・A5等級を獲得することができ、本当に嬉しかったです。次の大会に向けて後輩には更に上を目指して頑張りたいです！
(関 菜々子)

毎年他校のレベルの高さに圧倒され、和牛甲子園入賞が私の夢になっていきました。今年度は取り組み評価部門で優秀賞という結果を頂き、支えてくださった多くの方々に感謝を伝えたいです。また、ここまで一緒に頑張ってくれた出品牛の「黒男4号」、本当にありがとう。
(宗政 心陽)

初めて和牛甲子園に参加し、皆のやる気が伝わりとても楽しかったです。そして優秀賞を受賞できてとても光栄でした。生のなかやまきんに君も最高でした！
(土屋 郁弥)

今回2回目の和牛甲子園の参加で、去年とはまた研究内容が変わっていきとても面白かったです。来年は自分の代になるので、今までの先輩の研究や他の高校の良い所などを参考にしながら頑張りたいと思います。
(土佐 道香)

全国の高校が特色のある研究をしていて、見聞を広げるととても良い機会になりました。また、それぞれの研究の利点や課題も見ることができ、これからの改良に向けての勉強になりました。
(阿部 太郎)

今回初めて和牛甲子園に参加してとてもいい経験をさせて頂きました。特に枝肉の視察では、今後の改善点やこれからも継続すべきことなどが分かりました。来年の出品に向けて日々牛の健康観察や飼養管理を徹底したいと思いました。
(青木 希恋)

まだ1年生という経験や学びが浅い中で和牛甲子園という大きな大会に参加することができ、他校の取組を実際に聞いたり枝肉のセリの迫力を感じることができました。来年や再来年では今回の改善点を生かし、先輩方の取組も継続していきたいです。
(宇留野 笑莉)

富山県立 中央農業高等学校



2日間とても緊張していましたが、今後の実習や課題研究などに活かせるような経験になりました。体験発表会では、その地域の特産物を活用した取り組みが新鮮で面白かったです。枝肉共励会では、高校生の育てる和牛の質の高さに驚き、今後も質の良い和牛を育てていきたいと強く決心しました。(田中 侑美)

和牛甲子園当日まで大変な事もありましたが、先生や先輩、同級生からも多くを学び、貴重な経験となりました。また他校生との交流会やOB・OGの講話、サプライズゲストの登場など様々なイベントがあって、とても楽しい2日間となりました。今回の経験を胸に、新たな気持ちで来年の和牛甲子園に臨みたいで。

(山下 みさき)

先輩方の軌跡を知ることができる、とても貴重な経験ができました。しかし他校の研究発表を聞き、理解はしていましたが本校の発表では足元にも及ばないという事を痛感しました。しかし、枝肉評価では本校和牛甲子園史上最高の評価となり、嬉しかったです。次回に向けてしっかりデータをまとめ、備えたいです。

(中村 悠人)

他校ではどのような肥育方法なのかなど、同じ年代の高校生相手に確認できた事がとても面白かったです。また、枝肉を見ることが初めてで貴重な経験をできたのでよかったです。先輩の進学や就職についても話聞くことができ自分の将来につながる講演なども聞いて良かったです。(三浦 琢磨)

岐阜県立 大垣養老高等学校



いろんな高校のひとと名刺を交換したり質問をしあったりして交流ができてよかった。全国の高校と交流をすることで色々な新しい発見があった。

市場では岐阜県のみならずで市場内を盛り上げて楽しかった。飛騨高山高校は6,249円で和牛甲子園の中で2番目に高かった。陽和多号には瑕疵があると思っていたが、なかったし、BMSも11だったのを知りとても嬉しかった。

今年の和牛甲子園でたくさんのことを学ぶことができたし、いい結果を得られることができてよかった。(桑原 七海)

今回第7回和牛甲子園に出場させていただき、様々な高校の枝肉や取組発表、質問など勉強することができました。ほとんどの高校で持続可能な牛の飼育管理を目指してさまざまな取り組みを行っていた。北海道倶知安高校では消費しきれなくなったジャガイモを使用した飼料作りを行き、鹿児島県竹林は竹林の敷地面積が年々増加していたことと、管理者の減少による放置竹林面積の拡大が地域の問題になっていたため、竹林を使用し粉末状にした

「笹サイレージ」をつくった。笹サイレージはオレイン酸が高くなるという結果がでた。このように様々な高校で地域の問題になっていることを高校生が取り組むことによって地域に貢献し、高校生のことを地域の方々が知るきっかけとなり地域との交流を深めることが可能となるため、これからの高校生の取組がとても重要となってくれと思った。また、和牛甲子園で得た情報や知識を生かしていきたい。(塚田 彩結)

いろいろな高校のひとと、名刺交換をし、互いの取り組みについて話し合い横のつながりを持ち、知識を広げられて、肥育班での思い出にも残るような時間を過ごせたと思う。

参加している高校の多くでサシバエ対策について取り組んでいていくつかの高校があり、その中でもサシバエ対策にミニワスプという寄生蜂を設置したという話を聞き、これまで見てきたものと、薬などを使うものが多かったが、毒をもって毒を制するがごとく、目には目を歯には歯を、のように虫を使ったやり方は今まで考えたことがなかったなと思った。(永瀬 綾)

私たちが疑問に思ったことを全国の農業高校生に伝え交流ができたこと、すごくいい機会になったと思う。また、私たちが取り組んだことのない新しい発想を全国の農業高校生が発表してくれて、今後の大垣養老高校の和牛肥育の改善にも役立つ意見がたくさんあった。卒業したレジェンド牛児や着物ブッチャーの方の話など高校を卒業した後も牛にかかわった仕事をしており牛にける思いが強くてすごいなと感じた。今回は取り組み評価部門優良賞という結果だったが、肥育班みんなで一から作り練習してすごくいい発表ができたのではないかと私は思っているのでもっといい経験だったと感じた。今回出品した陽和多号のお肉が消費者のもとへと届いておいしいと思ってもらえるといいなと思う。

(松岡 優衣香)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

岐阜県立 加茂農林高等学校



充実した楽しい2日間でした。和牛甲子園は、3年間の研究成果を発表する最初で最後の大舞台でした。どの高校もそれぞれの地域の特色を活かした発表でとても面白かったです。実際に会場に行くことができ、牛を愛する高校牛児が沢山いることを実感できて嬉しかったです。

取組評価部門では最優秀賞を受賞することができましたが、枝肉評価部門では入賞することができませんでした。しかし、他校の牛と比較して課題を見つけることができました。

様々なことを学ぶ機会をいただき本当にありがとうございました。
(秋田 風生)

私は和牛甲子園を通して、多くのことを学び経験することができました。取組発表では、発表原稿を毎日何度も繰り返して練習し、動画も何回も撮りなおしました。とても大変でしたが最後まで頑張りきることができました。その甲斐もあり最優秀賞を受賞することができました。私たちの名前が呼ばれた時は本当に驚き、とても嬉しかったです。

他校の生徒さんとも交流することができ、畜産業の未来について本気で考えている人たちが多くいることを実感できました。

私たちの課題や改善策も分かったので、来年はぜひ総合優勝を目指して欲しいです。和牛甲子園に参加させていただきありがとうございました。
(橋本 美桜)

私は今回、2年生で参加させていただきました。先輩方の取組発表に対する熱意や牛への愛が沢山伝わり、当日には会場の雰囲気も感じることができました。また、他校の生徒さんとも交流することができ、同じような夢を持つ仲間も多くいることが分かり、私もさらに夢に向かって頑張ろうと強く思いました。

あと約1年間の高校生活で悔いの残らないように、研究や普段の生活を過ごしていきたいです。とても楽しく充実した時間を提供していただきありがとうございました。
(渡邊 煌)

岐阜県立 飛騨高山高等学校



僕は和牛甲子園を終えて、とても沢山のことを学ぶことができました。他県との高校との交流では、他の高校と自分達の高校の違いなどを話しながら学ぶことができました。そして自分達の「うみ」の良さを全国に広めることができたので良かったです。
(森本 樹)

甲子園を終えてしばらく経ちますが、私の学校生活の中でとても思い出に残った体験でした。印象に残ったことは特別ゲストの登場と他校との交流で、様々な高校の方と話して仲良くなれました。このような体験の機会をくださりありがとうございました。

(大西 永真)

愛知県立 渥美農業高等学校



今回の和牛甲子園では、取組評価部門で優良賞をいただくことができました。3年間の努力が少しでも報われてよかったです。この3年間、「みすず」と「つむぎ」のおかげで楽しいことばかりでした。枝肉評価部門での賞はとれなくても、私にとって2頭はいつまでも

自慢の2頭です。3年間ありがとうございました。(稲垣 帆風)

私は今回で3度目の和牛甲子園でした。各校のレベルアップした取組や枝肉を実際に見ることができ、とても良い勉強となりました。また、他校との交流の場面が多くあり、良かったです。この経験を活かし、大学生活も励んでいきたいです。3年間ありがとうございました。(奥田 里紗)

和牛甲子園に初めて参加して、自分の知らない取組を知り、新たな知識をつけることができました。この得た知識を使い、今よりもよい取組を進めていけるように、これから頑張っていこうと思います。(岩本 漣)

枝肉を初めてみたとき、どのような肉質が勉強会で見て学べたことが良かったし、今後の目標として最優秀の学校の肉質に近づけられるような取組を行っていききたいと思います。(沖尾 瞳月)

滋賀県立 長浜農業高等学校



今回、和牛甲子園に参加させていただき思ったことがいくつかあります。まず、他校の生徒との交流の中で飼育方法やえさの種類等が高校によって全然違うこと、牛に対する思いが本当に強いということが感じました。また、先輩方の講話も興味深く感じました。

一番、印象に残ったのは枝肉の見学・セリです。初めて自分たちが育てた牛の枝肉を見て本当に貴重な体験をさせていただきました。(大西 心愛)

今回、和牛甲子園に出場して他校との交流会、枝肉の見学、セリ現場の視察など貴重な体験を2日間で体験できたことはとても良かったです。

他校との交流会については、北海道の生徒さんなど今まで接することがなかった地域の方と話すことができ勉強になることが多くありました。また、発表に関しても見せ方など各校工夫があっ

て勉強になりました。(國友 紫月)

今回和牛甲子園に参加して全国にたくさん和牛を飼育している学校があることに驚きました。枝肉に関しても初めて生で見ることができ、少し複雑な気持ちになりましたが立派なお肉になっていてとてもうれしく思いました。そのほかにもセリへの参加など印象に残る2日間となりました。(田中 竜歩)

この大会に向けて日々の管理や発表練習など一生懸命、取り組むことができましたが、受賞した学校の発表を聞いてレベルが違いうことに驚きました。特に声の出し方や表現などについて学びました。枝肉を実際に見たときは迫力がありすごくびっくりしました。また、育て方でこんなに差が出ることがわかりました。本当に今回の大会は一生の思い出となりました。ありがとうございました。(南部 美咲)

今回、和牛甲子園に参加させていただいて他校の発表のレベルや意識の高さなどに圧倒されてしまいましたが、勉強になることが多くあったという間の2日間でした。特に枝肉に関しては初めて見ることで衝撃的でした。自分たちが育ててきた牛のセリについても興味深くとても勉強になりました。(松塚 まい)

過去の先輩方の話を聞いてこの大会への取り組みを始めることにしました。大会までは、発表練習など一生懸命取り組みましたが、当日受賞校の発表を聞いてレベルが違うことを学びました。そのほか、他校との交流会で肉質のことや育成期の運動量のことなど様々なことを学ぶことができました。

この経験を活かして卒業後の活動に取り組みたいと思います。(松宮 心音)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

京都府立 農芸高等学校



私は今大会を通して、様々のことが得られたと思います。特に賞をいただけたことや、私たちだけでなく他校の講評も聴けたことが、とても大きかったと感じました。良かった点やまだ改善できる点を知ることができたため、次の世代につなぎ、更に良い取組や肉質で和牛甲子園に出て欲しいと感じます。（加藤 佐和子）

和牛甲子園で他校の取り組みを聞き、和牛に対してこんなにも真摯に向き合う人達が本気になっているのを知り、感動しました。ダブル受賞出来て審査員や他校からも嬉しい評価をいただき自分たちの高校も負けてないと感じました。今回は「春来」号の1頭出荷でしたが、次は、2頭出せると思うので、最優秀賞に近づけるように、頑張っていきたいです。（小出 涼太）

最初で最後の和牛甲子園に出場させて頂いて、1年生の頃から大切に飼育してきた和牛とメンバー全員で挑めたこと、枝肉評価部門と取組評価部門の両方で賞を頂けたこと、本当に嬉しかったです。そして同じように和牛を飼育する高校生のみんなの取組を見て新たな発見も沢山あり、会場には色々なブースもあって楽しかったです。2日間ありがとうございました。（佐々木 理来）

僕は和牛甲子園に参加して一番印象に残っているのは自分達が育てた牛の枝肉を見た事です。とてもきれいで良い枝肉になっているのを見てすごく嬉しかったし、最優秀賞が取れるんじゃないかと思ったけど優良賞でした。もっと良い牛を育てている高校があるのだと思ったし、次こそは最優秀賞を取って欲しいという気持ちが強くなりました。（佐々木 蓮太郎）

他校の発表を聞いた際には、地域の特産物等を使って様々な取り組みをしていたので、「まだ畜産にはこんな可能性があるのだ」と考えさせられました。枝肉は高値で取引して頂き、購入者の方に、「去年に引き続き良い枝肉だった」と評価して頂きとても嬉しかったです。最優秀賞は逃しましたが、来年の後輩達には、最優秀賞を取って貰いたいです。（松尾 正嶋真）

和牛甲子園に参加して、様々な品質の高い枝肉の実際に見ることができたことで、3年間の最後にすごく良い刺激を受けました。ただ、結果としては最優秀賞を受賞しなかったと思います。（松本 順俊）

島根県立 出雲農林高等学校



2年間育ててきた「桃茶」が和牛甲子園でA5ランクのBMS No.12を獲得することができて良かったです。また、他校の普段の取り組みを知ることができ、参考になりました。和牛甲子園や研究で学んできたことをこれからも生かしていこうと思います。（木村 自然）

和牛甲子園に出品した「桃茶」号は約2年間飼育してきました。私たちは、最優秀賞を目指して日々の管理をしてきました。毎週の体測やブラッシング、休日学校に行き飼料給与などをしていました。しかし、最優秀賞を獲得することができませんでした。

和牛甲子園での課題点を見直して今後の牛の飼育に活かしたいです。（中林 夢望）

今回の和牛甲子園で学んだことは努力をしても必ずしも良い結果が獲れるとは限らないということでした。「桃茶」は高確率で賞に入ると思っていたので結果を見たときはショックを受けました。来年の和牛甲子園では好成績をおさめてほしいです。（八幡 十士郎）

今回の和牛甲子園は悔しい結果でした。瑕疵があったことで商品価値が下がり、課題研究の目標だった枝肉部門での最優秀賞獲得ができなかったからです。ただ、最優秀賞校の牛と「桃茶」を比べると歩留やロース芯面積などが劣っており、全国はレベルが高いなと思いました。来年開催される第8回和牛甲子園に出場する2年生には私たちの無念を晴らしてもらいたいです。（藤原 結衣）

和牛甲子園に参加して、他の高校の取り組みやすごく質の良い肉を見ることができました。「桃茶」の肉質はものすごく良かったけどやっぱり最優秀賞の枝肉は本当の大きくて迫力満点でした。でもやっぱり「桃茶」は今までの皆さんのエサを食べてくれてこんなに大きくなってくれたので私の中では「桃茶」が世界一の最高級の牛です!!この2年間の課題研究や桃茶との思い出はすごくいいものになりました。（中尾 陽琉）

岡山県立 瀬戸南高等学校



今大会に参加して県外牛児の体験談を聞いたり、名刺交換の交流の中で取り組み内容の裏話などを話したり充実した2日間となりました。体験発表では各々の地域ならではの課題点があり、解決に向けたユニークな発想に驚きを覚えました。枝肉共励会では予想をはるかに超えるセリ価格を叩き出した枝肉もあり、感動と驚きで一杯でした。

次大会では肥育牛を出品予定なので、その評価が待ちどおしいです。来年に向けて肉質向上を目指していきたいです!!(神田 陸)

今回、和牛甲子園に参加したことで、初めて実際の枝肉を見られたことが1番良かったです。資料ではなく実際に肉の特徴であ

るサシや瑕疵などを細かく見ることができ、色々なことについて知り、考えることができました。

また、他校の方と話をすることで、お互いの学校について知ることができて楽しかったです。名刺も個性が出ていて面白かったです。参加できて良かったです。(島村 優奈)

私は枝肉を初めて見たのですが、想像以上にすごいもので、とても興奮しました！資料の写真だけではなかなかわかりづらかったところがはっきりわかり、見ていてとても楽しかったです。いいお肉を作るのにとてつもない時間と労力を注いでいるのが一目でわかりました。

たくさんの高校牛児たちがそれぞれの目標を掲げ、努力しているのを見て”私も負けられない”と思いました。とても良い経験ができて嬉しいです！

ありがとうございました。(増田 息吹)

今回、自分は和牛甲子園へ初めて参加しました。この2日間、自分の知らないことについて知れたり、自分が育てた牛がどのようにセリにかけられるのかなど、実際にセリの会場で枝肉が競られているのを見られたりして、普通の生活をしていたら体験できないことを経験でき、とても嬉しく感じました。

また、他校の高校生とお互いに名刺交換をして、自分たちの活動や研究について話し合いをして、充実した時間を過ごすことができたので、とても良かったです。(光石 真比呂)

広島県立 西条農業高等学校



和牛甲子園が終わって感じたことは大会に向けて、もっと早く始めていく必要があったことでした。

受賞した9つの出場校は全て発表が聞き取りやすく、資料も見やすかったためとても興味を惹かれました。

枝肉部門では「愛姫号」の枝肉量は良かったものの、皮下脂肪がとても厚かったです。しかし、重量を見ると、短期肥育を目指している私たちの研究の成果が出ているのではないかと感じました。また、適切な脂の厚さにするにはどうしたらいいのか、これ

が今回の枝肉に対しての課題だと感じました。(木崎 弾瑛)

今回初めて第7回和牛甲子園に参加して、とても良い経験や思い出、勉強になりました。他の高校のIoT技術や飼料会社と連携した取組には驚かされました。2日目の枝肉勉強会では、初めて枝肉を見ました。一頭一頭サシの入り方や脂肪の厚さ、肉色に違いがありとても興味深かったです。卒業後は畜産とは離れますが、今回の和牛甲子園での経験や学びを活かしていきたいと思います。とても貴重な経験ができ本当に良かったです。(榊田 海菜)

私は、初めて和牛甲子園に参加して感じた事は、他校のレベルの高さです。取組内容のスライドや発表の仕方にそれぞれの工夫があり、よく見て欲しい所には印や大きくして見やすくし、聞いてくださる方たちに分かりやすく伝える意識をしていたことが印象的でした。今回、目指していた結果にはならず悔しい思いをしましたが、これまでやってきた研究の内容を伝える事ができたと思います。この大会に向けてデータの分析や資料など色々大変なことをしてきましたが、この活動はとてもいい思い出になりました。しかし、目標である最優秀賞は取ることができなかったのも、後輩たちには頑張ってもらいたいです。大学でも肉牛に関する事を学ぶので、この体験を活かして頑張っていきたいです。ありがとうございました。(村上 怜寧)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

広島県立 庄原実業高等学校



今回、初めて和牛甲子園に参加して、他校の様々な取り組みや細かな工夫を知ることができて、とても勉強になりました。また、40校と多数の学校の畜産に取り組んでいる生徒と交流でき、うれしかったです。今後様々な方からいただいたアドバイスをもとにより良い研究にしていきたいです。
(児玉 真梨菜)

今回の大会に参加して、他校との交流ができたことはもちろん、他校の40校がどのような活動をしているのかが分かり、自分たちがこれからどのような研究していくのか生かしていける知識を身に付けることができました。今後も現在の活動からより深く研究していきたいと思います。
(松木 紗希)

山口県立 大津緑洋高等学校



和牛甲子園では、自分の知らない事が多くとても良い経験になりました。交流会などで他校の取り組みを聞き、とても参考になりました。この経験を後輩に伝えて、今後の取り組みに活かして

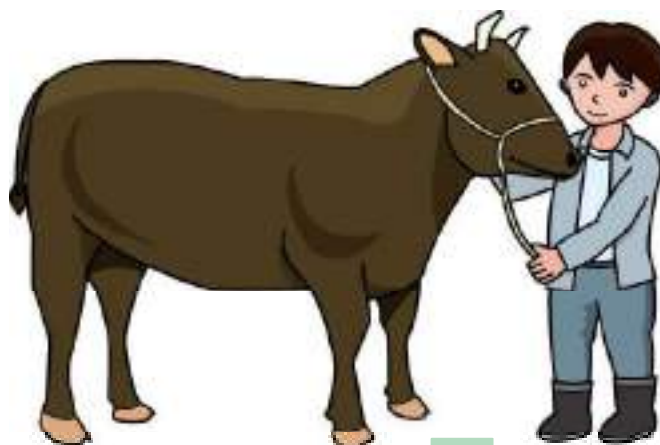
ほしいと思います。

(田村 直己)

今回初めて和牛甲子園に参加して、他県の高校牛児の人たちに会い、自分たちとは違う熱の入り方をしておりすごいなと圧倒されました。今回は賞を獲れなかったので、後輩たちには頑張ってほしいです。
(菊本 小春)

和牛甲子園に参加して、同じ目標をもつ高校牛児たちがたくさんいることに驚きました。また、他校の人との情報交換を通じて、えさの事や牛房の管理のことについて、自分とは違う意見があり、勉強になりました。
(上野 太暉)

高校牛児たちのなかで、男性より女性の方が多かったことに驚いた。他校の取り組みを見て、今後の自分たちの取り組みの参考にしたい。また、他校の人と話したり、笑ったりできて楽しかった。
(津田 匠)



福岡県立 糸島農業高等学校



私がこの和牛甲子園で学んだことは、まず、他の高校生たちがこの和牛甲子園にかけた工夫のすごさです。私は、他の高校の講演を聞いて、自分たちが取り組んできた工夫や失敗、成功などを、相手にどれだけ分かりやすく伝えるかが重要であることを発見することができました。私は、この経験を生かして自分だけが理解するのではなく、相手にも理解してもらえるような工夫が必要だと感じました。勉強や部活動にも活かして取り組みたいです。

(木下 和磨)

体験発表カンファレンスでは、どの高校も分かりやすいようにまとめてあり、聞き手に興味をもってもらうにはどうすればいいのかが、まとめ方をどう変えていけばいいかなど、とても勉強になりました。名刺交換の際には、SNSを活用し、他校の人とつながり、意見を交流する場ができたことで、様々な視点からの情報を得ることができるので、新たな挑戦に生かせるように交流していきたいです。今年度は取り組み評価部門のみの参加だったため、今回学んだことを来年度の取り組みにつなげてより良いものを作り上げたいです。

(向井 優希)

今回は、取組評価部門のみの初参加でしたが、他の高校の取り組み内容や、課題解決への歩み、いろいろ試行錯誤してそれらをクリアし、より良い肉牛を育て上げる様子など、様々なことを学び、考えることができました。また、発表もどの高校も各々のやり方で、話し方や伝え方、資料の校正など工夫されていて、勉強になりました。卒業生の講演など、日頃聞くことのできない有益な応報などたくさん聞くことができ、学びが多くありました。枝肉見学やセリでは、その場でしか感じるることのできない空気感を感じることができました。

(森内 まお)

大分県立 久住高原農業高等学校



会場に到着前後は、とても緊張しました。大会では、取り組み発表部門において、受賞した高校の生徒の話し方や練習時間などにとてもこだわっていて凄いなと思いました。また、ステージ上での受賞コメントに思い入れやこだわり、工夫などがすらすら話せるのは、それだけ全力で牛に対して愛情を注いでいることが分か

りました。それを見て私たちも来年度、受賞できるように「頑張ろう!!」と思うことができました。来年1月、入賞できるように全力で頑張りたいです。

(今村 都)

初めての出場で緊張しました。

枝肉を初めて見て色んな形だったり、サシの入り方も色々で、育てる方で肉に与える影響は大きいことを学びました。今回は、発表部門だけでの出場で入賞はできなかったですが、やっぱり悔しかったです。来年度は、もっと完成度を高めて、入賞できるように頑張っていきたいという気持ちが芽生えました。

(内田 優月)

初出場で、何も分からないままでの出場でしたが、大会の雰囲気がとても良くて居心地が良かったです。沢山の高校牛児さんが集まって、名刺交換などができ、交流が深まって良かったと思うし、他校の肥育の方法などが分って、これからの肥育に取り入れてみようと感じました。枝肉共励会の会場では、初めて見る枝肉の光景に少し戸惑いを感じましたが、来年は私たちの牛をここに持ってくるんだという強い覚悟を持つことができました。

最後に、来年も牛乳の抽選会をしてほしいです。(永富 美希)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

佐賀県立 唐津南高等学校



全国の人たちの意見をたくさん聞き、知らなかったことを学ぶいい機会でした。今後は牛の体重を増やす努力をしていきたいです。また各地の方言を聞けて、やはり九州の人たち同士はわかる部分も多く、交流するのが楽しかったです。（竹下 陽哉）

みんなそれぞれの目標に向かって頑張っていて、勉強になりました。茨城や岩手の学校と交流ができて刺激になりました。今後は牛にストレスをあまり与えないよう工夫していきたいです。なかやまさんに君さんにも会えてよかったです。（筒井 希帆）

長崎県立 諫早農業高等学校



今回初めて和牛甲子園に参加して、肥育についてたくさんのことを勉強させていただきました。とにかくどの学校もレベルが高く、今回発表だけの参加でしたが、次年度第8回に参加を予定している私たちにとっては、大きな刺激となりました。今回の貴重な経験を活かし、次年度いい結果が出るようにさらに頑張りたいと思いました。（稲岡 咲朋）

今回は和牛甲子園に出場してとてもいい思い出や経験ができました。特に入賞された各学校の発表では、その内容の素晴らしさと解りやすさに感動しました。さらに食肉市場で見た枝肉にはすべてのものに圧倒され、私にとってとてもいい経験になりました。いま私は第9回和牛甲子園に出場するウシの担当として、日々管理に明け暮れています。今回の経験を私の目標にして、これから2年間頑張りたいと思います。（大瀬 結愛）

熊本県立 南陵高等学校



全員で大切に育てた「球磨」号と「明治」号でした。枝肉となった2頭と再会したときは、大きさと美しさに圧倒されました。審査委員の先生から、牛の特徴や飼育方法について指摘され、枝肉にはこれまでのすべてが表れるのだと驚きました。（中嶋 彩乃）

他校の皆さんから大きな刺激を受けました。枝肉は入賞できず残念だったのですが、A5・BMS12を獲得するとともに脂肪の質も高い評価をいただくことができました。セリも見学でき、貴重な経験でした。牛への感謝は忘れません。（池上 姫加梨）

和牛甲子園に参加して得た一番の収穫は、他校の取組みを学べ、自分たちの取組みと比較できたことです。真摯に牛と向き合うだけでなく、地域に目を向け、飼育技術を向上させ続けようとする姿に、もっと頑張ろうと思いました。（加江 竜之輔）



宮崎県立 高鍋農業高等学校



2度目となる和牛甲子園で、枝肉部門と取組発表部門の両部門で優良賞を頂いたことに感謝します。また、大会に参加して、大会の講話や枝肉の見方の説明があり、とても分かりやすく良い経験となりました。次の第8回では最優秀賞が取れるようにさらに研究を続け頑張っていきたいです。
(坂藤 大地)

今回、私にとって大切な思い出となりました。三度目の正直として、今大会に向けて仲間と共に自分たちのアイデアで、自分たち自身でやり遂げることを大切にしました。そして取組発表、枝肉部門の両方で優良賞を頂けたことに本当に嬉しく思います。来年は必ず宮崎の牛で最優秀賞をとりたいです。
(足立 英加)

取組発表の成績発表時に、名前を呼ばれた時は、頭が真っ白になったこと覚えていますが大変嬉しかったです。今回は、最優秀賞を逃したので、来年はさらに上を目指して、頑張りたいです。今回の和牛甲子園で学んだことを来年に生かしたいです。
(川越 巖樹)

僕は1年生で、今回初めての参加でした。他の学校の取組発表を見て、どの学校も声がはっきりしていて、聞きやすく、内容も大変勉強になりました。今回参加して、とてもいい経験になり、先輩の姿がよい刺激になりました。この経験を来年に生かしていきたいです。
(高須 煌聖)

鹿児島県立 市来農芸高等学校



全国の高校牛児と交流を図ることができとても勉強になりました。枝肉共励会では他校のレベルの高い肉作りの結果に圧倒され、本校も更なる肥育技術の向上を目指すべきだと感じました。後輩に期待し、応援します。
(嬉野 ほたる)

今大会では入賞を目標に一年間頑張ってきました。その結果、取組評価、枝肉評価両部門で入賞出来たことは自分にとってたくさんの学びと楽しさを教えてくれました。次回大会では最優秀賞を目指し心機一転頑張ります。
(宮脇 優)

自分たちで作った取組発表で優秀賞を受賞し、達成感ややりがいを感じることができました。今大会は他校との交流時間が設けられ、多くの高校牛児と交流し様々な活動について知ることができ楽しかったです。
(吉野 由桜)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

鹿児島県立 鶴翔高等学校



今年も参加できて嬉しかった。全国の高校生牛児たちと交流したりしてが広がって有意義だった。

枝肉の結果については、僧帽筋にシコリがある牛もいたが、肉量、肉質でいい牛ができて良かった。

今後も今まで学んだ畜産の知識、技術を後輩に引き継いでいきたい。
(脇田 翔太)

私が今回、和牛甲子園に行った感想は、まず、発表部門では上位に入っている高校の発表レベルの高さに驚きました。牛だけでなくSDGsを加えていたり、アニマルウェルフェアを基にした牛の育て方などがありました。

枝肉部門では、どの高校も肉質が良く、重量もあり、上位校とはとても僅差だったと思います。
(田淵 翔太)

他の学校の発表を聞くことができ、知識を広げることができた。牛の飼育で苦労したことは、牛が暴れたり、動き回ったりして捕まえるのが大変だった。

また、他県の生徒と意見交換などを行うことができて良かった。今後は農業大学校に進学して畜産の技術、資格を取得して畜産関係の道に進みたい。
(徳留 陸人)

体験発表は、各校とも素晴らしい発表で、私にとって非常にためになった。

講演会、先輩たちの講話では、海外の牛肉利用の状況と今後の展開が理解できた。先輩たちが、畜産の現場で頑張っているのを見て私もできるように努力したい。

枝肉部門では、出品牛に瑕疵があったのが、悔しく、来年の出品牛は、瑕疵が出ないように後輩に指導していきたい。(内田 涼)

鹿児島県立 鹿屋農業高等学校



他校との交流や、枝肉のセリなど他では体験できないことをさせてもらって、ものすごく楽しくて勉強になりました。次は、両部門で最優秀賞を取ることを目標としているので、肥育牛についてはしっかりと丁寧な管理を維持し、これからは特に体験発表につながる活動に力を入れて頑張っていきたいと思います。

(門原 真央)

今回参加して、自分達の取り組みが良い評価を受けたことで自信が持てました。他校との交流では、全国の人達とつながることができ、今後の目標として取組発表に力を入れていきたいと思う。
(長嶺 葉月)

今回、和牛甲子園に参加して他校との交流の中で他の学校の取り組みを見ることができ、自分達の取り組みについては改善点などを見つけることができた。来年は取組発表でも最優秀賞を取れるようにしたい。
(森元 陽哉)

今回、第7回和牛甲子園に参加して、全国の高校生と競う中で総合優勝をすることが出来て、自分達がやってきたことが高く評価されたことが嬉しいです。今後の目標もはっきりとしたので、今やっていることを継続していくためにも、後輩達にしっかりと活動を引き継ぎ、良い肥育牛を育て課題解決に向けて頑張りたい。
(山口 蒼真)

今回、和牛甲子園に初めて参加し他校の取組発表との熱量の差を感じました。他の高校生の発表を聞く中でとても努力をしてきたことが感じられ、自分達もまだ2年生なので、次回大会に向け肥育牛はもちろん、取組発表でももっと良い成績を残せるようにしたいと思います。
(浦崎 聖斗)

鹿児島県立 曾於高等学校



第7回和牛甲子園に参加して良かったことは、取組発表入賞校の発表を目の前で見られたこと、枝肉を初めて見られたことです。また、他県と同じ肉用牛に一生懸命に取り組む高校生と交流できたこともいい思い出になりました。枝肉評価、取組発表の両方とも入賞できませんでしたが、毎日牛とともに頑張ってこられて良かったです。卒業後も牛に関わる人生を送りたいと強く思いまし

た。良い体験をさせて頂きありがとうございました。

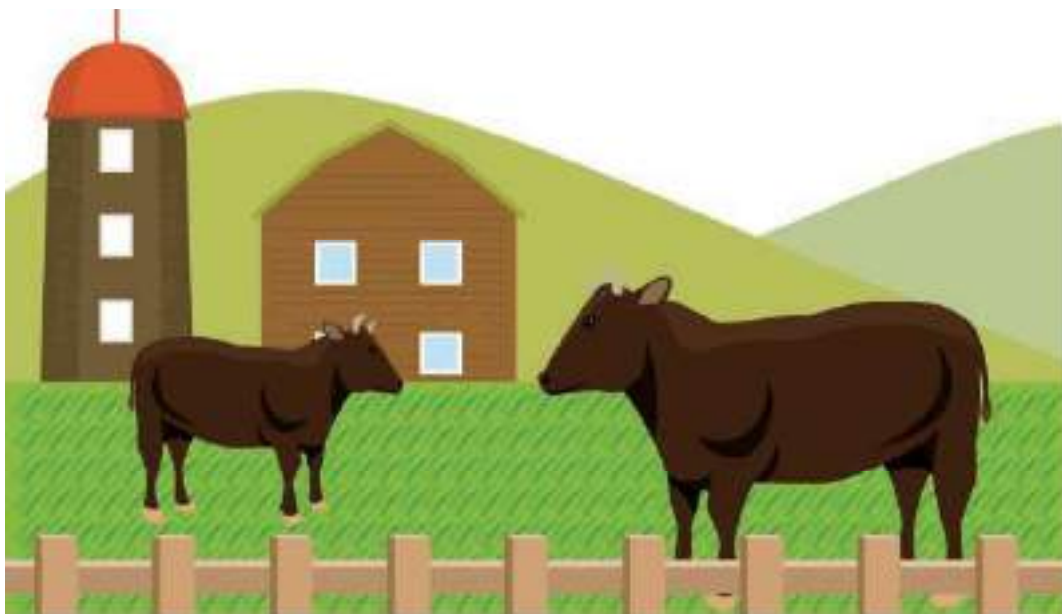
(樺木野 晃希)

第7回和牛甲子園に参加させて頂きありがとうございました。私は初めてと畜後の枝肉を見て、とても衝撃を受けました。また、自分達が育てた牛の枝肉を見ながら説明をして頂けたので、凄く理解しやすかったです。そして2頭の出品牛は凄くいい肉に仕上がったんだな、と実感することができました。この経験を農業大学校での勉強に活かし、地域貢献できる畜産農家になりたいです。ありがとうございました。

(上村 優一郎)

今回の取組発表部門最優秀賞の発表はとても素晴らしく、感動しました。枝肉評価部門では全校の枝肉を見ることができましたが、どの高校の枝肉も素晴らしく、最優秀校がどこの高校であってもおかしくないほどきれいでした。枝肉は各県の特徴がよく出ており、ブランド牛を身近に見られる貴重な体験になりました。また、他校の生徒とも親睦を深めることができたので将来に渡っていい関係が続けられるといいなと思いました。とても充実した2日間でした。ありがとうございました。

(高井田 颯)





和牛甲子園

大会風景

開会前～開会式



和牛飼育体験発表会



北海道倶知安農業高等学校



酪農学園大学附属
とわの森三愛高等学校



青森県立三本木農業恵拓高等学校



岩手県立水沢農業高等学校



岩手県立盛岡農業高等学校



岩手県立花巻農業高等学校



宮城県農業高等学校



福島県立会津農林高等学校



福島県立磐城農業高等学校



茨城県立水戸農業高等学校



栃木県立宇都宮白楊高等学校



栃木県立鹿沼南高等学校



栃木県立栃木農業高等学校



栃木県立那須拓陽高等学校



栃木県立真岡北陵高等学校



栃木県立矢板高等学校



群馬県立利根実業高等学校



群馬県立吾妻中央高等学校



神奈川県立中央農業高等学校



富山県立中央農業高等学校



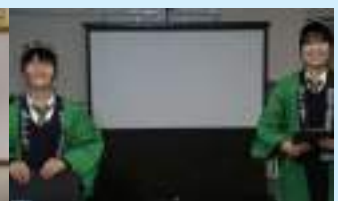
岐阜県立大垣養老高等学校



岐阜県立加茂農林高等学校



岐阜県立飛騨高山高等学校



愛知県立渥美農業高等学校



和牛甲子園

大会風景

和牛飼育体験発表会



滋賀県立長浜農業高等学校



京都府立農芸高等学校



島根県立出雲農林高等学校



岡山県立瀬戸南高等学校



広島県立西条農業高等学校



広島県立庄原実業高等学校



山口県立大津緑洋高等学校



福岡県立糸島農業高等学校



大分県立久住高原農業高等学校



佐賀県立唐津南高等学校



長崎県立諫早農業高等学校



熊本県立南陵高等学校



宮崎県立高鍋農業高等学校



鹿児島県立市来農芸高等学校



鹿児島県立鶴翔高等学校



鹿児島県立鹿屋農業高等学校



鹿児島県立曽於高等学校



和牛枝肉勉強会および共励会





和牛甲子園

大会風景

褒賞式～閉会式



第7回和牛甲子園 開催要領

全国農業高等学校和牛飼育体験発表会および和牛枝肉共励会開催要領

制定 令和5年12月11日

第1章 和牛甲子園 開催概要（趣旨・主催・後援・事務局等）

（趣旨）

第1条 全国の農業高等学校で飼育された和牛を対象に、全国の農業高等学校の生徒を集めて和牛飼育体験発表会（以下、「体験発表会」とする）および和牛枝肉共励会（以下、「枝肉共励会」とする）を開催することで、将来の畜産業の後継者たる農業高等学校の生徒に情報交換・交流の場を提供し、参加者の飼育技術と生産意欲の向上を図るとともに、わが国の農業の後継者・担い手の育成に資することを目的とする。

（主催）

第2条 全国農業協同組合連合会（以下JA全農という）が主催する。

（後援）

第3条 文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、独立行政法人家畜改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農場協会、公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、JA全農ミートフーズ株式会社の後援とする。

（事務局）

第4条 この事務局はJA全農畜産総合対策部に設置する。また、JA全農ミートフーズ株式会社東日本営業本部内に開催事務局を設置して、開催時等の対応をおこなう。但し、会期中はともに東京都中央卸売市場食肉市場内に置く。

第2章 体験発表会

（開催日時・場所）

第5条 第1条の目的を達成するため、令和6年1月18日に品川グランドホールで行う。

（出場校の資格）

第6条 出場校は日本国内の高等学校で、「枝肉共励会」への出品予定者であること。但し、「出品予定牛のへい死等」もしくは、「第8回和牛甲子園に出品予定の牛がいるが、出荷適齢期ではないため枝肉共励会には出品できない」といった止むを得ない理由で枝肉共励会に出品が出来ない場合に限り、事務局長の承諾の上、体験発表会のみの参加を認める。

（発表内容）

第7条 発表内容は、主に「枝肉共励会」の出品牛を対象とした取組内容（飼養、研究取組、飼育体験その他）とする。

（提出方法）

第8条 発表内容の提出については別表1 第7回和牛甲子園 体験発表会動画規定に留意して応募すること。





第7回和牛甲子園 開催要領

(出場校数)

第9条 出場校は41校を予定する。但し事情により変更することもある。

(出場登録)

第10条 出場校は事務局に別紙様式の体験発表会事前審査資料提出表（出場登録用）と事前審査資料の提出を令和5年11月24日までにこない、出場登録をおこなう。

第3章 枝肉共励会

(開催日時・場所)

第11条 枝肉共励会は第1条の目的を達成するため、令和6年1月19日に東京都中央卸売市場食肉市場において開催し、同日に褒賞授与式を品川グランドホールで行う。

(出品資格)

第12条 出品牛は審査において、次の条件に適合するものでなければならない。

- (1) 日本国内の高等学校から出品されたものであり、かつ、最長飼養地・最終飼養地が出品高等学校であること。
- (2) 黒毛和種飼育牛（去勢・雌）であること。
- (3) 子牛登記証または血統証明書を具備し、生産履歴証明書を有していること。
- (4) 1校につき2頭まで出品できる。

(出品頭数)

第13条 出品頭数は59頭を予定する。但し事情により変更することもある。

(出品登録)

第14条 出品校は別紙様式の枝肉共励会出品申込書（出品登録用）を令和5年11月24日までに事務局に提出し、出品登録をおこなう。

(出品牛および枝肉)

第15条 出品牛は令和6年1月17日の13時までに東京都中央卸売市場食肉市場に搬入する。

第16条 出品牛及び枝肉には、主催者が指定する標識を付する。

第17条 枝肉の販売は冷と体で、ロース芯および周囲筋の状態がわかるように、第6、第7肋間筋を切開することとし、出品者は販売を拒むことはできない。

第18条 出品牛及び枝肉の事故による損害、ならびに予見できない瑕疵については、主催者ならびに事務局はその責を負わない。

第4章 和牛甲子園開催日程・審査委員・審査方法・褒賞等

(日程等)

第19条 行事日程はおおむね次の順序に従っておこない、詳細日程は別途に定める。

- (1) 生体搬入（測定・計量） : 令和6年1月17日 13:00
- (2) と畜解体 : 令和6年1月18日 9:00～
- (3) 枝肉セリ販売 : 令和6年1月19日 9:00～

(4) 枝肉共励会 : 令和6年1月19日 10:30 ~

(5) 褒賞授与式他 : 令和6年1月19日 13:30 ~

(審査委員)

第20条 審査委員は、学識経験者および全農職員等から和牛甲子園事務局長が選出・委嘱する。

(審査方法)

第21条

(1) 審査は、体験発表会を審査する「取組評価部門」と、公益社団法人日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格に基づき枝肉審査をする「枝肉評価部門」とし、審査方法は別途定める。

(2) 総合評価部門の審査にあたり、2頭出品されている高校においては、成績が優良な方の枝肉1頭を審査対象とする。なお、枝肉評価部門においては、2頭とも入賞の対象となる。

(3) 原則として、採点結果は公表しない。

(褒賞)

第22条 褒賞は審査の結果、別表2に定めるとおりとする。

第5章 出品校に対する補助

(出品牛の運搬に対する補助)

第23条 出品校は出品牛の運搬を全国農業協同組合連合会各県本部、および各県経済農業協同組合連合会、各県農業協同組合（以下「県組織」という）に委託し、積込の場所については、別途指示する。また、事務局は運搬にかかる費用を別表3に従い、出品校に補助する。

(参加に要する旅費・宿泊費の出品校の生徒・引率教員に対する補助)

第24条 事務局は出品校の和牛甲子園参加のために要する旅費・宿泊費を、別表4に従い、出品校に補助する。

(23条・24条以外の経費の出品校負担)

第25条 前23および24条で定めた以外の出品に要する経費は出品校の負担とする。

(対策費の受入・支出および手続き)

第26条 対策費（出品牛の運搬、その他大会経費）の受入・支出および手続き

(1) 対策費（協賛金等）の受入 : 雑収入

受入科目: 雑収入－雑収入－その他

科目コード: 913－913－88

(2) 生体運搬費、およびその他大会経費の支出: 事業促進費

支出科目: 事業促進費－情報宣伝費－集約

科目コード: 551－617－00

(3) 支出申請期日: 出品校は令和6年1月末までに、事務局指定の様式にもとづき、事務局に支出申請をおこなう。

(4) 支出時期: 本会は県組織・各学校の申請にもとづき、令和6年3月末までに各学校等への支出を完了する。



第7回和牛甲子園 開催要領

第6章 役職員・その他

(役職員)

第27条 和牛甲子園には次の役職をおく。

会長1名、事務局長1名、事務委員 若干名。

なお、会長には主催者であるJA全農の畜産担当常務理事がその職務にあたる。また、事務局長はJA全農の畜産総合対策部長がつとめる。

(その他)

第28条 その他

- (1) 広報活動を目的として、和牛甲子園に関する写真及び映像を印刷物やWEB・SNS・テレビ番組上で掲載をおこなう場合がある。
- (2) 開催要領の解釈その他疑義、および必要な事項は事務局長がこれを決定する。
- (3) 事故防止策および感染症対策は別表5に定めるとおり、開催地の行政機関（東京都等）の要請等と開催会場が定める「ガイドライン」等に則り、適宜対応する。

第29条 この開催要領の適用期間は、次回和牛甲子園開催要領の制定までとする。

以下余白

別表1. 第7回和牛甲子園 体験発表会動画規定

体験発表会動画の作成・提出においては、以下の点に留意して応募すること。

1 発表時間

(1) 計測の開始と終了

- ① 発表者が発声を始めた時点から計測を開始し、「終了します」を言い終えた時点までとする。
- ② 開始から終了までの時間は、7分前後とすること。

(2) 注意事項

- ① 発表時間が7分20秒を超過した場合は、1点減点とする。その後30秒超過するごとに1点減点とする。

2 撮影場所

- (1) 動画の撮影場所は、学校施設の屋内で行うこと。
- (2) 発表者の声が聞き取りやすい場所での撮影が望ましい。
- (3) 発表者の身振りや表情が分かりやすい光量の場所で撮影が望ましい。
- (4) 撮影後に音声聞き取れるか確認を行なうこと。

3 撮影機材

- (1) 撮影機材はビデオカメラ、タブレット端末 (ipad) 等を用いて撮影する。
- (2) 撮影機材は手持ちではなく、三脚など機材を固定する方法を用いて撮影すること。
- (3) 加工は行なわないこと。

4 撮影画面構成

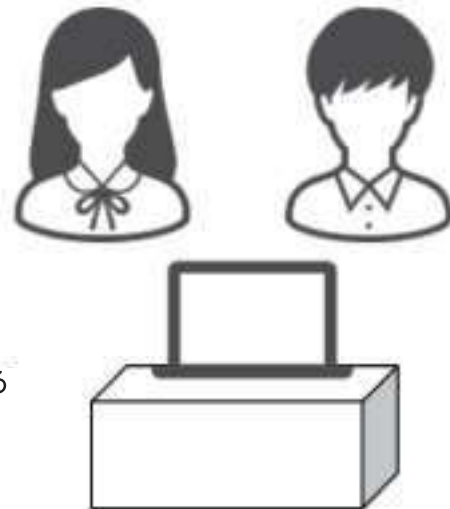
- (1) 登壇する人数に制限は設けないが、発表者含め登壇者は全員顔まで含め上半身以上は必ず映るようにすること。
- (2) 発表者の表情や身振り手振りが分かるような大きさとで撮影すること。
- (3) カメラのピントは発表者に合わせること。
- (4) 発表資料はパワーポイントをスクリーンに映すこと。
- (5) プロジェクターの明るさは一定以上が望ましい。
(目安として2,000ルーメン以上とする。)
- (6) 撮影画面構成は以下の図を参考にする。



第7回和牛甲子園 開催要領



- ・発表者が全員映るようにすること
- ・発表者の表情や身振り手振りが分かるような大きさを撮影すること
- ・ピントは発表者に合わせる



- ・スライド画面の切り替えが見えるようにする
- ・細かい文字は読めない大きさでも可
(※手元でも資料を確認するため)

(7) 第6回大会の体験発表動画を参考にし、作成すること。

第6回体験発表動画 (You Tube)

URL:<https://wagyu-koushien.com/2022/main/koushien04/torikumi/>

5 編集・加工について

- (1) アプリやソフトによる映像・音声加工は禁止する。
- (2) タイトルやテロップ、クレジットの表記は不要とする。

6 動画ファイルの仕様とフォーマット (FHD推奨)

- (1) 解像度 : 1080 p
- (2) 動画アスペクト比 : 16 : 9 (ワイド比率)
- (3) ファイル形式 : MOV または MP4
- (4) フレームレート : 30fps

7 動画提出締切日

- (1) 令和5年12月15日当日消印有効とし、事務局へ送付する。
- (2) 動画データ提出方法は事務局より別途案内する。



別表2. 第7回和牛甲子園褒賞一覧

		体験発表会		枝肉共励会	
総合評価部門		取組評価部門		枝肉評価部門	
最優秀賞	1点	最優秀賞	1点	最優秀賞	1点
奨励賞	最優秀賞以外 全参加校	優秀賞	2点	優秀賞	2点
		優良賞	3点	優良賞	3点
合計	全参加校	合計	6点	合計	6点

総合評価部門の最優秀賞1校に対し、農林水産省畜産局長賞を授与する。
ここに定める以外の特別賞等は審査委員会の合意により、適宜設定する。

別表3. 第7回和牛甲子園「枝肉共励会」生体運送に要する経費の補助

項目	使用基準	備考
生体運送に要する経費の補助	事務局は学校の所在地から開催地（東京都中央卸売市場食肉市場）までの実距離を基準とした別記 1 の基準金額か、実経費のいずれかの低い金額を出品校に補助する。	提出書類 (支出を証明する書類)
	別記 1 生体輸送に要する補助金額基準表（税抜価格）	①運送業者の見積り・請求書と いった金額が明記されたもの
	生体運搬費補助の基準	
	出品校から開催地（品川） までの距離	生体運搬費補助 (単価)／1 頭あたり
	100 キロまで	11,000
	200 キロまで	15,000
	400 キロまで	17,000
	600 キロまで	19,000
	800 キロまで	21,000
	1,000 キロまで	23,000
1,000 キロ以上	25,000	
		②あるいは①にかわるもの
		上記①または②を参加学校毎に事務局に提出すること。
		※この書類等の添付がない場合、補助しない。

第7回和牛甲子園 開催要領

別表4 第7回 和牛甲子園 参加（旅費・宿泊費）に要する経費の補助

項目	使用基準	備考	
参加旅費・宿泊費の補助	事務局は出品校の生徒および引率教員等により下記の基準に従い支出し、参加旅費・宿泊費を補助する。 また、出品校は、補助金の申請にあたり、事務局に支出を証明する書類を提出する。	提出書類 (支出を証明する書類)	
	(1) (補助対象の範囲) 参加1校あたりの補助範囲は、生徒・引率教員等を含め、最大3名までとする。	①利用した交通機関、宿泊施設の領収書 (裏面に利用者氏名と押印をすること)	
	(2) (旅費・宿泊費に対する補助の基準) 旅費と宿泊に対する補助の基準は別記2のとおり。	②または①に代わるもの	
	別記2. 参加旅費・宿泊費の補助基準 (税抜価格)	上記①または②を参加学校毎に事務局に提出すること。 ※この書類等の添付がない場合、宿泊費、参加旅費は補助しない。	
	<table><tr><td>生徒・引率教員等の参加旅費・宿泊費の補助</td></tr><tr><td><u>往復にかかる旅費と宿泊費の合計金額の半額</u> (注) 円未満は切捨て</td></tr></table>	生徒・引率教員等の参加旅費・宿泊費の補助	<u>往復にかかる旅費と宿泊費の合計金額の半額</u> (注) 円未満は切捨て
生徒・引率教員等の参加旅費・宿泊費の補助			
<u>往復にかかる旅費と宿泊費の合計金額の半額</u> (注) 円未満は切捨て			
	注1. <u>宿泊費は1人1泊12,000円(消費税抜)までを目安とする。</u>		

別表5. 和牛甲子園大会における事故防止対策・公衆衛生対策

本行事の実施に当たっては、災害の未然防止と来場者等の安全確保のため、非常時における通報連絡体制や避難誘導など、必要な事故防止対策を講じる。

また、各種感染症予防のため、使用会場の「使用ガイドライン」に則り、会場内の換気やこまめな消毒・清掃・手洗いの実施など、必要な公衆衛生対策を適宜実施する。



和牛甲子園

審査基準・褒賞について

1. 評価部門・褒賞

(1) 取組評価部門

最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞3点の計6点とする。

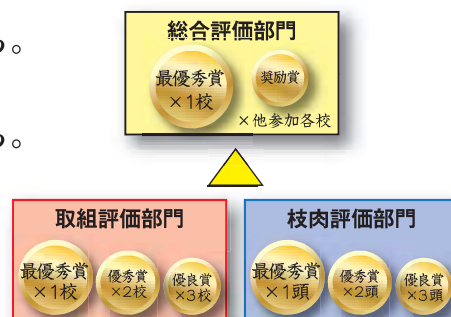
(2) 枝肉評価部門

最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞3点の計6点とする。

(3) 総合評価部門

取組評価50点＋枝肉評価50点の合計100点で評価する。

(最優秀賞1点のみで、他は奨励賞)



2. 審査基準

(1) 最優秀賞の決定

取組評価部門（体験発表会）の得点（50点満点）と、枝肉評価部門の得点（50点満点）との合計点数（100点満点）で、総合評価部門の最優秀賞を決定する。

(2) 取組評価部門（体験発表会）

体験発表会の発表は、審査委員が【表1】の基準により点数評価し、5項目×5点満点／項目×審査委員5名（審査委員6名のうち最低得点者を除く5名）の125点満点を2.5で除した50点満点とする。

(3) 枝肉評価部門

出品牛は、公益社団法人日本食肉格付協会の牛枝肉格付規格に基づく肉質審査をおこない、格付結果を【表2】の基準により点数評価した、50点満点とする。

【表1】

	評価項目	体験発表会評価ポイント
1	チャレンジ・挑戦	前年と比べてどのような新しい取組みを行ったり、困難に直面したときどのように問題解決を行ったりしたかなど、高校生のチャレンジ・挑戦を評価出来る発表であったか？
2	資料	発表資料はわかりやすく、起承転結がしっかりした内容で、誤字脱字がなく、構成・図表等を含め読み手に対して取組内容が的確に伝わるものであったか？
3	内容1（表現）	発表は、論理的・客観的で分かりやすく、かつ明瞭簡潔で聞き取りやすく、チームワーク等も伝わる意欲溢れた内容であったか？
4	内容2（目的・創意工夫等）	取り組むべき目標を計画的に進め、高校生らしい創意工夫や独自性がある目的意識を持った取組内容であるか？
5	総合	全体を通して評価すべき内容があれば加算。（加算部分0～5点）





和牛甲子園

審査基準・褒賞について

【表2】

和牛甲子園：審査基準

			枝肉評価の得点		✚	取組評価の得点		=	合計100点満点			
			合計50点			合計50点						
			加点									
			+0～7点									
追加 加点 基準	ローズ芯 面積		令和4年度全国平均 (去勢・雌別)より上	+2	✚	審査委員5名(審査委員 6名のうち、最低得点者 を除く5名)×25点/2.5 のポイント付与	=	総合評価 100点				
			100cm ² (去勢)以上 90cm ² (雌)以上	上記+1								
	バラの厚さ		令和4年度全国平均 (去勢・雌別)より上	+1								
			10cm(去勢)以上 9cm(雌)以上	上記+1								
	脂肪酸 (オレイン酸)		55%以上	+2								
	等級	BMS	基準点	加点					減点			
			±8点		✚							
5等級	12	35	①歩留まり ②肉の色沢 ③脂肪の色沢と質 ④肉の締まり 及びきめ ⑤肉付・体形 ⑥その他 (周囲筋の状態等)									
	11	33										
	10	31										
	9	29										
4等級	8	27							①歩留まり ②肉の色沢 ③脂肪の色沢と質 ④肉の締まり 及びきめ ⑤肉付・体形 ⑥その他 (周囲筋の状態等)			
	8	22										
	7	20										
	6	18										
3等級	5	16									①歩留まり ②肉の色沢 ③脂肪の色沢と質 ④肉の締まり 及びきめ ⑤肉付・体形 ⑥その他 (周囲筋の状態等)	
	5	12										
	4	10										
2等級	3	8										
	3-1	6										

上記①～⑥の内容の良
好な項目を加点する
(全+8点)

上記①～⑥の内容の劣
る項目を減点する
(全-8点)

※(25点/審査委員)×5名/2.5

○枝肉部門の配点は、50点満点とする。

○ローズ芯面積について、令和3年度全国平均（去勢・雌別）を越えたら2点加点

○バラ厚さについて、令和3年度全国平均（去勢・雌別）を越えたら1点加点

○脂肪酸（オレイン酸）の数値について、55%以上は2点加点

【加点基準】

令和4年度 令和4年4月-令和5年3月	ローズ芯面積 (胸最長筋面積)	バラ厚さ	脂肪酸 (オレイン酸)
黒毛去勢牛 全国平均	68.2cm ²	8.4cm	
黒毛めす牛 全国平均	65.6cm ²	8.0cm	
加点基準	①平均を越えたら 2点加点 ②去勢牛 100cm ² めす牛 90cm ² 以上で更に1点加点	①平均を越えたら 1点加点 ②去勢牛 10cm めす牛 9cm 以上で更に1点加点	55%以上で2点加点

参考資料：公益社団法人日本食肉格付協会

3. 褒賞一覧

褒 賞 名	総合 評価部門			取組 評価部門			枝肉 評価部門		
	最 優 秀 賞	奨 励 賞	参 加 賞	最 優 秀 賞	優 秀 賞	優 良 賞	最 優 秀 賞	優 秀 賞	優 良 賞
1 全国農業協同組合連合会会長賞	1		※						
2 農林水産省畜産局長賞	1								
3 独立行政法人農畜産業振興機構理事長賞	1			1			1		
4 東京都中央卸売市場食肉市場長賞	1			1			1		
5 東京食肉市場株式会社社長賞	1		※				1	2	3
6 全国農業高等学校長協会賞	1	40		1	2	3			
7 公益財団法人全国学校農場協会賞	1	40		1	2	3			
8 公益社団法人全国食肉学校賞	1	40							
9 くみあい飼料工場会長賞	1								
10 公益社団法人日本食肉格付協会会長賞							1		
11 JA全農ミートフーズ株式会社社長賞							1		
12 JA全農ミートフーズ株式会社 東日本営業本部長賞								2	3
13 全農畜産サービス株式会社社長賞	1		※						
14 三洋貿易株式会社			※						

※…全出場校に記念品贈呈



協力者一覧

和牛枝肉共励会への出品にあたり、全国の高校からの
集荷・運搬について、以下の方々にご協力をいただきました。
(※五十音順・敬称略)

- 協力：○永楽運輸株式会社（北海道白老郡）
○株式会社奥軽井沢ファーム（群馬県吾妻郡）
○有限会社尾嶋運送（鹿児島県出水市）
○株式会社昌栄（群馬県佐波郡）
○有限会社新和農産（群馬県利根郡）
○多久島運送有限会社（佐賀県伊万里市）
○一般財団法人畜産ニューテック協会（東京都港区）
○有限会社原牧場（神奈川県伊勢原市）
○一般社団法人広島家畜改良事業団 広島産肉能力検定場（広島県東広島市）
○有限会社福原運送（島根県益田市）
○株式会社松永牧場（島根県益田市）

大会の開催と運営にあたり、以下の大学の協力をいただきました。
(※五十音順・敬称略)

- 協力：○帯広畜産大学
○東京農業大学
○酪農学園大学

ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

最適解を探求し、よりよい未来へ。

「人と、地球と、よりよい未来へ共に歩みを進めたい」

という思いをコーポレートロゴに込めて、三洋貿易は新たなステージへ。

私たちはこれからも常に一歩先を見据え、

お客様にとっての最適解を探求する専門商社として挑戦を続けます。

Quest for Next

Sanyo Trading

2023年11月、三洋貿易株式会社はコーポレートロゴを刷新しました。

世界の技術とともに。

YPTECH will proceed with the dairy and livestock.



PRODUCTS LINEUP

牛用製品

- 乾燥菌体入り混合飼料

フィブラーゼ

- パーム油脂肪酸カルシウム

マグナパック®

- パーム油脂肪酸カルシウム + メチオニン

マグナパック プラス®

- バイパスコリン

スターコル60

- バイパスビタミンC

テクノコートV70

- 硫酸亜鉛メチオニン

バイオメットジンク

- ハーブ入り混合飼料

アクティフォー

牛豚用製品

- 活性型酵母

アクティサフ® Sc 47

- 植物性粉末油脂

パームファット

- 消化吸収性に優れた

MCT

(中鎖脂肪酸トリグリセリド)

- 牛・豚床用マット

ボビレックス

- リグノセルロース

アーボセル

牛豚鶏用製品

- 酪酸ナトリウム・硬化油混合飼料

ガスターBP70WS

- カビ毒吸着材

ミズカバインダー® 国産

豚用製品

- 酵素処理脱皮大豆

HP300

- ハーブ入り混合飼料

フレスタF

- キラヤ・ハーブ入り混合飼料

アロメックス Pro

鶏用製品

- 飼料用酵母

サフマンナン®

- 竹酢液吸着混合飼料

竹酢パウダー

- 酵素処理脱皮大豆

アビスタート

- ハーブ入り混合飼料

バイオストロング

ワイピーテックは三洋貿易グループです

Sanyo Trading Group



株式会社ワイピーテック

<https://www.yptech.co.jp/>



本社：東京都千代田区大手町1丁目6-1 大手町ビル3階
 営業所：北海道帯広市東一条南一丁目一番地 東一条ビル3階C号
 営業所：福岡県福岡市博多区中呉服町1番5号 祐徳ビル1号館

TEL.03-3214-7330 FAX.03-3214-6731

スマホから 大切な今を取り出そう。

スマホの中の写真は、どれも特別な瞬間。

でも、そのまま残しておくと、どんどん増えて埋もれてしまうことに。

全国のセブン-イレブンにあるマルチコピー機なら、

専用アプリを使って、24時間らくらく写真プリント。

かけがえのない今をすぐにカタチに残せます。



富士フイルムビジネスイノベーションのマルチコピー機なら

たのしい

シャッフルプリントで
自分好みにアレンジした写真を
贈ったり飾れる！

あんしん

シンプルな操作画面と
ヘルプ機能でより
使いやすく

かんたん

スマホに表示されたQRコードを
マルチコピー機にかざすだけで
写真や文書データの送信もらくらく

App Storeは
こちら



Google Playは
こちら



富士フイルム ビジネス イノベーション株式会社

fujifilm.com/fb

富士フイルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社

fujifilm.com/fb/company/fbj

畜産映像情報

がんばる! 畜産! 7



日本中央競馬会
特別振興資金助成事業

今、畜産業は担い手不足や国際化の進展など、大きな変化の局面にあります。そんな中、飼料を自ら生産したり、省力化を図ったりと、さまざまな工夫で素晴らしい経営を行っている生産者がたくさんいます。

このサイトでは、そうした各地の優れた畜産経営や、後継者の活躍、おいしくて安全な畜産物を消費者の方々に届けるまでを映像で紹介します。

この映像情報を生産者の方はもとより消費者の方々と共有することで、元気で健全な畜産の発展につなげることを目指しています。



なるほど! 畜産現場

このコンテンツでは、畜産物ができるまでや、現場を支える職人たち、馬事文化などあまり知られていない様々な畜産現場を紹介します。

●配信中の内容●

畜産 DX 特集 総集編 養鶏・養豚の今に迫る／
総集編 国際養鶏養豚総合展 2022／沖縄県牛の島、黒島の畜産の歴史 ほか

畜産トレンド発見!

このコンテンツでは、生産現場での省力化技術や、飼料用米やエコフィードなどの活用による飼料コスト削減など、「技術」に着目して各地の事例を紹介します。

●配信中の内容●

総集編 若き情熱! 全国和牛能力共進会 特別区／コントラクターと連携 大分県高田牧場／
総集編 いま国産の粗飼料を支える! ほか

グリーンチャンネル
でも放送中

--- 放送日 ---
毎週月～金曜日
朝 7 時～

「がんばる! 畜産! 7」

URL : <https://jlia.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/>

(お問合せ先)

公益社団法人中央畜産会 経営支援部 (情報)

TEL : 03-6206-0846 FAX : 03-5289-0890



農業と歩みつづける。
人生に寄り添いつづける。

くらしの中にも、大地の恵みがある。

それは、食卓にひろがる笑顔。

それは、たいせつな人との時間。

それは、明日へ向かうための力。

私たちJAバンクも、

あなたの一歩一歩に寄り添いながら、

実りある人生の力になりたい。

未来へ踏み出そうとするあなたの、

支えでありつづけたいです。

共栄火災

一緒にずっと。安心をもっと。

あなたを、もっと笑顔に。

創業の理念「共存同栄」「相互扶助」のもと、
これからも皆様の大切な笑顔のために
安心と安全を提供してまいります。

共栄火災海上保険株式会社

〒105-8604 東京都港区新橋 1-18-6
<https://www.kyoeikasai.co.jp/>

自然は、
自然のままだ、
いちばん、おいしい。

にっぽんの酪農家が1年365日手塩にかけ、
じっくり育んだ自然の恵み“牛乳”。
その「想い」と「おいしさ」を
最大限に活かし、
皆様の食卓へお届けします。

商品の詳しい情報は、コチラ▶

協同乳業株式会社

農協牛乳
すっきり後味
NOKYO MILK
生乳100%使用
容量 1000ml

農協牛乳
すっきり後味
NOKYO MILK
生乳100%使用
容量 500ml

私たちは、いのちを育み、
豊かな食を創造し、
みんなの笑顔をサポートします。

分娩監視システム
「モバイル牛温恵」



牛群管理システム
「Farmnote Color」



子牛用管理システム
「アットモーメント」



牛用監視カメラ
「カメセン」

この他にも様々な畜産資材を
数多く取り揃えております。
畜産資材をお求めの際はぜひお近くのJAまで!!



全農畜産サービス株式会社
ZEN-NOH LIVESTOCK CO., LTD.

▽会社HPはこちら



本社 資材・大家畜事業部
〒135-0041 東京都江東区冬木11-17
TEL:03-5245-4871

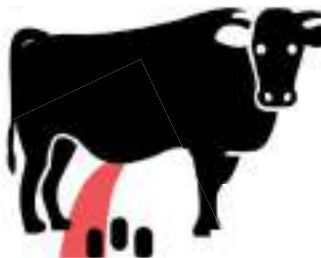
北海道駐在
〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西1-1
共済ビル5階
TEL:070-4422-8092

北九州営業所
〒810-0073 福岡県福岡市中央区1-4-30
TM-36ビル303号室
TEL:092-715-8787

南九州営業所
〒899-8212 鹿児島県曽於市大隅町月野1587-5
TEL:099-482-2521

祝 第7回全国農業高等学校 和牛枝肉共励会

科飼研の提供する和牛用製品ラインナップ



繁殖牛

商品名	特長	包装単位
E繁殖	繁殖に必要なビタミン補給	10kg袋
とまるちゃん	受胎に必要なアミノ酸補給	10kg袋



子牛

商品名	特長	包装単位
さいしょのミルク	免疫グロブリン強化	250g × 8
ネオドリンクHG	速やかなエネルギー補給 (液剤)	30mL × 100、18L
ネオドリンクパウダーBOX	速やかなエネルギー補給 (粉末)	2kg × 5、20kg
ニューケアフルメイト	脱水時のイオンサプライ	630g × 10、2.5kg × 2
ミラクルメイト	食物繊維(オオバコ粉末) 強化	2.5kg × 2



肥育牛

商品名	特長	包装単位
くみあい起き上がりこぼし	肥育時のビタミンB群補給	20kg袋
ミネビタさじかげん	肥育後期のビタミンA補強	10kg紙袋
くみあい喝牛	食い止まり対策時に	10kg紙袋
くみあい快食快尿さん	雄牛の快尿快食に	10kg紙袋



防疫・衛生

商品名	特長	包装単位
ロンテクト	畜舎、車両、踏込槽、真菌の消毒	1L × 10、18LBIB、180L
201プラスR	堆肥の発酵促進	20kg
デオマジックHG	糞便臭の対策に	1Lパック、16kg缶



株式会社 科学飼料研究所
<https://www.kashiken.co.jp/>

動薬部
 札幌事業所
 東北事業所
 関東事業所

TEL:027-347-3223 FAX:027-347-4577
 TEL:011-214-3656
 TEL:019-637-6050 北九州事業所 TEL:096-294-8322
 TEL:027-346-9091 南九州事業所 TEL:099-482-3044

徹底した品質管理と全国ネットワークで
日本の『食生活』を支えることが使命です。



鶏・豚・牛に与える飼料や、食用油・ウイスキー・コーンスターチなど食品の原料となるトウモロコシ・大豆などの穀物は、日本の食生活に欠かすことができませんが、これらはアメリカ・ブラジル・カナダ・豪州など世界各国から輸入されています。

私たち「全農サイロ」は、全国の農業協同組合（JA）が組織する全農グループの一員として、輸入穀物を高い安全性と最新設備を備えたサイロに保管し、飼料メーカーや食品メーカーにお届けしています。

「全農サイロ」は輸入穀物の徹底した品質管理と全国ネットワークで日本の毎日の「食生活」を支えています。



全農サイロ株式会社

No.

Date

JAグループの くみあい配合飼料会社

JAグループは、原料購入から農家供給まで一貫して取り組み、
配合飼料の安定供給の責務を果たします。

 ホクレンくみあい飼料株式会社

 JA全農北日本くみあい飼料株式会社

 JA東日本くみあい飼料株式会社

 JA西日本くみあい飼料株式会社

 ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社

 南日本くみあい飼料株式会社





No.

Date

JA 全農グループ

ホクレンくみあい飼料株式会社



私たちの使命は、
高品質で安全・安心な飼料を
安定的にご提供することです。



本 社	北海道札幌市中央区北4条西1丁目1番地	TEL 011-222-3301
釧路西港工場	北海道釧路市西港2丁目101番地3	TEL 0154-53-2411
十 勝 工 場	北海道河東郡士幌町字士幌西1線147番地1	TEL 01564-5-4111
ホクレンくみあい・ 雪印飼料株式会社 (関連会社)	北海道苫小牧市真砂町36番地12	TEL 0144-51-5535

当社製品のご紹介



高蛋白質の肥育前期用
配合飼料



バイパス蛋白質強化用の
サプリメント配合飼料



肥育後期のエネルギーと
ビタミン補給に

お問い合わせ先

支店名	住所	TEL
北東北支店・岩手営業所	岩手県紫波郡矢巾町流通センター南2-5-2	019-638-7910
青森営業所	青森県八戸市大字川原木字海岸24番7	0178-21-3320
秋田営業所	秋田県秋田市寺内字大小路207-28-1	018-845-0452
南東北支店・宮城営業所	仙台市宮城野区宮城野1-12-1	022-792-2823
山形営業所	山形県東根市大字蟹沢字下縄目1863-19	0237-41-2670
庄内営業所	山形県鶴岡市藤浪3丁目11-1	0235-78-2711
福島営業所	福島県郡山市田村町金屋字川久保23 JA全農福島郡山ビル2F	024-941-0825



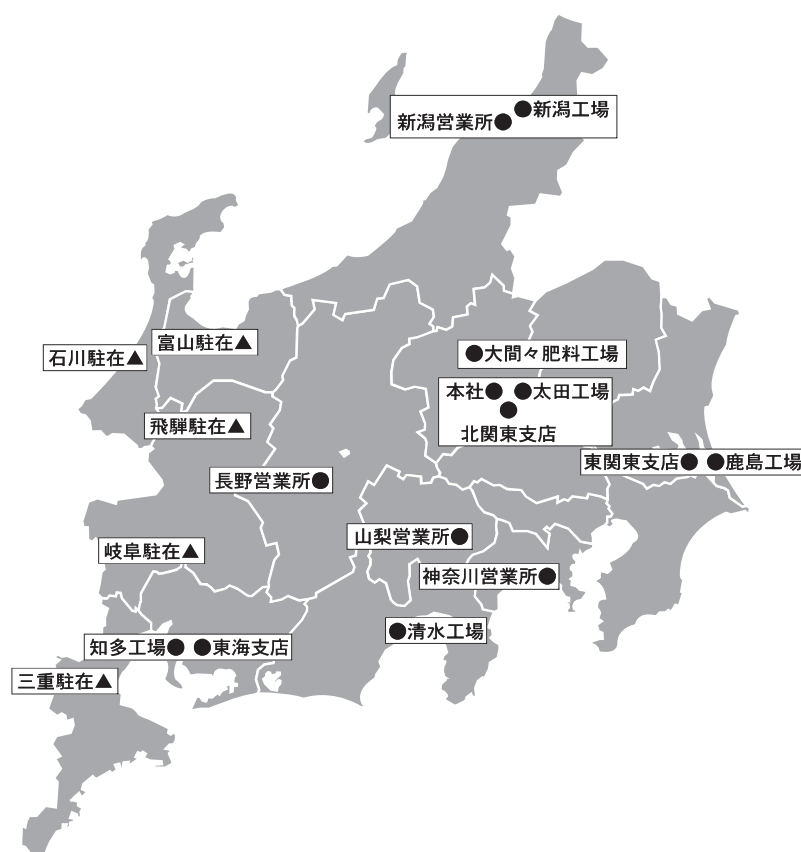
JA全農北日本くみあい飼料株式会社

お届けします。
一歩すすんだ、安全・安心・信頼。

日本の豊かな食文化の向上に貢献します

I S O 9 0 0 1 ・ 抗 菌 剤 G M P ・ F S S C 2 2 0 0 0 の
管理手法に基づき、安全・安心で高品質な飼料をお届けします。

また、衛生・防疫管理を徹底し、工場の入・退場口の
完全洗浄・消毒の自動化による万全な衛生対策を実施
しております。



農家生産者と地域に密着した企業としてご期待に
応え得るよう努力してまいります。



JA全農グループ

JA東日本くみあい飼料株式会社



JA西日本くみあい飼料株式会社

「食」の安心は、安全な飼料から

西日本をかけめぐる養牛営業マンたちのご紹介
“にしくみ”の営業マンたちは、皆様のさまざまなニーズにお応えできるよう、農場に足を運び、コミュニケーションを通じて、より身近なパートナーとして、皆様と共に歩んでまいります。

- ①ヨネさん
- ②中国支店山陰営業所
- ③誠実第一！安心安全な飼料をお客様に提供します。

- ①ニックネーム
- ②所属
- ③意気込み

- ①チャディ
- ②中国支店営業課
- ③会えば笑える営業マンを目指して、日々私自身、増体しています。少しでも皆様のお役に立てる様頑張ります。

- ①安定感抜群の12インチ
- ②近畿支店京滋営業所
- ③農家さんの夢や希望に寄り添って全力投球でサポートします！

- ①紫の勇者たち
- ②近畿支店京滋営業所
- ③～つながる“全ての人々”が笑顔で生き生きと～スローガンにサポートします！！

- ①モノトーンサイコパスめがね
- ②中国支店西中国営業所
- ③牛肉を食べたい一心で日々皆様のために頑張っております。サステナブルな畜産で永続調和を目指します！

- ①まっちゃん
- ②四国支店西四国営業所
- ③課題の特定と解決に心がけています。大切に育てられる一頭一頭をぜひサポートさせてください。

- ①アヅミックス
- ②四国支店営業課
- ③乳牛・肉牛二刀流で頑張ります！いつでもお電話お待ちしております。

- ①suggestionの錬金術師
- ②近畿支店営業課
- ③困ったときにふと相談したくなるような営業マンに・・・ww

JA西日本くみあい飼料株式会社 本社
〒651-0083
兵庫県神戸市中央区浜辺通5丁目1-14
神戸商工貿易センタービル 15F
TEL:078-251-2493
FAX:078-251-2490



機敏に! 地域に根ざして— ジェイエイ北九州くみあい飼料です



福岡工場-福岡県域営業部



本社



大分工場



生産者にもっとも近い工場からお届けします。



JEA 全農グループ

ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社

くみあい配合飼料は、畜産農家の皆様へ 『安全・安心な飼料』 をお届けします

製品の供給エリア／工場配置図



牛用



子牛用マッシュ



子牛用フレークペレット



肉牛用フレーク



母牛用粗飼料混合



南日本くみあい飼料株式会社

いのちをいただき、未来につなげる。



豊富なカリキュラムと
実習教材



充実した設備



行事ごとに深まる絆



令和 7 年度学生募集中

科・コース	総合養成科	総合養成科 前期コース	食肉販売科
募集人員	30名		20名
修学期間	入学4月8日(火) 卒業2月27日(金) 1年	入学4月8日(火) 卒業9月26日(金) 6カ月	入学4月8日(火) 卒業7月4日(金) 3カ月
出 願 受付期間	令和6年5月1日(月)～令和7年3月14日(金) ただし、募集定員に達し次第締め切ります。		

※入学・卒業日については都合により変更する場合があります。

認定職業能力開発校



FMA

公益社団法人 全国食肉学校

Federal Meat Academy

〒370-1103 群馬県佐波郡玉村町大字樋越1794

TEL0270(65)2571

FAX0270(65)9274

詳しくはホームページをご覧ください

<http://www.fma.ac.jp>

Eメール/fma@fma.ac.jp

あなたもお肉博士になりませんか。

学割あり

第13回お肉検定

令和6年度開催予定!

詳しくは

nikuken.com

をご覧ください。



全農チキンフーズグループ

これぞ
信頼の国産鶏
ブランド

まごころ込めた国産鶏づくりで
皆さまの信頼とニーズに
お応えしてまいります



わたしたちは、ニッポンのおいしいチキンに
産地のまごころを込めて、ニッポンの食卓に幸せをお届けします。



ZC 全農チキンフーズ

全農チキンフーズ株式会社
〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル4F
TEL: 03-6864-0200 www.ja-zcf.co.jp

全農チキンフーズ株式会社の
詳しい情報はコチラ



グループ会社 **MC** 宮崎くみあいチキンフーズ株式会社 **KC** 鹿兒島くみあいチキンフーズ株式会社 **Sumita Foods** 住田フーズ株式会社 **asahi** 株式会社 アサヒフロイラー

TAMAGO TRIP

～ たまごが供給されるまで～

物流

いつも、いつまでも、たまごがある毎日。ほぼ全国の生産者から安定的にたまごを仕入れ、全国の量販店、食品メーカー、鶏卵問屋などに販売。日本のたまごの安定流通を支えています。

相場発表

全国のたまごの需給動向を集約し、東京・大阪・名古屋・福岡の各市場の当日相場をJA全農たまごのホームページにて発表しています。全国の鶏卵取引価格の指標として広く活用されています。

品質管理

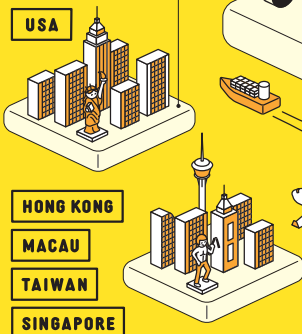
たまごの賞味期限の日付管理を行っています。また、毎年提携生産農場の衛生管理状況などを点検し、高品質で安心できる商品提供をサポートしています。

液卵製造・販売

自社工場や提携工場で製造した液卵を、食品メーカー（パン・お菓子・玉子焼など）やスーパーの総菜、外食産業など業務用のお客様に向けて販売しています。

輸出

販路拡大に向けてたまごの海外輸出に力を入れています。日本のたまごは、安全性の高いたまごとして香港・マカオなどアジア圏を中心に家庭向けの消費を伸ばしています。



外食販売

牛丼・ハンバーガー・ファミレスチェーンなどの外食産業に向けて業務用のたまごを販売しています。

スイーツショップ

直営のスイーツショップTAMAGO COCCOでは、パティシエがたまごや国産の原料にこだわったお菓子を製造・販売。たまごの美味しさを直接お客様へ届けています。また、パティシエは業務用たまごの商品開発やレシピ開発・食育活動などにも関わっています。

たまご加工品製造

自社工場や提携工場、ゆでたまごや温泉たまごを製造し、全国の量販店などへ販売しています。グループ会社の京食品では玉子焼などのたまご加工品を製造・販売しています。



JA全農たまご株式会社

たまごの栄養・味・調理特性・文化など、知られざる「たまごのチカラ」を紹介。
紹介ページはこちら▶



「食」
に関わること
すべてが、
私たち
JAグループの
仕事です。



JA全農ミートフーズ株式会社の事業

日本の農業と農家を、さまざまな事業や活動でサポートしているJAグループ。
その中でJA全農ミートフーズ株式会社の事業は、
畜産農家が育てた畜産物を新鮮な状態で、安心して食べていただけるよう、
消費者にお届けすることや畜産農家のために貢献することです。



JA全農ミートフーズ株式会社

〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル2階 TEL03-5783-9711 FAX03-5783-9716

農業高校で飼育された和牛の肉質と日頃の取り組み内容を競う全国大会

One for all All for 和牛!



開催日

2024

11月18



19



1日目

和牛飼育体験発表・

2日目

和牛枝肉共励会

開催場所

東京都中央卸売市場食肉市場・

品川グランドホール (THE GRAND HALL)



第7回の和牛甲子園ホームページ
大会の様子はこちらでも
ご覧いただけます。



和牛甲子園について

和牛甲子園は、和牛を飼育する全国の農業高校の生徒、高校球児ならぬ「高校牛児」たちの大会です。育てた和牛の肉質と、飼育に関する日頃の取り組み内容を競います。全農は(1)将来の担い手候補である高校生の就農意欲の向上(2)日本各地で同じ志を持つ高校生同士のネットワークを創出し、意欲と技術の向上を図る—の2点を目的に、和牛甲子園を開催しています。



※ 高校牛児とは、JA全農が応援する全国の農業高校で和牛を飼う生徒のことです。

史上最多！全国25道府県41校59頭がエントリー！

No.	第7回参加校	No.	第7回参加校
1	北海道 北海道倶知安農業高等学校	22	岐阜県 岐阜県立加茂農林高等学校
2	北海道 酪農学園大学附属との森三愛高等学校	23	岐阜県 岐阜県立飛騨高山高等学校
3	青森県 青森県立三本木農業高等学校	24	愛知県 愛知県立渥美農業高等学校
4	岩手県 岩手県立水沢農業高等学校	25	滋賀県 滋賀県立長浜農業高等学校
5	岩手県 岩手県立盛岡農業高等学校	26	京都府 京都府立農芸高等学校
6	岩手県 岩手県立花巻農業高等学校	27	島根県 島根県立出雲農林高等学校
7	宮城県 宮城県農業高等学校	28	岡山県 岡山県立瀬戸南高等学校
8	福島県 福島県立津農林高等学校	29	広島県 広島県立西条農業高等学校
9	福島県 福島県立磐城農業高等学校	30	広島県 広島県立庄原農業高等学校
10	茨城県 茨城県立水戸農業高等学校	31	山口県 山口県立大津緑洋高等学校
11	栃木県 栃木県立宇都宮白根高等学校	32	福岡県 福岡県立糸島農業高等学校 ※初
12	栃木県 栃木県立鹿沼南高等学校	33	大分県 大分県立久住高原農業高等学校 ※初
13	栃木県 栃木県立栃木農業高等学校	34	佐賀県 佐賀県立唐津南高等学校
14	栃木県 栃木県立那須拓陽高等学校	35	長崎県 長崎県立諫早農業高等学校
15	栃木県 栃木県立真岡北陵高等学校	36	熊本県 熊本県立南陵高等学校
16	栃木県 栃木県立矢板高等学校	37	宮崎県 宮崎県立高鍋農業高等学校
17	群馬県 群馬県立利根実業高等学校	38	鹿児島県 鹿児島県立市来農芸高等学校
18	群馬県 群馬県立吾妻中央高等学校	39	鹿児島県 鹿児島県立鶴翔高等学校
19	神奈川県 神奈川県立中央農業高等学校	40	鹿児島県 鹿児島県立鹿屋農業高等学校
20	富山県 富山県立中央農業高等学校	41	鹿児島県 鹿児島県立曾於高等学校
21	岐阜県 岐阜県立大垣養老高等学校		

主催 **全農** 全国農業協同組合連合会 (JA全農)

後援 文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、
独立行政法人家畜改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、
東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、
日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農場協会、
公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、
JA 全農ミートフーズ株式会社

【お問合せ】JA全農 畜産総合対策部 ☎03-6271-8216

